

之ヲ受理シタル場合ニモ亦タ檢事ハ被告人ニ對シ呼出狀ヲ發スヘキ  
 ヲトテ請求スヘキモノナルヤ否ヤ夫ノ第百八十四條ハ不告不理ノ原  
 則ニ例外ヲ設ケタルモノニシテ公訴行用權ニ關スル原則則チ公訴ハ  
 檢事之ヲ行フトノ規則ニ對スルノ例外ニアラサレハ設令ヒ附帶ノ犯  
 罪事件ト雖モ公訴行用ノ權ハ檢事ニ屬スルモノトセサルヲ得ヌ而テ  
 被告人呼出ノ請求ハ其行用ノ一所爲ナレハ附帶犯罪ノ被告事件ニ於  
 テモ亦タ檢事ハ被告人ニ對シ呼出狀ヲ發スヘキユトテ請求スヘキモ  
 ノト云ハサルヲ得ヌ加之ナラス本條ニハ何レノ場合ニ於テモト云ヒ  
 廣汎ナル文詞ヲ用ヒアルヲ以テ則チ本問場合モ亦タ本條ニ包含セル  
 モノト解スルハ決シテ不當ニアラサルナリ

**第二百十四條 呼出狀ニハ呼出ヲ受ク可キ者ノ氏  
 名、職業、住所、出頭ノ日時、場所及ヒ被告事件ヲ記**

載シ且被告事件違警罪又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪  
 ナルトキハ代人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得可  
 キ旨ヲ記載ス可シ

若シ被告事件ノ記載ナキ場合ニ於テ被告人未タ  
 其事件ニ付キ取調ヲ受ケサリシトキハ辯護準備

ノ爲メ二日ノ猶豫ヲ求ムルコトヲ得

本條ハ呼出狀ニ記載スヘキ條項及ヒ其條項ヲ遺脱シタル場合ノ制裁  
 チ定メタルモノトス而テ本條ニ依レハ呼出狀ニハ左ノ事項ヲ記載ス  
 ヘキモノトス

第一被告人ノ氏名職業并ニ其住所此記載ヲ爲スヘキ所以ハ被告人ニ  
 人違ナカラシメンカ爲ナリ

第二出頭ノ日時是レ蓋シ日時ヲ記載セサルトキハ被告人何レノ日時



ニ出頭スヘキヤ之ヲ知ルニ由ナキヲ以テナリ  
 第三場所是又々其記載ナキトキハ何レノ場所ニ出頭スヘキヤ之ヲ知  
 リ得サルヲ以テナリ  
 第四被告事件、此記載ヲ要スル所以ハ被告人ヲシテ何故ニ法廷ニ出頭  
 スルカヲ知ラシメ以テ其辯護ノ準備ヲ爲サシメシカ爲メナリ  
 第五被告事件違警罪又ハ罰金ニ該ルヘキ輕罪ナリト思料スルトキハ  
 代人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得ヘキ事、被告事件違警罪若クハ罰金  
 ノ刑ニ該ルヘキ輕罪ナルハ必ラスシモ被告本人ヲシテ出頭セシム  
 ルノ要ナキモノナリ是ヲ以テ此場合ニ於テハ法律ハ被告人ニ代人ヲ  
 出頭セシムルコトヲ許セリ故ニ呼出狀ニハ代人ヲシテ出頭セシムルコ  
 トヲ得ル旨ヲ記載スヘキモノトス是レ蓋シ被告人ノ利益ノ爲メ代人  
 ヲ許シタル趣旨ヲ貫徹セシメシカ爲ナリ

若シ呼出狀ニ本條第一項ノ事項ヲ記載セサルトキハ其制裁如何  
 右事項ノ記載ナキ呼出狀ハ適法ノモノニアラサレハ其送達ヲ受ケタ  
 ルモノハ其受領ヲ拒絕シ得ルハ辯明ヲ俟タサル所ナリトス而テ若シ  
 被告人ニ於テ異議ナク之ヲ受取タルトキハ如何此場合ニ於テハ記載  
 ナキ事項ノ性質ニ因リ其制裁ヲ異ニス  
 第一被告事件ノ記載ナキトキ、此場合ニ於テハ被告人カ已ニ其事件ニ  
 付取調ヲ受ケタルト否トニ因リ其制裁ヲ異ニス(甲)其事件ニ付未ダ一  
 回モ取調ヲ受ケサル場合ニハ被告人ハ辯護準備ノ爲メ猶ホ出廷當日  
 ヨリ二日間ノ辯論延期ヲ請求シ得ルモノトス其理由ハ前段解説セシ  
 如ク呼出狀ニ被告事件ヲ記載スルハ被告人ヲシテ其事件ノ何タルヲ  
 知ラシメ豫メ其辯護ニ備ヘシメシカ爲ナリ然ルニ其事件ノ記載ナキ  
 トキハ被告人ハ豫メ其準備ヲ爲スニ由ナク更ラニ其猶豫ヲ與フルニ



アラサレハ立法者カ被告事件ノ記載ヲ命シタル精神ヲ達シ得サルヲ以テナリ(乙)然レモ被告人已ニ其事件ニ付取調ヲ受ケタルトキハ右ノ猶豫ヲ請求スルノ權利ナキモノトス蓋シ立法者カ前場合ト規定ヲ異ニシタル所以ハ此場合ニ於テハ被告人ハ已ニ其事件ニ付取調ヲ受ケタルヲ以テ其事件ノ辯護方法等ハ前取調ノ際已ニ十分ノ準備ヲ爲シタルモノトシ更ニ猶豫ヲ與フルノ要ナキモノト看認メタルニ因ルナラン

第二受取人ノ氏名職業住所ノ記載ナキトキ被告人ノ呼出狀ニ氏名職業住所ノ記載ナキニ拘ハラス之ヲ受取タル者ハ完備ノ呼出狀ヲ受取タルトキト同シク其記載ノ日時ニ其指示ノ場所ニ出頭スヘキ義務アルモノトス何トナレハ呼出狀ノ欠点ハ單ニ其受取人ノ何人タルヲ明示セサルニ在リ然ルニ其受取人ハ自己タルコトヲ認メ之ヲ受領シ自

ラ其欠点ヲ補充シタルヲ以テナリ

第三出頭ノ日時若クハ其場所ノ記載ナキトキ呼出狀ニ出頭ノ日時若クハ其場所ノ記載ナキトキハ縦令其指名者ニ於テ之ヲ受取タリシト雖モ受取人ハ出頭スルノ義務ナキモノトス何トナレハ指名者ニ於テ異議ナク其呼出狀ヲ受領セシト雖モ其受領ノ事實ニ因リ其出頭ノ日時若クハ場所ヲ了知セルモノト推測シ得ヘキニ非サルヲ以テナリ  
 第四呼出狀ニ代人ヲシテ出頭セシメ得ヘキ旨ノ記載ナキトキ假令ヒ呼出狀ニ代人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得ヘキ旨ノ記載ヲ欠キタリト雖モ異議ナク之ヲ受取タルトキハ其受取人ハ適法ノ呼出狀ヲ受ケタルモノト看做スヘキモノトス何トナレハ違警罪又ハ單ニ罰金ニ該ルヘキ輕罪ナルトキハ代人ヲシテ出頭セシメ得ルコトハ法律ノ允許スル所ナリ而テ法律ハ人民ノ周子ク知ルモノト看做スヘキヲ以テ



被告人カ右ノ記載ナキ呼出狀ヲ異議ナク受取タルハ必竟法律ノ規定ヲ承知セルニ因リ自ラ呼出狀ノ欠点ヲ補充シタルモノト看做スヘキヲ以テナリ故ニ第一ノ場合ニ於テハ被告人ハ出頭ノ上猶豫ヲ求メ辯論ヲ拒ミ得ルモノニテ第三ノ場合ニ於テハ被告人出頭セサルモ裁判所ハ闕席ニテ審理判決ヲ爲シ得サルモノトス之ニ反シテ第二及ヒ第四ノ場合ニ於テハ被告人出頭セサルトキハ闕席ニテ審理判決シ得ルモノトス

第二百十五條 呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クト

モ二日ノ猶豫アル可シ

本條ハ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間ニ存セシムヘキ猶豫期間ヲ定メタルモノニテ其規定ニ因レハ其間少クトモ二日間ノ猶豫ヲ與フヘキモトス而テ其ノ理由ハ第一被告人ニ辯護ノ準備ヲ爲サシムルニ在リ第

二被告人ニ家政上ノ處辨ヲ爲サシメントスルニ在リ

本條ニ所謂ユル送達トハ呼出狀發送ノ時期ヲ指シタルモノニアラス其被告人ノ手ニ着シタル時期ヲ指タルモノトス

若シ其送達ト出頭トノ間二日ノ猶豫ヲ與ヘサル場合ニハ被告人ハ其不足ノ日時間ノ猶豫ヲ求メ得ルモノナリ但シ其日時ノ計算ハ凡テ本法第十五條ノ規定ニ從フヘキモノトス

第二百十六條 判事ハ豫審ヲ經サル被告事件急速

ヲ要スルトキハ公判ニ取掛ル前檢證處分ヲ爲ス

ユトヲ得此場合ニ於テハ檢事其他訴訟關係人ノ

立會ヲ要セス

本條ハ檢證處分ニ關スルノ規定ナリトス

抑モ裁判所ハ單ニ爭訟ヲ判斷スルモノナレハ自ラ進テ証據ノ蒐集ヲ



爲サ、ルチ原則トス然レモ刑事ノ裁判ハ特別ノ理由則チ刑事ノ處罰  
 ハ素ト非常ノ事ナレハ真正ノ事實ヲ得ル爲メニハ多少裁判所チシテ  
 証憑蒐集ヲ爲サシムルモ敢テ公益ニ反スル處ニアラス從テ又々條理  
 ニ背戾スル所ニ非サルチ以テ我刑事訴訟法ニ於テハ或事件ニ付テハ  
 特ニ豫審判事チシテ証據蒐集ノ處分ヲ爲サシメ又々公判裁判所ニ於  
 テモ必要ナリトスルトキハ進テ其蒐集ヲ爲シ得ヘク從テ又々檢証處  
 分ヲ爲シ得ヘキユトテ允許セリ然レモ普通ノ規則ニ因ルトキハ第一  
 檢証處分ニハ檢事其他訴訟關係人ノ立會アルチ普通トス第二公判廷  
 開始ノ後ナラサルヘカラス故ニ普通ノ規則ニ因ルトキハ公判ニ取掛  
 ル前ニ於テ訴訟關係人ノ立會ヲ要セスシテ檢証處分ヲ爲スユト能ハ  
 サルモノナリ然ルニ豫審ヲ經サル被告事件ニ付急速ヲ要スル場合ニ  
 モ猶ホ普通規則ニ因リ檢証處分ヲ爲スヘキモノトスルハ証憑蒐集ス

ルノ虞アリ故ニ本條ニ於テ區裁判所ハ普通ノ規則ニ因ラス檢証處分  
 チ爲シ得ル旨ヲ規定セリ

而テ本條ニ因リ區裁判所ニ於ヒテ檢証處分ヲ爲スニハ左ノ條件ヲ要  
 ス

第一豫審ヲ經サル被告事件ナルユト、故ニ若シ被告事件豫審ノ取調ヲ  
 經タルモノナルトキハ檢証處分ヲ爲ス能ハス何トナレハ被告事件豫  
 審ヲ經タルトキハ急速ヲ要スル檢証處分ハ已ニ豫審判事ニ於テ之ヲ  
 爲タルモノト看做シ公判ニ至リテハ最早急速ヲ要スル檢証處分アラ  
 サルモノト認ムヘキチ以テナリ

第二急速ヲ要スルユト、若シ急速ヲ要セサルトキハ他日公判開始ノ後  
 ニ於テ普通ノ規則ニ從ヒ檢証處分ヲ爲スモ敢テ遲キニアラサレハナ  
 リ而テ其急速ヲ要スヘキヤ否ヤハ裁判所ノ認定ニ一任スルモノトス



第二百十七條 證人ハ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間

少クトモ二十四時ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ  
又呼出ヲ受ケスシテ出頭シタル者ト雖モ異議ノ  
申立ナキトキハ裁判所ニ於テ證人トシテ其供述  
ヲ聽クコトヲ得

本條ハ証人ノ呼出狀并ニ其訊問ニ關スル規則ナリ  
証人ハ其氏名住所及ヒ職業又々出頭ノ場所日時及ヒ呼出ニ應セサル  
トキハ罰金ヲ言渡シ且ツ勾引スルコトアルヘキ旨ヲ記シタル呼出狀  
ヲ送達シ且ツ其呼出狀ノ送達ト其出頭スヘキ時刻ノ間少クトモ二十  
四時ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出スヘキモノトス曩キニ說明セシ如ク被告  
人ヲ呼出スニハ二日間ノ猶豫ヲ與フヘキモノナリ然ルニ証人呼出ニ  
ハ其猶豫時間ヲ二十四時ニ減縮シタル所以ノモノハ蓋シ証人ハ單ニ

其聞見シタル事實ヲ証言スルノミニテ其爲メ準備ヲ爲スヲ要スルモ  
ノニアラス唯々其家事若クハ職務ノ爲メ多少ノ猶豫ヲ與フヘキモノ  
ニ過キサレハナリ但シ時ヲ計算スルニハ第十五條第十六條ノ規定ニ  
從フヘキモノトス又々嘗テ說明セシ如ク先ツ普通ニ証人トシテ訊問  
スルハ正式ノ呼出ヲ受ケ出頭シタル者ニ限ルモノトス然レモ呼出ヲ  
受ケスシテ出頭シタル者ト雖モ訴訟關係人ヨリ異議ノ申立ナキトキ  
ハ之ヲ証人トシテ訊問スルニ妨ケナキモノナリ

本條異議ノ申立ヲ爲シ得ヘキ者ハ果シテ何人ナルヤ或學者ハ檢事被  
告人及ヒ証人ノミ本條異議ノ申立ヲ爲シ得ヘシト云フモ余ハ之ニ異  
ナリ檢事民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ノミ本條異議ノ申立ヲ爲  
シ得ルモノニテ訊問ヲ受クヘキ証人自身ハ其訊問ニ付キ異議ヲ申立  
ツル能ハサルモノト信ス何トナレハ畢竟法律カ裁判所ノ呼出ヲ受ケ



スシテ出頭シタル証人ノ訊問ニ對シ異議ノ申立ヲ許ス所以ノモノハ其証人ハ或訴訟關係人ヲ利シ若シクハ害セシ爲メ故テニ出頭シ虚偽ノ供述ヲ爲スノ虞アルニ因ル故ニ其異議ノ申立ヲ許スハ訴訟關係人ノ利益ヲ計リタルモノニテ決シテ証言セシ爲メニ呼出ヲ受ケスシテ出頭シタル証人ノ利益ヲ計リ其規定ヲ設ケタルモノニアラス既ニ異議ノ申立ヲ許ス精神ニシテ右ノ如クナラハ証人自身ニ異議ノ申立ヲ許スノ理由アラサルヤ明ナリ或ハ言ハシ証人ハ証言ノ準備ヲ爲サ、ルヲ以テ其猶豫ヲ與ヘス訊問スルトキハ異議ヲ申立テ得ヘシト是又採ルニ足ラサルノ言ナリ何トナレハ証人ニ二十四時ノ猶豫ヲ與フル所以ハ証言ノ準備ノ爲メニアラス出廷中ノ家事ヲ豫メ處辨セシメンカ爲ナリ然ルニ本問証人ハ現ニ自ラ裁判所ニ出頭シタルヲ以テ其出廷中ノ家事ハ已ニ之ヲ處辨シ了リタルモノト認ムヘキヲ以テナリ

第二百十八條 判事ハ先ツ被告人ノ氏名、年齢、身分、

職業、住所、出生ノ地ヲ問フ可シ

檢事ハ被告事件ヲ陳述ス可シ

第二百十三條乃至前條マテハ公判開始ニ至ル迄ノ手續則チ公判準備手續ニ關スルノ規定ニシテ本條以下第二百二十五條マテハ專ラ公判手續ニ關スルノ規定ナリトス

區裁判所判事ハ被告事件ノ公判開始ニ際シ第一着ニ被告人ニ對シ其氏名年齢身分職業住所及ヒ出生ノ地ヲ問フヘキモノトス是レ出頭シタル被告人ハ呼出狀ニ依リ呼出タル被告人ニ相違ナキヤ否ヤ再犯ニ係ルナキヤ否ヤ若クハ刑法上ノ宥恕ヲ與フヘキ者ニアラサルヤ等ヲ確實ニセシカ爲メナリ

而テ呼出狀ニ依リ呼出タル被告人ニ相違ナキニト分明セルトキハ檢



事ハ被告事件ノ事實即チ犯罪ノ顛末及ヒ其情況ヲ陳述セサルヘカラ  
ス何トナレハ口頭辯論主義ヲ採用シタル我刑事訴訟手續ニ於テハ檢  
事ノ口頭陳述ナケレハ裁判所ハ未タ被告事件ヲ知ラサルモノト云ハ  
サルヘカラス而テ之ヲ知ラサレハ其審判ヲ爲スニ由ナケレハナリ又  
タ檢事ハ其陳述スル事實ノ虛偽ナラサル証明ヲ爲スヘキハ勿論ナリ  
トス

第二百十九條 判事ハ被告事件ニ付キ被告人ヲ訊

問ス可シ

必要ナル調書其他證憑書類ハ書記ヲシテ朗讀セ  
シメ又証人ノ供述ヲ聽キ其他証憑ノ取調ヲ爲ス  
可シ

若シ被告人ノ自白アリタル場合ニ於テ檢事、民事

原告人ノ異議ナキトキハ他ノ證憑ヲ取調フルニ  
及ハス

本條ハ被告事件ノ訊問并ニ証憑調ニ關スル規定ナリ  
判事ハ前條ニ從ヒ被告人ノ氏名年齢等ノ訊問ヲ終ヘ檢事ニ於テモ亦  
タ被告事件ハ陳述ヲ了ヘタルトキハ判事ハ被告人ニ對シテ檢事ノ陳  
述セル如キ事實アリシヤ否ヤニ付訊問スヘキモノトス是レ一ハ檢事  
ノ陳述ニ係ル事實ノ眞否ヲ審査シ一ハ檢事ノ論告ニ對シ被告人ヲシ  
テ十分辯護辯駁セシメシカ爲メナリ而テ被告人ニ於テ被告事件ノ全  
部ヲ承認シ則チ自身ニ檢事ノ陳述ニ係ル行爲若クハ不行爲アルコト  
ヲ自白シタル場合ニ於テ檢事民事原告人ノ異議ナキトキハ他ノ證憑  
ヲ取調フルニ及ハス單ニ其自白ニ因リ刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ヘキ  
ナリ然レモ夫ノ自白ナルモノハ表面上完全ナル証憑力ヲ有スルモノ



、如シト雖モ之ヲ實際ニ徴スレハ或ハ無賴不具ノ徒外ニ在テハ衣食住ニ困苦スルノ余リ寧ロ獄中ニ在リテ平安ノ衣食住ヲ爲スニ若カスト決心シ或ハ又々孝誼ノ心ニ厚キノ輩其父母親戚若クハ朋友ノ犯罪ヲ蔽ハンカ爲メ不實ノ自白ヲ爲スナキヲ保スヘカラス故ニ自白ハ必ラスシモ眞事實ヲ發露スルモノト云フヘカラス依テ裁判所ニ於テハ必ラスシモ自白ヲ採ルニ及ハス其自信ヲ措クニ足ラサルモノトスルトキハ檢事又ハ民事原告人ノ請求ニ因リ或ハ又職權ヲ以テ他ノ証憑ノ取調ヲ爲シ其証憑ニ因リ心証ヲ容ツクリ以テ裁判ヲ爲シ得ルモノトス

本條ニ所謂ニル自白トハ被告人カ檢事ノ陳述ニ係ル事實アリト自陳スルヲ以テ足レリトセハ必ラス其自陳ハ自由任意ニ出タルモノナラサルヘカラス夫ノ拷問等ノ手段ニ因リ強テ被告事件ヲ自認セシメタル如キハ是ヲ自白ト云フヲ得サルモノナリ

自白ハ必ラス本人自カラ之ヲ爲スヲ要セス代人ヲ以テ之ヲ爲スヲ得ルモノナリ然レモ特別委任ナキ代人ノ爲シタル自白ハ被告人ニ對抗シ毫モ效力ヲ有セサルモノトス何トナレハ代人ハ通例利益ノ点ニ於テ委任者ヲ代表スルモノニテ不利益ノ点ニ之ヲ代表スルモノニアラサルカ故ニ普通ノ代理委任ニテハ委任者ニ不利益ナル自白ヲ爲スノ特別委任ヲ受ケタルモノト認ムヘカラサルヲ以テナリ而テ其特別受權ハ必ラス被告本人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ証明スヘキモノトス是レ蓋シ區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付テノ自白ハ本案ニ付重大ノ效力ヲ及ホスモノナレハナリ又々被告人ノ法律上ノ代理人ト雖モ特別委任ナキ以上ハ有效ニ被告人ニ代リ自白スル能ハサルモノトス



若シ被告人自白セサルトキハ裁判所ハ其事件ニ付必要ナル調書(例ヘ  
ハ司法警察官檢事豫審判事ノ作成セル調書等)并ニ其他証憑書類ハ書  
記ヲシテ之ヲ朗讀セシメ又々証人訊問等凡テ一切ノ証憑取調ヲ爲ス  
ヘキモノトス又被告人カ一分ノ自白ヲ爲シタルトキモ亦タ同シク被  
告人カ自白セサル点ニ付諸証憑ノ取調ヲ爲スヘキモノトス

第二百二十條 証憑調濟ノ後檢事ハ事實及ヒ法律

適用ニ付キ意見ヲ陳述ス可シ

被告人及ヒ其辯護人ハ答辯ヲ爲スユトヲ得

檢事、被告人及ヒ辯護人ハ迭ヒニ辯論ヲ爲スユト

ヲ得但辯論ノ最終ニハ被告人又ハ辯護人ヲシテ

供述セシム可シ

本條ハ被告事件ノ辯論ニ關スル規定ナリ

前條ノ規定ニ從ヒ証憑調完結後ハ檢事ハ先ツ証憑ニ據リ事實ノ存否  
ニ付意見ヲ陳述スヘキモノトス例ヘハ何々ノ証憑ニ據レハ何々ノ事  
實アルユト明瞭ナリト陳述スル等ノ如シ而テ又々事實ニ付意見ヲ述  
ヘタル後ハ法律ノ適用ニ付意見ヲ陳述スヘキモノトス例ヘハ被告人  
ノ行爲若クハ不行爲ハ何々ノ法律ニ依リ某ノ刑ニ處スヘキモノト陳  
述スルカ如シ而テ本條ニハ事實及ヒ法律適用ニ付意見ヲ陳述スヘシ  
トアルヲ以テ同時ニ事實ト法律トノ意見ヲ陳述スヘキモノ、如シト  
雖モ事實ハ即チ擬律ノ基本ナルヲ以テ事實確定セサレハ從テ法律ノ  
適用ヲ爲シ能ハサルニ因リ先ツ事實ニ付キ意見ヲ陳述シ其事實ヲ確  
認シタル後ニ非サレハ法律ノ適用ニ付キ意見ヲ陳述シ得ヘキ條理ナ  
シ故ニ檢事ハ必ラスシモ同時ニ事實ト法律ノ適用トニ付キ意見ヲ陳  
述スルヲ要セス反テ先ツ事實ニ付意見ヲ述ヘ次ニ法律ノ適用ニ付意



見テ陳フルヲ順序ノ得タルモノトス  
 本條法律ノ適用トハ單ニ刑ノ適用ヲ指タルモノニアラス其免訴無罪  
 又ハ管轄違等ニ關スル法條ノ適用ヲモ包指シタルモノトス而テ有罪  
 ノ場合ニ檢事カ法律ノ適用ニ付キ意見ヲ陳フルニハ單ニ適用スヘキ  
 法律ノ正條ヲ指示スルヲ以テ足レリトスル乎或ハ又タ處罰スヘキ刑  
 期ヲモ猶ホ指示スヘキモノナルヤ否ヤ例ヘハ何々ノ所爲ハ刑法第何  
 條ヲ適用スヘキモノト云フヲ以テ足レリトスル乎或ハ又タ刑法第何  
 條ヲ適用シ重禁錮何年若クハ罰金何圓ニ處スヘキモノナリト陳述ス  
 ヘキモノナルヤ否ヤ蓋シ法律ノ適用トハ法律ト事實トヲ適合セシム  
 ルモノナレハ單ニ法條ヲ指示スルノミオラス何年何月ノ重禁錮若ク  
 ハ何圓ノ罰金ニ處スヘキモノト陳述スヘキヲ當然ナリトス  
 檢事ニ於テ事實及ヒ法律ノ適用ニ付キ意見ヲ陳述シ終リタルトキハ

被告人及ヒ辯護人ハ其意見ニ對シ辯解ヲ爲スエトテ得ヘク又タ檢事  
 被告人及ヒ辯護人ハ迭ヒニ辯論ヲ爲スエトテ得ルモノトス而テ假令  
 ヒ檢事ニ於テ管轄違免訴又ハ無罪ノ意見ヲ陳述シタルトキト雖モ猶  
 ホ被告人及ヒ辯護人ハ辯論ヲ爲シ得ルヤ言テ候ダス何トナレハ檢事  
 ノ陳述ハ必ラスシモ判事ノ意見ヲ左右シ得ルモノニアラサレハ檢事  
 ノ陳述ヲ補充シ判事ノ心証ヲ動カスハ被告人ノ利益ナレハナリ  
 又タ被告人ヲシテ十分ニ辯護權ヲ行用セシメ遺憾ナカラシムル爲ニ  
 ハ被告人又ハ其辯護人ヲシテ檢事ノ意見ニ對シ答辯シ若クハ檢事ト  
 迭ニ辯論スルユトテ許スヲ以テ足レリトセス其辯論ヲ終結スルニ際  
 シテハ必ラス被告人若クハ辯護人ヲシテ最終ニ供述ヲ爲サシメサル  
 ヘカラス是レ本條第三項但書ノ規定アル所以ナリ  
 本條ニ於テ一ノ注意スヘキ点アリ則チ一旦被告人ノ訊問及ヒ証憑調



ヲ終へ辯論ニ取掛リタルトキ又ハ辯論終結後ト雖モ裁判言渡ナキ間ハ裁判所ニ於テ猶ホ事實ノ訊問及ヒ証憑ノ取調ヲ爲スヲ必要ト思料スルトキ若クハ訴訟關係人ノ請求アルトキハ更ラニ被告人又ハ証人等ノ訊問ヲ爲シ辯論ヲ再開スルモ敢テ妨ケナキコト是ナリ何トナレハ凡ソ事實ハ判決ノ基本ナレハ適實ノ判決ヲ爲サンニハ必ラス其事實ヲ明瞭ナラシメサルヘカラス而テ事實ノ訊問ヲ終リ証憑調ヲ爲シ亞テ事實ノ辯論ヲ爲シ其辯論後法律適用ニ付辯論ヲ爲スヘキハ審査上ノ順序ナリト雖モ其順序ノ爲メ事實ヲ曖昧ニ付シテ判決ヲ爲サシムル如キハ形式ニ拘泥シ其實ヲ誤ルモノニテ固ヨリ法律ノ趣旨ニ背馳スル所ナレハナリ

第二百二十一條 公訴ニ付キ辯論終リタル後民事

原告人ハ被害ノ事實ヲ證明シ且私訴ニ付キ其請

求スル所ヲ陳述ス可シ

被告人、辯護人及ヒ民事擔當人ハ答辯ヲ爲スコト

ヲ得

本條ハ私訴ノ審査ニ係ル規定ナリ

私訴ハ公訴ニ附帶ノ訴訟ナレハ公訴ニ先チ私訴ノ言渡ヲ爲ス能ハサルコトハ第二百條ニ於テ余カ既ニ解説セシ所ノ如シ而テ其審査モ亦タ其判決言渡ニ於ケルト同一ノ理由ニ依リ公訴ノ審査終結後ニアラザレハ之ヲ爲ス能ハサルモノトス然レモ其審査ノ手續ハ公訴ノ審査手續ト大差アル筈ナケレハ民事原告人ハ第一被害ノ事實ヲ陳述シ其舉証ヲ爲サルヘカラス第二法律ニ從ヒ其請求スル所ヲ陳述セサルヘカラス例ヘハ贖物ノ返還損害ノ賠償等ノ請求及其理由ノ陳述ノ如キ是ナリ而テ被告人辯護人及ヒ民事擔當人ハ其答辯ヲ爲シ其責任ノ



有無輕重ヲ辯論シ得ルモノトス  
 本條ニ依レハ公訴ト私訴トノ審査ハ之ヲ各別ニ爲スヘキナ原則ト爲  
 スト雖モ若シ檢事其他訴訟關係人ニ於テ異議ナキトキハ裁判所ハ便  
 宜ノ爲メ公訴私訴ノ審査ヲ同時ニ爲スモ敢テ妨ケナキモノトス何ト  
 ナレハ之ヲ合併審理スルトキハ當事者并ニ裁判所ニ於テ利スルコト  
 アルモ若シ之ニ反シテ公訴私訴ハ必ラス各別ニ之ヲ審査スヘキモノ  
 トセハ共ニ不利ヲ被ムルコトアルヘキヲ以テナリ例ヘハ民事原告人  
 ハ公訴ノ審査ニ於テ參考トシテ加害ノ原因タル事實ヲ供述シ私訴ノ  
 審査ニ於テモ亦タ同一ノ陳述ヲ爲スヲ要シ徒ラニ二重ノ手續ヲ爲ス  
 ヘキ如キ是ナリ

若シ被告人ニ於テ民事原告人ノ請求ヲ認諾スルトキハ別ニ証憑ノ取  
 調ヲ爲スヲ要セス認諾ニ基キ被告人ニ對シ敗訴ノ言渡ヲ爲シ得ルモ  
 ノトス然レモ被告人單ニ加害ノ事實ヲ自白スルモ其請求ヲ認諾セザ  
 ルトキ例ヘハ損害ヲ生シタル事實アルモ其損害ハ既ニ賠償セシトガ  
 或ハ其額過重ナリト主張スル場合ニ於テハ裁判所ハ証憑ノ取調ヲ爲  
 シ証憑ニ據リ裁判セサルヘカラス

余ハ茲ニ自白ト認諾トノ異ナル点ニ付キ一言シ置カシニ自白トハ其  
 事實ノアリシトチ自陳スルモノニテ必ラスシモ義務ノ存在ヲ認ムル  
 モノニアラス故ニ例ヘハ加害ノ事實ハ存在セシモ自己ノ權利行使ノ  
 結果ナレハ損害賠償ノ責ナシト乎或ハ又タ原告人ハ其權利ヲ拋棄シ  
 タリト主張スル如キ是ナリ認諾トハ之ニ異ナリ其義務ノ程度ト其履  
 行トヲ認メ民事原告人ノ請求ノ至當ナルヲ肯諾スルヲ云フ例ヘハ加  
 害ノ事實ヲ自白シ併セテ損害賠償ノ義務ト其履行ノ責アルコトヲ認  
 ムル如キ是ナリ



第二百二十二條 被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬セ  
サルトキハ判決ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲ス可シ  
若シ被告人勾留ヲ受ケタルトキハ放免ノ言渡ヲ  
爲ス可シ

本條ノ場合ニ於テ勾留ヲ要スルモノト認メタル  
トキハ前勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ勾留狀ヲ發シ其  
事件ヲ檢事ニ交付ス可シ

本條ハ管轄違ノ言渡ニ關スル規定ナリ

區裁判所ハ其管轄ニ屬スル犯罪ノ公訴ニアラサレハ之ヲ受理スル能  
ハサルハ第二百十二條ノ規定スル所ナリ然ルニ若シ誤テ其管轄ニ屬  
セサル被告事件ヲ受理シタルトキハ如何區裁判所ハ本條ニ從ヒ管轄  
違ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス而テ被告人勾留ヲ受ケタルトキハ管轄

違ノ言渡ト同時ニ放免ノ言渡ヲ爲スヘキナリ何トナレハ其管轄ニア  
ラサル言渡ヲ爲ス以上ハ其以前ニ爲シタル手續ハ一切無効ニ歸セシ  
ムヘキヲ以テナリ

然レモ管轄違ノ言渡ヲ爲スニ當リ犯罪ノ証憑明確ニシテ若シ被告人  
ヲ放免セハ逃亡若クハ証憑湮滅ノ恐アルコトアリ此場合ニ於テハ區  
裁判所ハ其事件ニ付テハ管轄違ノ言渡ヲ爲スニ拘ハラス前以テ勾留  
狀ヲ發シアルトキハ之ヲ存續シ未ダ發シアラサルトキハ新タニ之ヲ  
發スルコトヲ得ルモノトス而テ立法者カ此特別權限ヲ區裁判所ニ付  
與シタル所以ハ他ナシ裁判管轄ニ關スル規則ノ履行即チ訴訟手續ノ  
爲メ兇徒ヲシテ逃亡又ハ証憑湮滅ニ因リ責罰ヲ免レシムルハ決シテ  
立法ノ趣旨ニアラサレハナリ然レモ本條ニ依リ區裁判所判事カ新タ  
ニ勾留狀ヲ發スルハ遅クトモ判決言渡ト同時ナラサルヘカラス何ト



ナレハ一旦管轄違ノ言渡ヲ爲シタル以上ハ裁判所ハ全ク其事件トノ關係ヲ離ル、ヲ以テ令狀ヲ發スルノ權限ヲ有セサレハナリ  
 本條第二項ニ因リ區裁判所判事ニ於テ必要ト認メ被告人ニ對シ發シタル前勾留狀ヲ存シ又ハ新タニ勾留狀ヲ發スルトキハ被告事件ハ之ヲ檢事ニ交付スヘキモノトス

而テ本條ニ所謂ユル檢事トハ其區裁判所ノ檢事ヲ指タルモノナルヤ或バ又タ其他ノ區裁判所若クハ地方裁判所ノ檢事ヲ指タルモノナルヤ否ヤ或論者ハ本條ニ云フ檢事トハ地方裁判所ノ檢事ヲ指タルモノナリト云フモ余ハ此說ニ從フ能ハス何トナレハ第一本條ハ區裁判所ノ公判ニ關スル規定ナルヲ以テ單ニ檢事ナル語ヲ用ヒアル以上ハ第二百十二條第二百十三條第二百十八條及ヒ第二百二十條ニ用ヒアル檢事ノ二字ト同シク其區裁判所ノ檢事ヲ指タルモノト云ハサルヘカ

テス第二若シ地方裁判所ノ檢事ヲ指シタルモノトスルトキハ被告事件カ犯罪ノ種類及ヒ其刑ノ輕重ヨリ云フトキハ區裁判所ノ管轄ニ屬スト雖モ土地ノ區畫ニ因リ其區裁判所ノ管轄ニアラサルカ爲メ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニモ亦タ之ヲ地方裁判所ノ檢事ニ交付スヘキモノト言ハサルヲ得ス如斯キハ豈ニ立法者ノ精神ナラスヤ是レ余カ本條ノ檢事ナル語ハ其區裁判所ノ檢事ヲ指タルモノト云フ所以ナリ而テ其事件ノ交付ヲ受ケタル區裁判所檢事ハ第六十四條第一項ニ依リ其事件ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致スヘキモノトス  
 本條ニ付キ一ノ疑問アリ區裁判所ニ於テ或被告事件ノ辯論ニ因リ附帶ノ犯罪ヲ發見シ本件ト合併審理中其本件區裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト認メ之ニ對シ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニハ附帶犯罪ノ被告事件ニ付テモ亦タ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘキヤ否ヤ本問ニ答フル



ニハ區別ヲ爲サ、ルヘカラス第一同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人ニテ  
 數罪ヲ犯シ其一罪ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬シ他ノ一罪ハ區裁判所ノ  
 管轄ニ屬スル場合ニ先ツ其重キ犯罪ニ付キ區裁判所ニ訴起リ其事件  
 ノ辯論ニ因リ區裁判所カ他ノ一罪ヲ發見シ之ヲ合併審理中本件ニ付  
 管轄違ノ言渡ヲ爲スヘキ場合此場合ニ於テハ其附帶ノ犯罪ニ付テモ  
 亦タ管轄違ノ言渡ヲ爲サ、ルヘカラス何トナレハ犯罪ノ種類ニ因リ  
 管轄ヲ異ニスル數箇ノ犯罪ニ付同時ニ同一ノ被告人ニ對シ訴アリタ  
 ルトキハ上級ノ裁判所併セテ之ヲ管轄スヘキハ本法第二十五條第二  
 項ノ規定スル所ナリ而テ本問第一ノ場合ハ則チ正ニ同條規定ノ場合  
 ニ該當スルヲ以テ元來區裁判所ノ管轄ニ屬スル犯罪モ亦タ特別ノ規  
 定ニ因リ上級審ナル地方裁判所ノ管轄ニ專屬スルヲ以テナリ  
 第二甲乙通謀シ甲ハ東京ニ於テ罪ヲ犯シ乙ハ名古屋ニ於テ別罪ヲ犯

シ甲某靜岡區裁判所ノ管轄内ニ於テ逮捕セラレシヲ以テ之ニ對シ靜  
 岡區裁判所ニ公訴起リタル場合ニ同區裁判所ハ其辯論ニ因リ乙ノ犯  
 罪ヲ發見シ附帶犯罪事件トシテ之ヲ甲ニ係ル事件ト合併審理中甲ノ  
 犯罪ハ地方裁判所ノ權限ニ屬スルモノト認メ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘ  
 キトキ此場合ニ於テモ亦同區裁判所ハ本件ト共ニ附帶事件ニ付管轄  
 違ノ言渡ヲ爲サ、ルヘカラス何トナレハ附帶事件ノ犯罪ノ地及ヒ被  
 告人所在ノ地ハ共ニ名古屋ナリトス然ルニ靜岡區裁判所カ其事件ヲ  
 裁判シ得ルハ即チ附帶犯罪ナルカ爲メナリ而テ附帶犯罪ノ被告事件  
 ハ其本件ト運命ヲ共ニスルモノナレハ其本件ニ付裁判權ヲ有セサル  
 靜岡區裁判所ハ其附帶事件ニ付テモ亦タ當然裁判權ヲ喪失スルハ理  
 ノ當然ナレハナリ

第三同一ノ場所ニ於テ同時ニ數人ニテ數罪ヲ犯シ其内ノ一人甲ニ對



シ犯罪地ノ區裁判所ニ公訴起リ其事件ノ辯論ニ因リ乙ノ犯シタル他  
 罪ヲ發見シ附帶ノ犯罪トシテ同區裁判所ニ於テ合併審理中其本件即  
 チ甲ノ犯罪ハ東京地方裁判所ノ管轄ニ屬スルヲ發見シ之ニ對シ管  
 轄違ノ言渡ヲ爲スヘキトキ此場合ニ於テハ區裁判所ハ甲ニ係ル本件  
 ニ付テハ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘキモ附帶犯罪ナル乙ニ係ル事件ニ付  
 テハ管轄違ノ言渡ヲ爲スニ及ハサルモノトス何トナレハ本問場合ニ  
 於テハ區裁判所ハ乙ニ係ル被告事件ニ付固有ノ管轄權ヲ有スルモノ  
 ナレハ設令甲ニ係ル本件ノ犯罪ニ付裁判權ヲ有セサルモ猶ホ獨立ノ  
 被告事件トシテ乙ノ犯罪ヲ裁判シ得ルモノナレハナリ論者或ハ云ハ  
 シ甲ノ犯罪即チ本件ノ犯罪ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ  
 其地方裁判所ハ附帶ノ犯罪トシテ乙ノ犯罪ニ付テモ亦タ裁判權ヲ有  
 スルヲ以テ此場合ニ於テハ區裁判所ノ裁判權ハ地方裁判所ノ裁判權

ニ步テ讓ラサルヘカラスト若シ論者ノ言テ地方裁判所カ甲ニ係ル被  
 告事件ヲ受理シ乙ノ犯罪ヲ附帶ノ犯罪トシテ合併審理スルノ必要ヲ  
 認メ其手續ニ着手シタル場合ニ適用セハ毫モ間然スル所ナシ然リト  
 雖モ未タ地方裁判所ニ對シ甲ニ係ル被告事件ノ起訴ナキ本問場合ニ  
 之ヲ適用セントスルハ誤謬ナリト云ハサルヲ得ス何トナレハ附帶ノ  
 犯罪ニ基クノ管轄ハ本件ノ繫屬セル裁判所カ合併審理ノ必要ヲ認メ  
 タルトキニ初メテ定マルモノナレハ未タ本件ヲ管轄スヘキ裁判所カ  
 其必要ヲ認メサル本問場合ニ於テハ區裁判所ハ其固有ノ管轄權ヲ喪  
 失スルモノニアラス從テ又タ管轄違ノ言渡ヲ爲スニ及ハサルモノナ  
 レハナリ若シ本問場合ニ於テ區裁判所ハ乙ニ係ル被告事件ニ付テモ  
 亦タ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘキモノトセハ地方裁判所ニ於テ之ヲ附帶  
 ノ犯罪トシテ合併審理スルノ必要ヲ認メサルトキハ如何論者モ亦タ



元區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト云フナルヘシ然ルニ同區裁判所ハ  
 已ニ管轄違ノ言渡ヲ爲タルヲ以テ之ヲ受理スル能ハサルヲ奈何セシ  
 豈ニ奇異ノ結果ヲ見ハスニ至ラスヤ論者又々或ハ言ハシ此場合ニ於  
 テハ管轄指定ノ申請ヲ爲スヘシ畢竟管轄指定ニ關スル規定ノ設ケア  
 ルハ此等ノ場合生スルカ爲ナリト實ニ論者ノ言ノ如シ然レモ試ニ問  
 ハシ若シ論者管轄指定ノ裁判官ヲハ之ヲ孰レノ裁判所ニ管轄セシ  
 ムルノ裁判ヲ爲スヘキ乎必ラスヤ元區裁判所ヲ以テ管轄裁判所ナリ  
 トノ指定ヲ爲スヘシ果シテ然ラハ到底元區裁判所ハ始終管轄權ヲ有  
 スルモノト云ハサルヲ得ス是レ余カ第三ノ場合ニ於テハ區裁判所ハ  
 附帶事件ニ付本件ト同時ニ管轄違ノ言渡ヲ爲スニ及ハスト云フ所以  
 ナリ

茲ニ注意スヘキハ若シ區裁判所カ本件公訴ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲ス

トキハ附帶ノ私訴ニ付テハ必ラス又々管轄違ノ言渡ヲ爲サ、ルヘカ  
 ラサルユト是ナリ何トナレハ附帶私訴ハ常ニ公訴ト其成立ニ付運命  
 ナ共ニスルモノナレハナリ且ツ私訴ノ本案ニ付判決ヲ與フルハ第二  
 百二十三條及ヒ第二百二十四條ノ場合ニ限ルモノナルハ第二百二十  
 五條ノ規定ニ因リ明ナレハ公訴ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニハ私  
 訴ニ付テモ管轄違ノ判決ヲ爲サ、ルヘカヲサルヤ明ナル所ナリトス  
 猶ホ注意スヘキ点ハ管轄指定ノ裁判ニ基キ區裁判所檢事カ起訴シタ  
 ルトキハ設令ヒ犯罪ノ種類又ハ土地ノ區畫ニ因リ被告事件其管轄ニ  
 屬セサルトキト雖モ之ニ對シテハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス能ハサルユト  
 是ナリ何トナレハ指定ヲ受ケタル裁判所ハ常ニ指定ノ裁判ニ羈束セ  
 ラル、モノナレハナリ故ニ例令ハ被告事件ハ二月以上ノ重禁錮ニ處  
 スヘキ犯罪ナルトキ又々其犯罪ハ區裁判所ノ管轄地外ニ生シ且ツ被



告人ノ所在地モ其管轄内ニ在ラサルトキト雖モ之ニ對シ管轄違ノ言  
渡ヲ爲シ能ハサルモノトス

第二百二十三條 被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬シ  
且犯罪ノ證據十分ナルトキハ判決ヲ以テ法律ニ  
從ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ

本條ハ刑ノ言渡ニ關スル規則ナリトス

區裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲スニハ二箇ノ條件ヲ要ス

第一被告事件其管轄ニ屬スルコト、區裁判所ノ裁判管轄及ヒ公訴受理  
ノ條件ハ余已ニ第二百十二條ニ於テ説明セリ而テ區裁判所ハ其條件  
ヲ具備シ公訴ヲ受理シタルトキニアラサレハ刑ノ言渡ヲ爲ス能ハサ  
ルモノトス若シ其條件ノ一ヲ欠クトキハ或ハ前條ニ從ヒ管轄違ノ言  
渡ヲ爲シ或ハ又次條ニ從ヒ免訴ノ言渡ヲ爲ス可キモノナリ

第二犯罪ノ証憑十分ナルコト、抑モ社會刑罰權ハ之ヲ大ニシテハ吾人  
ノ生命之レヲ少ニシテモ亦吾人ノ自由名譽若クハ財産ヲ剝奪スル非  
常ノ權利ナレハ之ヲ行使シ以テ刑罰ヲ言渡スニハ豫シメ其權利ヲ行  
使スヘキ場合ヲ明定シ吾人ヲシテ其場合ヲ了知セシメサルヘカラス  
是レ刑法及ヒ其他罰則ノ設ケアル所以ナリ故ニ如何ナル行爲若クハ  
不行爲アリト雖モ其行爲不行爲ニシテ刑法及ヒ其他ノ罰則ニ背反セ  
サル以上ハ之ヲ指シテ犯罪ト云フヘカラス而テ又設例ヒ實際罰則ニ  
背反セサルノ行爲若クハ不行爲即チ犯罪アリト雖モ其証憑アラサル  
限リハ區裁判所ハ被告人ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲ス能ハサルモノトス其  
然ル所以ノモノハ若シ單ニ判事ノ推測等ニ因リ處罰シ得ルモノトセ  
ハ或ハ無辜ノ徒ヲ罰スル等ノ憂アリ刑罰權ノ趣旨ニ背反スルヲ以テ  
ナリ



若シ區裁判所ニ於テ既ニ保釋又ハ責付中ナル被告人ニ對シ禁錮ノ刑ヲ言渡シ其保釋又ハ責付ニ付キ何等ノ明言ヲ爲サ、ルトキハ當然保釋又ハ責付ヲ取消シタルモノト爲シ直チニ被告人ヲ入監セシムヘキヤ否ヤ余考フルニ區裁判所ニ於テ保釋又ハ責付ヲ取消スノ命令ヲ爲サ、ル以上ハ直チニ被告人ヲ入監セシムルヲ得サルモノナリ何トナレハ裁判所ノ命令ハ其取消アラサル限りハ消滅スルモノニアラサレハ保釋又ハ責付ハ其取消ナキ以上ハ依然存續スルモノナレハナリ然ルニ論者アリ曰ク刑法第五十一條ニ因レハ刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ストアリテ刑名宣告ノ日ハ即チ刑罰執行ノ初日ト看做スカ故ニ若シ判決ノ確定ニ至ルマテ前ニ許シタル保釋又ハ責付ヲ依然存スルモノトセハ實際受刑者ノ身体ヲ拘束セスシテ刑期ハ進行スルノ結果ヲ見ハスニ至リ刑罰ノ目的ニ適フモノニアラサレハ設例ヒ判決ニ何

等ノ明言ナシト雖モ保釋又ハ責付ハ當然取消サレタルモノト爲シ直ニ被告人ヲ入監セシムヘキナリト是レ蓋シ一ヲ知テ未ダ其二ヲ知ラサルノ論ト云フヘシ何トナレハ論者ノ言ノ如ク刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算スヘキハ刑法第五十一條第一項ニ依リ明確ナリト雖モ第一項ハ被告人カ保釋又ハ責付ヲ得サル場合ヲ規定シタルモノニテ保釋又ハ責付ヲ得タル場合ノ刑期起算方ハ同法第四項ノ規定スル所ナリ加之ナラス禁錮以上ノ刑ニ該ル者ハ必ラス之ヲ勾留スヘキニアラサルニトハ第七十八條ニ於テ勾留狀ヲ發スルニトテ得<sup>○</sup>トアルニ因リ明ナリ故ニ豫審判事ニ於テ勾留スルノ要ナシト認メ保釋ヲ許シ又ハ責付ヲ命シ區裁判所ニ於テモ明示ニテ之カ取消ヲ爲サ、ル場合ニハ素ヨリ區裁判所ハ保釋又ハ責付ヲ取消シタルモノト推測スヘキニアラサルヲ以テナリ



若シ又之レニ反シ區裁判所ニ於テ現ニ勾留ヲ受ケ居ル被告人ニ對シ  
 勾留料若クハ罰金ノ刑ヲ言渡タル場合ニ於テハ同時ニ釋放ノ言渡ヲ  
 爲スニアラサレハ被告人ハ放免サル、モノニアラサルヤ否ヤ余考カ  
 フルニ此場合ニ於テハ必ラスシモ判決ヲ以テ釋放ノ言渡ヲ爲スヲ要  
 セス當然放免セラレタルモノナリト何トナレハ曩キニ第七十八條  
 ニ於テ説明セシ如ク禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ被告人ニアラサレハ判  
 決前之ヲ勾留シ能ハサルモノナリ故ニ本問勾留料又ハ罰金ノ刑ニ  
 該ルヘキ被告人ハ元來判決前之ヲ勾留シ能ハサルモノナリ故ニ若シ  
 其被告人ニシテ未決勾留ヲ受ケアルトキハ其處分ヲ裁判所ノ過失ニ  
 出タルモノト云ハサルヲ得ス何トナレハ區裁判所自ラ之レヲ勾留料  
 料又ハ罰金ノ刑ニ處シ初メヨリ勾留スルノ要ナカリシユトヲ判決ニ  
 因リ自白シタルモノナレハナリ而テ既ニ其處分過失ニ出テ未決勾留

ニ處スルノ原因ナカリシユト區裁判所ノ判決ニ因リ明瞭セシ以上ハ  
 其處分ハ當然効力ヲ失タルモノト云ハサルヲ得サレハナリ故ニ若シ  
 檢事ニ於テ其判決後放免ノ手續ヲ爲サ、ルトキハ被告人ハ直ニ出監  
 セノユトヲ請求スルヲ得ヘシ又勾留ノ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ檢  
 事被告人ヲ出監セシメタルトキハ其判決確定ノ後更ラニ之ヲ勾留シ  
 刑ノ執行ヲ爲スヘキナリ

**第二百二十四條 犯罪ノ證據十分ナラス又ハ被告**

事件罪ト爲ラサルトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡  
 ナ爲シ又第六十五條第三號以下ノ場合ニ於テ

ハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲ス可シ

本條ハ無罪ノ言渡及ヒ免訴ノ言渡ニ關スル規定ナリ

余ハ先ツ無罪ノ言渡ト免訴ノ言渡ニ付一言セシニ公判ニ於テハ無罪



ノ言渡トハ其文字自体ニ表示スル如ク被告人ニ犯罪ト認ムヘキ行爲  
 又ハ不行爲ナキトノ言渡ニシテ免訴ノ言渡トハ犯罪タル行爲又ハ不  
 行爲アリシト雖モ之ニ對シ刑罰ヲ加フルノ限リニアラサレハ訴ヲ免  
 脱スル旨ノ言渡ヲ云フ然レトモ豫審ニ所謂ル免訴ト公判ニ所謂ユル  
 免訴トハ其意義ニ廣狹ノ別アリテ公判ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキ  
 場合ニモ亦タ豫審ニ於テハ無罪ノ言渡ヲ爲サス免訴ノ言渡ヲ爲スモ  
 ノトス是レ他ナシ公判判事ハ其事件ノ是非曲直ヲ判斷スルモノナレ  
 ハ証憑十分ナラス又ハ被告事件罪ト爲ラサルトキハ無罪ノ判決ヲ爲  
 シ得ルト雖モ豫審判事ハ元來証憑ノ有無ヲ判別スルモノニテ罪ノ有  
 無ヲ判斷スル者ニアラサレハ本案ノ裁判ヲ爲シ得サルヲ以テナリ  
 今公判判事ハ如何ナル場合ニ無罪ノ言渡ヲ爲シ如何ナル場合ニ免訴  
 ノ言渡ヲ爲スヘキヤヲ釋ヌルニ

第一無罪ノ言渡ヲ爲ス場合ニ二アリ(甲)犯罪ノ証憑十分ナラサルトキ、  
 其理由ハ若シ犯罪ノ証憑十分ナラサルトキニモ亦タ刑罰ヲ加エ得ル  
 トセハ人々其堵ニ安ニスル能ハサレハナリ而テ犯罪ノ証憑十分ナラ  
 サルトキトハ余カ辯明スルヲ蹊タス諸君ハ已ニ本法第一編ノ講義ニ  
 因リ會得セラル、所ナレハ余ハ今マ其詳細ヲ説カスト雖モ夫ノ被告  
 人ノ人違ナルトキモ亦タ犯罪ノ証憑十分ナラサル場合ニ包含セシム  
 ヘキモノトス何トナレハ犯罪タル行爲又ハ不行爲存立ノ証憑ハ著明  
 ナリトスルモ被告人カ即チ其犯罪者タルノ証憑ナキヲ以テ到底証憑  
 不十分タルヲ免レサレハナリ

(乙)被告事件罪ト爲ラサルトキ、被告事件罪ト爲ラサルトキトハ法律ニ  
 於テ其行爲若クハ不行爲ヲ犯罪ト爲サ、ルトキヲ云フ故ニ例ヘハ被  
 告人ノ行爲又ハ不行爲ヲ犯罪ト爲スノ法條ナキトキ又ハ刑法第七十



五條以下ニ規定スル不論罪ニ係ル行爲ノ如キ是ナリ

第二免訴ノ言渡ヲ爲ス場合ハ(甲)被告人ニ對スル公訴消滅シタルトキ、抑モ公訴ノ時効ハ檢事ニ於テ犯罪者ニ對シ若干年間公訴ヲ提起セサル場合ニ公訴ノ實行權ヲ消滅セシメ犯罪人ヲ罰スルコトヲ得サラシムルモノナレハ若シ檢事ニ於テ本法第八條ニ規定セル期間内ニ公訴權ヲ行使セス其後ニ至リ公訴ヲ提起セシトハ區裁判所ハ被告人ニ對シ免訴ノ言ス渡ヲ爲ヘキハ論ヲ蹊タサル所ナリトス

(乙)被告事件確定判決ヲ經タルトキ、抑モ判決ハ鄭重ナル裁判所ノ判斷ナリト雖モ是又失誤ナキヲ免レサル所ナレハ我法律ニ於テハ之ニ對シ上訴ヲ爲スコトヲ許シ又タ其爲メ相當ノ期間ヲ與ヘ被告人ヲシテ十分其誤謬ヲ矯正シ冤枉ヲ匡濟セシムルニ努メタリ故ニ判決ハ上訴期間内ニ被告人カ上訴ヲ爲サ、ル乎或ハ上訴ヲ爲シ上訴裁判所ノ判

決アリタル後ニアラサレハ確定セサルモノトス夫レ如此其確定ニハ鄭重ノ手續ヲ要スルモノナルカ故ニ判決ニシテ一旦確定シタル以上ハ事實ト法律トニ適合シタルモノト推定シ確乎動カスヘカラサルモノト爲サ、ルヘカラス已ニ之ヲ確乎動カスヘカラサルモノト爲ス以上ハ何人ト雖モ又タ如何ナル場合ト雖モ確定判決ニ對シ不服ヲ唱フルコト能ハス又タ之ヲ變更シ能ハサルヤ必然ナリ故ニ確定判決ヲ經タル事件ニ付再度公訴ノ提起アルトキハ公訴ヲ却下シ被告人ニ對シ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキヤ亦タ多辯ヲ要セサル所ナリトス

(丙)大赦アリタルトキ、大赦トハ即チ社會カ一定ノ犯罪ニ付全ク其存立ヲ遺忘シ之ヲ不問ニ付スルノ處分ナリトス而テ此場合ニ於ヒテ免訴ノ言渡ヲ爲ス所以ノモノハ被告人ハ元來無罪ニアラスト雖モ大赦ニ因リ社會ハ全ク被告人ノ犯罪ヲ遺忘シタルモノナレハ之ニ對シ刑ノ



言渡ヲ爲スヘキニアラサレハナリ

(丁)法律ニ於テ其罪ヲ全免スルトキ、法律ニ於テ罪ヲ全免スルトキトハ被告人ノ行爲若クハ不行爲ハ法律ニ於テ犯罪ナルコトヲ認ムルモ之ヲ全免シ其刑ヲ科セサルヲ云フ故ニ刑法第三百七十七條第一項ニ規定セル竊盜ノ如キ是ナリ

本條ニハ第六十五條第三號以下ノ場合ニ於テハ云々トアリ而テ第六十五條ニハ犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ヲ廢止シタルトキ并ニ告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付告訴ナクシテ公訴ヲ受理シタルトキ又ハ告訴ヲ爲シタル後被害者其告訴ノ拋棄ヲ爲タル場合ヲ記載シナキニ因リ此場合ニハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノニアラサルカ如シ然レモ夫ノ犯罪ノ後ニ頒布シタル法律ニ因リ其刑ヲ廢止シタルトキハ被告人ノ行爲又ハ不行爲ハ犯時ニ在リテハ刑罰アリシヲ以テ

犯罪タリシト雖モ現今ニ在リテハ法律ニ於テ其刑ヲ廢止シタルニ因リ罪トナラサル者ナリ故ニ先時ニ於テ之ヲ犯罪ト爲シタルハ或ハ社會ノ誤ニ出テタル乎或ハ現今之ヲ罪ト爲スノ必要消滅シタルモノナルヲ以テ既往ヲ咎メ今日罪ト爲ラサル行爲又ハ不行爲ニ對シ刑ヲ科スルカ如キハ事理人情ニ反スル所ナレハ是又タ公訴權消滅ノ一原因タルモノナリ故ニ此場合ニ於テモ前四个ノ場合ト同シク被告人ニ對シテハ免訴ノ言渡ヲ爲サルヘカラス又タ告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付告訴ヲ待タス公訴ヲ提起シタル場合ニハ其公訴ハ元來不當ニシテ之ヲ受理スヘキモノニアラス又タ一旦告訴ヲ爲シ公訴提起ノ後ニ告訴ノ拋棄ヲ爲シタルトキニモ亦タ公訴ハ之ヲ繼續スル能ハサルモノナレハ此等ノ場合ニ於テモ亦タ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキヲ當然ナリトス



被告人ノ死去シタルヲ知ラスシテ檢事ニ於テ起訴シタルトキ又ハ起訴後被告人死去シタルトキハ如何此場合ニ於テハ刑ノ言渡ハ勿論無罪若クハ免訴ノ言渡ヲ爲スニ及ハサルモノト信ス何トナレハ抑モ判決ハ當事者アリテ始テ之ヲ爲スユトヲ得ルモノナリ而テ死人ハ之ヲ當事者ト爲ス能ハサルハ言ヲ嫁タサル所ナレハ此場合ニ於テ判決ヲ爲スヘキモノトセハ當事者ナキニ判決スルモノナルニ因リ恰モナキニ矢ヲ放ツカ如シ是レ余カ此場合ニ於テハ何等ノ言渡ヲ爲スニ及ハサルモノト云フ所以ナリ

第二百二十五條 前二條ノ場合ニ於テハ私訴ニ付

キ其請求價額ノ多寡ニ拘ハラヌ判決ヲ爲ス可シ

本條ハ私訴ノ判決ニ關スル規定ナリトス

余カ曾テ説明セシ如ク私訴ハ公訴ニ附帶セシモノナレハ其本体ナル

公訴ニ付有罪無罪免訴ノ判決ヲ爲ス場合ニハ其支体ナル私訴ニ付テモ亦權利有無ノ判決ヲ爲サ、ルヘカラス而テ公訴ニ付犯罪ノ有無及ヒ處罰スヘキヤ否ヤヲ判決スルハ第二百二十三條及ヒ第二百二十四條ノ場合ナレハ私訴ニ付權利ノ有無ノ判決ヲ爲スモ亦タ右二條ノ場合ナラサルヘカラス是レ本條ニ於テ前二條ノ場合ニ於テ云々ノ語アル所以ナリ

又タ民事ノ訴ヲ公訴ニ附帶シ刑事裁判所ニ提起セシムル所以ハ畢竟當事者ノ利益ヲ謀リタルニ過キササルモノトス故ニ普通ノ民事訴訟ニ於ケルカ如ク訴訟ノ目的物ノ價額ニ因リ事物ノ管轄ヲ定ムルトキハ到底之ヲ公訴ニ附帶セシメタル目的ヲ達スル能ハサルヘシ何トナレハ若シ其價額ニ因リ事物ノ管轄ヲ定ムルトキハ區裁判所ノ管轄ニ屬スル被告事件ニ付百圓以上ノ物件ヲ目的トセル私訴ヲ附帶セシメタ



ルトキハ管轄違ノ言渡ヲ爲サ、ルヘカラサルノ結果生スレハナリ是  
レ本條ニ於テ其請求額ノ多寡ニ拘ハラヌ判決ヲ爲スヘシトアル所以  
ナリ

茲ニ注意スヘキユトアリ即チ被告人ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲ストキハ之  
ニ對シ損害ノ賠償贓物返還ノ言渡ヲ爲シ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲ス  
場合ニハ私訴ニ付義務ナシトノ判決ヲ爲スヲ普通ナリトスルモ必ラ  
スシモ常ニ然ルモノニアラス何トナレハ公訴ト私訴トハ元來同一ノ  
事實ニ原因スト雖モ其目的ニ至リテハ二者兩途ニ出テ各箇獨立シ一  
ハ刑ノ適用ヲ目的トシ一ハ損害ノ賠償ヲ目的トスルモノナレハ公訴  
成立シテ私訴成立セサルユトアルヘク又公訴成立セスシテ私訴成立  
スルユトアルヘケレハナリ例ヘハ被告人精神錯亂又ハ智覺ナキ幼者  
ノ場合若シクハ刑法第三百七十七條ニ規定スル親屬間ノ財物竊取ノ

場合等ニハ公訴成立セサルモ私訴成立シ又タ未遂犯罪ノ場合ノ如キ  
ハ私訴ハ成立セサルモ公訴ハ成立スル等ノ如シ

第二百二十六條 呼出ヲ受ケタル被告人又ハ罰金

以下ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付キ其代人公判ノ期

日ニ出頭セサルトキハ檢事ノ請求スル所ヲ聽キ

闕席判決ヲ爲ス可シ

私訴關係人出頭セサルトキハ民事訴訟法ノ規定

ニ從ヒ闕席判決ヲ爲ス可シ

本條ハ罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ノ欠席判決ニ關スル規定ナリト  
ス

抑モ裁判所ハ犯罪ノ事實ト被告人ノ情狀トヲ審查明確ニシテ判決ヲ  
爲スヘキモノナリ而テ其事實ト情狀トヲ明確ニスルニハ原告人ヲシ



テ十分ニ辯難攻撃ヲ爲シ被告人ヲシテ亦タ十分ニ辯護反駁ヲ爲サシメサルヘカラス故ニ片言ヲ聽キ以テ爭訟ヲ判斷セシムルハ斷訟上ノ頁制度ト云フヘカラス是ヲ以テ我刑事訴訟法ニ於テハ口頭辯論主義ヲ採リ原被兩造ヲ出頭セシメ對席ノ上審理判決スルヲ以テ原則トナセリ然レモ如何ナル場合ニ於テモ對席ノ審判ヲ要スルモノトセハ被告人ハ刑罰若クハ民事上ノ責任ヲ免レンカ爲メ故ラニ所在ヲ韜晦シ訴訟ノ終結ヲ妨ケルコトナキニアラス是レ本法ニ於テ欠席審判ノ規定アル所以ナリ

然レモ欠席ノ審判ハ前段述ヘタル如ク斷訟手續ノ原理ニ背反スルノミナラス社會ト被告人トニ損害ヲ被ムラシムルコト屢ナリトス如何トナレハ設例ヒ被告人辯論期日ニ出頭セスト雖モ其爲メ辯護權ヲ喪失セシムヘキニアラサレハ被告人ニ對シ欠席判決ヲ言渡タリト雖モ若

シ被告人之ニ服從セサルトキハ故障ヲ申立ツルコトヲ許サ、ルヘカラス而テ適法ナル故障ノ申立アルトキハ欠席判決ハ全ク其効力ヲ喪失スルモノナレハ裁判所ハ其審判ヲ再ダヒセサルヘカラス然ルニ元來其裁判ハ毫モ非難スヘキ点ナキニ拘ラス被告ハ妄リニ不服ヲ唱ヘ萬一テ僥倖スル爲メ故障ヲ申立テル等ノコトアリ徒ラニ無益ノ費用ト手續等ヲ二重ニシテ社會ニ損害ヲ被ラシムルコトアルヘシ又一方ニ於テハ訴訟關係人出頭セサルニ因リ事實情況審カナラサル爲メ裁判所ニ於テハ被告人ニ不利益ナル判決ヲ爲スニ至ルモ知ルヘカラサレハナリ故ニ欠席審判ハ不得止ノ場合ニアラサレハ之ヲ爲ス能ハサルモノトス

然ラハ如何ナル場合即チ如何ナル條件ヲ具備スルトキハ欠席判決ヲ爲シ得ルモノナルヤト云フニ公訴ト私訴トニ付キ其規定ヲ異ニシ又



ダ公訴中ニテモ罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ被告事件ト禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ被告事件トニ因リ其條件ヲ異ニス余ハ本條ニ於テハ第一罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ被告事件ニ關スル欠席判決ノ場合ヲ説キ第二ニ私訴ニ關スル欠席判決ノ場合ヲ説キ罰金以上ノ刑ニ該ルヘキ被告事件ノ欠席判決ノ場合ハ次條ニ於テ之ヲ説明セシ

(甲) 罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ被告事件ニ付欠席判決ヲ爲スニハ左ノ條件ヲ要ス

第一被告人公判ノ呼出ヲ受ケタルユト曩キニ認明セシ如ク被告人ハ辯論期日ニ裁判所ニ出頭スルノ義務アリト雖モ其義務ハ裁判所ノ呼出アリテ始メテ生スルモノトス而テ欠席判決ハ被告人ニ出頭スヘキ義務アリテ出頭セサルトキハ之ニ始テ爲スヘキモノナレハ被告人ニ於テ其呼出ヲ受ケサルトキハ之ニ對シテ欠席判決ヲ爲シ得サルハ言ヲ俟タ

サル處ナリ然レモ呼出狀ハ必ラスシモ被告人自身ニ之ヲ受領シタルユトヲ必要トセス若シ被告本人ニ送達スルユト能ハサルトキハ同居ノ親族若クハ雇人ニ送達シ又タ全家不在ナルトキハ其呼出狀ヲ被告人住居地ノ市町村長ニ預置キ送達ノ告知書ヲ其住居ノ戸ニ貼附シ其近隣ニ住居スル者二名ニ其旨通知シ置クヲ以テ足レリトス

第二被告人又ハ其代人公判期日ニ出頭セサルユト、刑事訴訟法ニ於テハ民事訴訟法ト異ナリ被告人出頭セル以上ハ設例ヒ辯論ヲ爲シ肯セサルト雖モ之ヲ對席トシテ審判スヘキモノナレハ「第八十二條第二項」欠席判決ヲ爲スニハ必ラス被告本人若クハ其代人ノ出頭セサルユトヲ必要トス之ニ反シテ民事訴訟ニ於テハ被告人出頭スト雖モ辯論ヲ爲シ肯セサルトキハ出頭セサルモノト看做シ欠席ノ判決ヲ爲スヘキモノトス(民事訴訟法第二百五十條)抑モ欠席トハ訴訟關係人口頭



辯論ニ立會ハサルノ云ニシテ辯論セサルノ云ニアラサルナリ故ニ欠席判決トハ關係人出頭セス即チ欠席シタルトキニ言渡スヘキ判決ニシテ設例ヒ辯論ヲ爲シ肯セサルトキト雖モ辯論ニ出頭セル場合ニ言渡ス判決ハ之ヲ欠席判決ト云フヘカラスハ顯明ナル條理ナリトス然ルニ民事訴訟法ニ於テハ事實對席ノ審判ナルニ拘ハラス欠席ノ判決ヲ爲スヘキモノト定メタルハ余其理由ヲ解スル能ハス加之ナラス同シク訴訟手續上ノ規則ナルニ特別ノ理由アラサルニ其訴訟カ民事ナルト刑事ナルトニ因リ規定ヲ異ニスルハ法制上其宜シキヲ得タルモノト言フヘカラス

茲ニ一ノ注意スヘキユトアリ即チ被告人若クハ其代人期日ニ出頭セズト雖モ正當ノ事故ニ因リ出頭スル能ハサルユトヲ疏明シタルトキハ裁判所ニ於テハ之ニ對シ欠席判決ヲ爲ス能ハサルモノトス何トナ

レハ欠席判決ハ被告人カ正當ノ理由ナク出頭セス妄リニ時日ヲ遷延シ裁判ヲ遷延スルノ弊ヲ防クノ制度ニ過キサレハナリ

右二個人ノ條件供ハルトキハ裁判所ハ被告人ニ對シ欠席判決ヲ言渡シ得ルモノトス然レモ此場合ニ於テモ對席審理ノ場合ニ於ケルト同シク先ツ檢事ヲシテ被告事件ヲ陳述セシメ次テ證據ノ取調ヲ爲シ又テ事實及ヒ法律適用ニ付意見ヲ陳述セシメ即チ其請求スル處ヲ聽キ然ル後ニ判決ヲ爲サ、ルヘカラス何トナレハ被告事件ヲ陳述セシメサレハ以テ被告事件ヲ知ルニ由ナク證據調ヲ爲シ事實ニ付キ其意見ヲ聽カサレハ果シテ檢事ノ陳述セル如キ犯罪ノ事實アルヤ否ヤヲ知ルニ由ナク又テ法律適用ニ付其意見ヲ聽カサレハ其請求スル主眼ヲ知ルニ由ナケレハナリ之ヲ要スルニ罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付キ欠席判決ヲ爲スニハ第一被告人呼出ヲ受ケタルユト第二被告人又



ハ其代人出頭セサルユト及ヒ第三檢事ノ請求スル所ヲ聽クノ三條件ヲ要スルモノトス

(乙) 私訴ニ付キ欠席判決ヲ爲スニハ公訴ニ付欠席判決ヲ爲スニ要スル二條件即チ訴訟關係人呼出ヲ受ケタルユト及ヒ其出頭セサルユトノ外相手方ヨリ欠席判決ノ申立アルヲ必要トス故ニ被告人呼出ヲ受ケ口頭辯論ニ出頭セサルトキト雖モ其相手方即チ民事原告人ヨリ欠席判決ノ申立ヲ爲サ、ル以上ハ被告人ニ對シ欠席判決ヲ爲シ能ハサルモノトス(民事訴訟法第二百四十六條)其理由ハ凡ソ爭訟ノ審判ハ對席ニテ爲スヲ原則トシ欠席ニテ審判スルハ變例ナルヲ以テ欠席判決ヲ爲シタル場合ニ若シ欠席者故障ヲ申立ツルトキハ其審判ヲ再ヒセサルヘカラス是ヲ以テ欠席判決ハ啻ニ欠席者ニ不利ナルノミナラス出頭シタル相手方ニ於テモ亦タ審判ヲ再ヒスルノ煩アリ故ニ欠席判決

ハ出頭シタル相手方ノ申請アルコアラザレハ爲スヘカラスナルヲ訴訟手續法ノ原則トナスヲ以テナリ

然ルニ公訴ニ付テハ檢事ノ申請ヲ要セス欠席判決ヲ爲シ得ルトノ規定アル所以ハ私訴ハ單ニ相手方ノ利益ニ關スルモノナルモ公訴ハ社會ノ公益ニ關係スルモノナルニ因ルナラシ余ハ他ニ確タル理由ヲ發見セス茲ニ注意スヘキハ公訴ノ場合ニ於テハ單ニ被告人ニ對スル欠席判決アルノミニテ原告人タル檢事ニ對スル欠席判決ナシト雖モ私訴ノ場合ニ於テハ之ニ異ナリ民事原告人并ニ民事擔當人ニ對シ欠席判決ヲ爲シ得ルユト是ナリ其理由ハ曾テ説明シタル如ク公訴ニ於テハ檢事出頭セサルトキハ法律ニ因リ公判裁判所ヲ構成セサルモノナレハ公判ヲ開始スル能ハス從テ又之ニ對シ欠席判決ヲ爲スノ條理アラスト雖モ之ニ反シ民事原告人ハ普通ノ訴訟人ニシテ裁判所ヲ構成



スルノ部員タラサレハ其欠席ハ素ヨリ毫モ裁判所構成等ニ關係スル所ニアラサルヲ以テ其出頭セサルトキハ被告人ノ出頭セサル場合ト同シク之ニ對シ欠席判決ヲ爲スヘキハ言ヲ俟タサル所ナリ又タ被告人ノ法律上代理人即チ民事擔當人出頭セサルトキモ同一ナリトス茲ニ一ノ疑問アリ若シ被告人又ハ其民事擔當人出頭シナカラ私訴ニ付辯論ヲ爲サ、ルトキハ之ニ對シ欠席判決ヲ爲スヘキヤ或ハ又私訴ナルヲ以テ民事訴訟法第二百五十條ニ因リ對席トシテ判決ヲ爲スヘキヤ否ヤ余ハ此場合ニ於テハ對席トシテ判決スヘキモノト信ス何トナレハ第一本條第二項ニ因レハ私訴ノ欠席判決ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ爲スヘキモノナリト雖モ其欠席判決ヲ爲スヘキハ私訴關係人出頭セサルトキニシテ辯論ヲ爲サ、ルルニアラサルハ同項ニ單ニ私訴關係人出頭セサルトキハ云々トアルヲ以テ明ナリ若シ一切民事訴訟

訟ノ規定ニ從ヒ辯論ヲ爲シ肯セサル場合ニモ亦タ欠席判決ヲ爲スヘキモノトセハ被告人カ同一事件ニ於テ公訴私訴ニ付キ辯論ヲ肯セサルルルニハ公訴ニ付テハ對席ノ判決ヲ爲シ私訴ニ付テハ欠席ノ判決ヲ爲スノ奇異ナル結果ヲ見ルニ至ラン是レ余カ私訴ニ付辯論ヲ爲シ肯セサルトキモ亦タ對席トシテ判決スヘシト云フ所以ナリ

第二百二十七條

禁錮ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付キ

被告人出頭セスト雖モ豫審終結ノ言渡書又ハ公判ノ呼出狀ヲ本人ニ送達シタル證アルニ非サレハ關席判決ヲ爲ス可カラス

豫審終結ノ言渡書又ハ公判ノ呼出狀ヲ本人ニ送達スルコト能ハサル場合ニ於テハ裁判所ニテ猶豫ノ期間ヲ定メ其期間ニ被告人出頭セサルトキ



ハ關席判決ヲ爲ス可キ告知書ヲ其親屬又ハ其本籍若クハ最後ノ住所ノ地ノ市町村長ニ送達ス可シ若シ其本籍若クハ最後ノ住所ノ地分明ナラサルトキハ同上ノ告知書ヲ少クトモ一月間裁判所ノ揭示板ニ貼付シテ公示ス可シ

本條ハ禁錮ノ刑ニ該ルヘキ事件ノ欠席判決ニ關スル規定ナリトス罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付欠席判決ヲ爲スニ要スル條件ハ前條ニ於テ既ニ説明セリ而テ禁錮ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付欠席判決ヲ爲スニモ亦テ前條ノ場合ト同シク第一被告人呼出ヲ受ケタルユト第二被告人ノ出頭セサルユト第三檢事ノ請求スル處ヲ聽クユトヲ要ス惟テ前條ノ場合ト異ナル所ハ前條ノ場合ニ於テハ合式ノ手續ニ因リ呼出狀ヲ被告人ノ住所又ハ其親屬雇人等ニ送達シタルヲ以テ十分

ナリト雖モ本條ノ場合即チ禁錮ノ刑ニ該ルヘキ被告事件ニ付欠席判決ヲ爲スニハ單ニ其手續ヲ爲シタルヲ以テ十分ナリトセス必テ事實際被告人ニ於テ自己ニ對シ公訴ヲ提起シアルユトヲ知リテ出頭セサル者ナルユト即チ公判ノ呼出狀又ハ豫審終結ノ言渡書ヲ被告本人ニ送達シタルノ証アル乎或ハ又テ法律上被告人ニ於テ被告事件ヲ知了セリト看做サ、ルノ方法ヲ行ヒタルユト即チ其呼出狀又ハ豫審終結ノ言渡書ヲ本人ニ送達スルユト能ハサル場合ニ於テハ裁判所ハ猶豫ノ期間ヲ定メ其期間ニ被告人出頭セサルトキハ欠席判決ヲ爲スヘキ告知書ヲ其親屬又ハ其本籍若クハ最後ノ住所ノ地ノ市町村長ニ送達シタル乎或ハ又テ若シ其本籍若クハ最後ノ住所ノ地分明ナラサルトキハ同上ノ告知書ヲ一个月以上裁判所ノ揭示板ニ貼付シテ公示シタル後ニアラサレハ欠席判決ヲ爲ス能ハサルモノトス



而テ罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ト禁錮ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付右  
 ノ區別ヲ爲シタル理由ハ第七十八條ニ於テ説明セシ如ク被告本人  
 ノ出頭ハ犯罪ノ事實ト被告人ノ情狀トヲ審査シ適實至正ノ裁判ヲ爲  
 スニ有益ナルノミナラス特ニ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ於テハ  
 被告人自身ニ出廷スルルハ刑ノ執行モ亦タ容易ナルヘク且禁錮以上  
 ノ刑ハ凡テ体刑ナルヲ以テ此場合ニ於テハ輕忽ニ欠席裁判ヲ爲サス  
 成ルヘク被告人ノ出廷ヲ得ンカ爲メ其區別ヲ爲シタルモノナラシ  
 本條第一項ニハ豫審終結ノ言渡書ヲ本人ニ送達シタルノ証アルトキ  
 ハ欠席判決ヲ爲シ得トアルヲ以テ或ハ其言渡書ヲ本人ニ送達シタル  
 トキハ公判ノ呼出狀ヲ本人ニ送達スルヲ要セサルハ勿論被告人ニ於  
 テ呼出ヲ受ケタルユト即チ普通ノ手續ニ因リ被告人若クハ其親屬等  
 ニ公判呼出狀ヲ送達スルヲ必要トセサルカ如シ然レモ余ハ縱令ヒ豫

審ノ終結書ヲ本人ニ送達シタルトキト雖モ被告人ニ對シ普通ノ手續  
 ニ因リ公判ノ呼出狀ヲ送達スヘキハ勿論ナリト信ス何トナレハ本條  
 ニハ禁錮ノ刑ニ該ルヘキ被告事件ニ付欠席判決ヲ爲スニハ前條ニ規  
 定セル條件ノ外特別ノ條件ヲ要スルユトテ規定シタルモノナルノミ  
 ナラス元來何人ト雖モ呼出ヲ受ケタル以上ハ進ンテ裁判所ニ出頭ス  
 ルノ義務ナシ而テ欠席判決ハ出頭スヘキ義務アリテ出頭セサル者ニ  
 對シ言渡スヘキモノナレハ出頭ノ義務ナキ以上ハ縱令ヒ被告人自ラ  
 豫審終結ノ言渡ヲ受取り居ナカテ出頭セスト雖モ裁判所ハ之ニ對シ  
 道理上欠席判決ヲ爲シ得サルモノナリ且ツ輕易ナル罰金以下ノ刑ニ  
 該ルヘキ事件ニ付テモ亦タ普通ノ手續ニ因リ被告人ノ住所又ハ其親  
 屬等ニ送達スルヲ要スルモノナルニ重要ナル禁錮ノ刑ニ該ルヘキ事  
 件ニ付キ呼出狀ヲ送達スルヲ要セストスルトキハ大ニ其權衡ヲ失ス



ルモノナレハナリ

二百五十〇

又タ本條ニハ禁錮ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付云々トアルモ禁錮以上ノ刑即チ死刑徒刑流刑等ニ該ルヘキ事件ニ付テモ亦タ本條規定ノ條件ヲ充ダスニアラサレハ欠席判決ヲ爲ス能ハサルモノトス  
今マ欠席判決ノ部ヲ説了スルニ當リ二ノ注意スヘキ点アリ第一被告事件共犯ニ係リ其中一名又ハ數名出頭シタルトキト雖モ出頭セサル他ノ被告人ニ對シテハ本條并ニ前條ノ規定ニ從ヒ欠席判決ヲ爲スヘキコト是ナリ

第二欠席判決ハ刑事訴訟法上正式ノ手續ニ因ルノ判決ニアラスト雖モ正式ノ手續ヲ履ミタル對席判決ニシテ上訴期間ヲ經過シタルトキハ確定ニシテ變更スヘカラサル判決タルカ如ク欠席判決モ故障期間其申立若クハ控訴ノ申立ナキトキハ確定ノ判決タルモノナリ

第三本條并ニ前條ハ被告人ノ欠席若クハ私訴關係人中相手方ノ一方出頭セサル場合ヲ規定シタルモノニテ原被双方出頭セサル場合ヲ規定シタルモノニアラサレハ若シ公訴若クハ私訴ニ於テ原被両造出頭セサルトキハ如何ニ處分スヘキ乎例ヘハ公訴ニ付檢事及ヒ被告人又ハ其代人共ニ出頭セス又タ私訴ニ付民事原告人若クハ民事擔當人共ニ出頭セサルトキノ如シ余ハ此場合ニ於テハ公訴私訴共ニ其審理ヲ休止スヘキモノト信ス何トナレハ刑事訴訟法ニ於テハ休止ノ規則ナシト雖モ凡ソ訴訟ハ訴訟關係人ノ請求ニ因リ始テ審理スルヲ原則トナス故ニ双方出頭セサル場合ニ裁判所カ其手續ヲ進行スル爲ニハ特別ノ規定ヲ要スルモノナリ然ルニ本法ニハ其特別規則ナキニ因リ若シ檢事及ヒ被告人又ハ民事原告人被告人若クハ民事擔當人出頭セサルトキハ公訴私訴共ニ之ヲ進行スルノ途ナキヲ以テ條理ニ於テ之ヲ



休止セサルヲ得サルヲ以テナリ  
 而テ公訴私訴ニ付訴訟手續ノ休止アリタル場合ニ於テ檢事其他訴訟  
 關係人ハ常ニ辯論再開ノ申立ヲ爲シ之ヲ進行セシメ得ルモノナルヤ  
 或ハ又或期間ヲ經過シタルトキハ公訴私訴ヲ續行スルノ權利ヲ喪失  
 スルモノナルヤ否ヤ余ハ公訴私訴共ニ公判ノ手續ヲ休止シタル日ヨ  
 リ公訴消滅ノ原因生スルマテハ何時ニテモ其手續ヲ再ヒ進行スルヲ  
 得ルモノト信ス何トナレハ凡ソ訴訟ヲ爲スノ權ハ特別ノ規定アルニ  
 アテサレハ之ヲ喪失スルモノニアラス然ルニ本法ニ於テハ休止ヨリ  
 生スル失權等ノ規定ナキヲ以テ固ヨリ休止ノ爲メ訴權ヲ喪失スヘキ  
 條理アテサレハナリ然レモ休止後ニ至リ公訴消滅ノ原因生シタルト  
 キハ何レモ其訴訟ヲ續行スル能ハサルモノトス何トナレハ其原因生  
 スルトキハ如何ナル場合ト雖モ訴權ヲ喪失スルモノナレハナリ(第六

條乃至第十一條參觀)

### 第二百二十八條 闕席判決ハ檢事其他訴訟關係人

ノ請求ニ因リ闕席者ニ送達ス可シ

闕席判決ヲ受ケタル者ハ其判決ニ對シ故障ヲ申

立ルコトヲ得

本條ハ欠席判決ノ送達并ニ故障申立ニ關スル規定ナリトス  
 抑モ判決ヲシテ被告人不知ノ間ニ確定セシムル如キハ素ヨリ辯護權  
 ヲ貴重セル我刑事訴訟法ノ望ム處ニアラス而テ對審判決ノ場合ニ於  
 テハ被告人ハ其言渡ノ期日ヲ承知セルヲ以テ現ニ其言渡ヲ聞キテ之  
 ヲ詳悉シタリト看做シ得ヘキニ因リ判決ヲ確定セシムルニハ別ニ其  
 ノ送達ヲ爲スヲ要セスト雖モ欠席判決ノ場合ニ於テハ辯論ニ列セザ  
 ルモノナレハ其言渡ヲ聽取シタルモノト看做スヲ得ス從テ又々法律



上言渡ニ因リ判決ヲ詳知シタルモノト看做スヘキニアラサレハ之ヲ確定セシムルニハ必ラス先ツ之ヲ被告人ニ送達スヘキモノト規定シタリ而テ本條ニ於テ欠席判決ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求アリ始メテ之ヲ送達スヘキモノトシ裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ送達スヘシト規定セサル所以ハ後段ニ於テ説明スル如ク被告人ハ欠席判決ニ對シ故障ヲ申立テ其判決ヲ消滅セシムルヲ得ルモノナリ且ツ故障申立ノ期間ハ判決書ノ送達ヲ以テ始マルモノナレハ元來其判決書ノ送達ニ因リ利益ヲ得ルモノハ檢事及ヒ民事原告人等ニテ被告人ハ毫モ之ニ因リ利益ヲ受クルコトナシ若シ其送達ニ因リ被告人利益ヲ得ルコトアラハ欠席者ノ利益ヲ保護スルノ精神ニテ裁判所ヲシテ職權ヲ以テ其送達ヲ爲サシムルモ敢テ妨ケナシト雖モ夫ノ檢事又ハ民事原告人ハ自己ニ利益アリト信スル場合ニハ進ンテ其送達ヲ請求スヘク其送達ヲ

請求セサルハ自己ニ利益ナシト信スル場合ナルヘキニ因リ其請求ナキニ之ヲ送達セシムル如キハ裁判所ヲシテ當事者ノ行爲ニ干渉セシムル不當ノ規定タルヘキヲ以テナリ  
 本條欠席判決送達ノ費用ニ付キ一言セサルヲ得サルアリ他ナシ或刑法學者ハ本條欠席判決送達ノ費用ハ當然國庫ニ於テ負擔スヘキモノナリト主張シ其理由トシテ曰ク凡ソ刑事訴訟費用ハ法律ノ明文ナキ以上ハ當然國庫ニ於テ負擔スヘキモノナリ而テ本條ニ於テハ何人カ之ヲ負擔スヘキノ明規ナキヲ以テ即チ國庫ノ負擔ニ皈スヘキモノナリト余ハ本條欠席判決送達ノ費用ハ常ニ曲者ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノト信ス何トナレハ本條ニ於テハ判決送達費用ノ負擔法ヲ規定シアラサルモ凡ソ訴訟費用ハ敗訴者ニ於テ負擔スヘキモノナルハ第二百一條ノ明規スル處ナレハ本條ノ費用モ亦同條ノ規定ニ因リ敗訴者



ニ於テ之ヲ負擔スヘキハ當然ナルヲ以テナリ  
 上來再三説明セシ如ク欠席判決ハ出席者ノ片言ヲ聽キ爲スモノナレ  
 ハ適實至正ノ判決ヲ得ルユト甚々難シ故ニ必ラス欠席者ニ於テ其判  
 決ニ對シ不服アルトキハ異議ヲ申立ツルユトナ許サ、ルヘカラス而  
 テ其異議之ヲ名ケテ故障ト云フ今マ茲ニ故障ノ定義ヲ下サハ故障ト  
 ハ公訴タルト私訴タルトヲ問ハス公判ニ欠席シタル者ノ利益ノ判決  
 ナ受ケタル場合ニ其判決ノ廢棄ヲ申立ツル異議ノ訴ナリトス  
 何人カ故障ノ申立ヲ爲シ得ヘキヤ故障ノ申立ヲ爲シ得ヘキ者ハ第一  
 欠席シタル被告人若シ又タ其代理人欠席判決ヲ受ケタルトキハ其代  
 理人但シ第百八十二條ニ依リ裁判長ヨリ退廷又ハ勾留ヲ命セラレタ  
 ル被告人ハ事實辯論ニ列セスト雖モ法律上之ヲ欠席ト看做サ、ルニ  
 因リ故障ヲ爲ス能ハサルモノナリ第二欠席シタル民事擔當人第三欠

席シタル民事原告人ナリトス

第二百二十九條 故障申立ノ期間ハ三日トス此期

間ハ罰金以下ノ刑ヲ言渡シタル判決及ヒ私訴ノ  
 判決ニ付テハ闕席判決ノ送達ヲ以テ始マリ禁錮  
 ノ刑ヲ言渡シタル判決ニ付テハ被告人自ラ其送  
 達ヲ受ケ又ハ判決執行ニ因リ刑ノ言渡アリタル  
 ユトナ知リタル日ヲ以テ始マル

本條ハ故障申立ノ期間ニ關スル規定ナリトス

故障申立ノ期間ハ公訴ノ欠席判決ナルト私訴ノ欠席判決ナルト又禁  
 錮以上ノ刑ヲ言渡タル欠席判決ナルト罰金以下ノ刑ヲ言渡タル欠席  
 判決タルトヲ問ハス常ニ三日ナリトス然レモ其期間進行ノ始點ハ  
 金以下ノ刑ヲ言渡タル欠席判決并ニ私訴ノ欠席判決ノ場合ト禁錮以



上ノ刑ヲ言渡タル欠席判決ノ場合トニ因リ其規定ヲ異ニスルヲ以テ  
余ハ是ヨリ其期間進行ノ始点ニ付一言セシ

第一罰金以下ノ刑ヲ言渡タル欠席判決及ヒ私訴ノ欠席判決ノ場合  
此場合ニ於テハ故障申立ノ期間ハ欠席判決ノ送達ヲ以テ始マル而テ  
其送達ハ必ラスシモ之ヲ被告本人ニ爲スヲ要セス書類送達ノ規則ニ  
從ヒ之ヲ送達スルヲ以テ十分ナリトス

第二禁錮以上ノ刑ヲ言渡タル欠席判決ノ場合

此場合ニ於テハ故障申立ノ期間ハ被告人自ラ欠席判決ノ送達ヲ受ケ  
刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル日又ハ其判決ノ執行ニ因リ刑ノ言  
渡アリタルコトヲ領知シタル日ヲ以テ其進行ヲ始ムルモノトス  
本條ハ單ニ禁錮ノ刑ヲ言渡タル欠席判決云々トアリ禁錮以上ノ刑ヲ  
言渡タル判決ニ付テハ何等ノ規定ナシト雖モ禁錮以上ノ刑即チ死刑

徒刑等ノ刑ヲ言渡タル欠席判決ニ對スル故障モ亦ダ禁錮ノ刑ヲ言渡  
タル欠席判決ニ對スル故障ノ規則ニ準據スヘキモノトス

本條ニ於テ罰金以下ノ刑ヲ言渡タル欠席判決及ヒ私訴ノ欠席判決ト  
禁錮ノ刑ヲ言渡タル欠席判決トニ因リ故障期間進行ノ始点ニ付規定  
ヲ異ニシタル理由ハ他ナシ罰金以下ノ刑ヲ言渡タル判決并ニ私訴ノ  
判決ハ誤テ之ヲ執行スルモ多クハ後日ニ至リ之ヲ回復シ得ルモノカ  
或ハ輕微ノ刑ナリト雖モ禁錮以上ノ刑ハ体刑ニシテ一度誤テ執行ス  
ルトキハ之ヲ補ヒ難シ加之ナラス公權停止又ハ公權剝奪ノ附加刑ヲ  
伴ヒ輕易ナラサル刑テレハ之ヲ確定セシムルニハ鄭重ノ手續ヲ盡ス  
ヘシト云フニ在ルナリ

本條ニ所謂ユル送達トハ單ニ訴訟法ニ規定セル送達規則ニ從ヒ爲ス  
送達ノ云ヒナル乎或ハ又ダ普通ノ送届ナル意義ヲモ含有スルモノナ



ルヤ否ヤ余ハ欠席判決ノ送達云々ノ送達ナル語ハ訴訟法ノ規定セル規則ニ從ヒ爲ス送達ノミヲ云フモノニシテ被告人自ラ其送達ヲ受ケ云々ノ送達ナル語ハ之ヲ訴訟法ノ規定ニ從フ送達ノミヲ云ニアラス普通ノ送届ヲモ包含セルモノト解釋ス故ニ第一ノ送達ハ法定ノ手續ニ因リ公吏ニ於テ之ヲ爲シタルニアラサレハ有效ナラス從テ一私人カ爲シタル送達ニ因リ故障期間ノ進行ヲ始ムルモノニアラスト雖モ第二ノ送達ハ被告人ニ於テ必ラスシモ公吏ノ手ヨリ直接ニ其欠席判決ヲ受取スルヲ要セス一日公吏ヨリ受取シタル親屬又ハ其雇人等ヨリ受取シタルトキモ亦タ所謂ユル其送達ヲ受ケタルモノトス其理由ハ若シ第二ノ被告人自ラ其送達ヲ受ケ云々ノ送達ナル文字ヲ訴訟法ノ規定ニ從ヒ公吏ノ爲ス送達ナル意義ニ解スルトキハ被告人ハ事實其親屬等ヨリ欠席判決ヲ受領シ刑ノ言渡アリタルユトヲ領知シナカ

テ故障ヲ申立テサルモ猶ホ故障ヲ爲スノ權利ヲ失ハサルノ結果ヲ見ルニ至ラン如斯ハ法律ノ精神ニアラサルヘキヲ以テナリ此ノ問題ハ即チ左ノ場合ニ於テ利益アルモノトス若シ第二ノ送達ナル文字ヲ第一ノ送達ナル文字ト同一ノ意義ヲ有スルモノト爲ストキハ被告人ニ於テ故障ノ申立ヲ爲ス數十日以前ニ其親屬ヨリ欠席判決ヲ受領シ刑ノ言渡アリタルユトハ當時既ニ承知セシ旨裁判所ニ於テ自白セシトキト雖モ其故障ハ期間中ノ故障トシテ之ヲ受理スヘキモノトス之ニ反シテ第二ノ送達ナル文字ハ普通人ノ送届ケヲモ包含スルモノト爲ストキハ本問場合ニ於テハ其故障ハ期間ヲ經過シタル不適法ノ故障トシテ之ヲ棄却スヘキモノナリ本條ノ規定ニ因ルトキハ欠席判決ヲ以テ禁錮以上ノ刑ヲ言渡シ同時ニ其附帶ノ私訴ニ付キ欠席判決ヲ爲シタル場合ニハ公訴ノ判決ニ對



スル故障期間ハ被告人カ判決ノ送達ヲ受ケ又ハ判決執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルユトチ知リタル日ヨリ進行スト雖モ私訴ニ付テハ單ニ判決ノ送達アリタル日ヨリ進行スルモノナリ故ニ或論者ハ此規定ヲ非難シテ曰ク被告人自ラハ判決ノ送達ヲ受ケ又ハ判決執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルユトチ知リタル日ヨリ三日ノ期間内ニ故障ヲ爲シ前判決ヲ全ク無効ニ歸セシメ其刑事上ノ責任ナク又タ民事上ノ責任ナキユト新判決ニ因リ明瞭セシ場合ト雖モ(例ヘハ欠席判決ニテ竊盜罪ノ處刑ヲ受ケタル被告人其行爲ノ目的物タリシ物件ハ元來自己ノ所有品ナルユトチ証明シ無罪ノ判決ヲ受ケタル場合ノ如シ)前私訴ノ判決ハ既ニ確定シタルモノナレハ之ヲ如何トモ爲ス能ハスシテ二箇ノ確定判決ハ交々支牒スルニ至ルヘキヲ以テ私訴ノ欠席判決ニ對スル故障申立ノ期間モ亦タ公訴ノ欠席判決ニ對スル故障申立ノ期間ト同

ニニスヘキヲ至當ナリトスト然レモ余ヲ以テ者フレハ決シテ論者ノ言フ如キ支牒ヲ生スルモノニアラス何トナレハ單ニ本條ノモニ因リ考案ヲ下ストキハ論者ノ主張セル如キ結果ヲ生スヘシト雖モ元來私訴ハ性質上民事ノ訴訟ニシテ之ヲ刑事ニ附帶セシメタルハ單ニ審理上ノ便益アルニ因ルユトハ既ニ衆人ノ熟知スル處ナリ故ニ一旦刑事裁判所ノ手ヲ離レ公訴ニ附從スル能ハサルニ至リタル本問ノ如キ場合ニ至リテハ爾後民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ其權利若クハ無責任ヲ主張シ得ルハ亦タ論ナキナリ而テ民事訴訟法第四百六十九條第五ニ因レハ民事上ノ判決ノ憑據ト爲タル刑事上ノ判決カ他ノ確定ト爲タル刑事上ノ判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラレタリシトキハ當事者ハ再審ノ訴ニ因リ既ニ確定ト爲タル民事上ノ判決ヲ廢棄若クハ破毀セシメ得ルモノナレハ私訴ニ付不利ナル欠席判決ヲ受ケタル被告人ハ民



事ノ手續ニ從ヒ再審ノ訴ニ因リ既ニ確定シタル前欠席判決モ之ヲ廢棄セシメ得ルモノナレハ兩判決ノ一致ヲ來スハ敢テ道ナキニアラサレハナリ故ニ余ハ本條ニ於テ私訴ノ判決ハ之ヲ永久ニ未確定ノ有様ニ置カス罰金以下ノ刑ヲ言渡タル判決ト同ク其欠席判決ノ送達ヨリ三日内ニ故障セサルトキハ確定スヘシト爲シタルハ至當ノ規定ナリト信ス

余ハ本條ニ於テ猶ホ一言スヘキアリ抑モ判決ノ執行ハ判決確定後ニ非サレハ之ヲ爲ス能ハサルハ第三百十七條ノ規定スル所ナリ而テ欠席判決ハ故障期間ニ故障ノ申立ナク又タ控訴ノ提起ナキトキニ非サレハ確定セサルハ亦タ論ヲ跋タサル處ナルカ故ニ正則ヨリ立論スルトキハ禁錮以上ノ刑ヲ言渡タル欠席判決ハ被告人自ラ其送達ヲ受ケ又タハ判決執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルニトキ知リタル後三日ノ間

ニ故障ノ申立ヲ爲サ、ルトキニアラサレハ確定セサルヲ以テ其期間經過後ニアラサレハ之ヲ執行スル能ハサルモノナリ然ルニ本條ニハ却テ判決ノ執行後ニ故障期間ノ進行ヲ始ムルノ規定アルヲ以テ禁錮以上ノ刑ヲ言渡タル欠席判決ハ其確定前ニ執行ヲ爲シ得ルノ嫌ナキニアラス然レモ法律ノ精神ハ其確定前故障ノ申立アルニ拘ハラス之ヲ執行シ得ルト云フニ在ラスシテ禁錮ノ刑ヲ言渡タル欠席判決ハ普通ノ故障期間則チ判決ノ送達ヨリ三日ノ期間ヲ經過スルトキハ被告人ニ於テ刑ノ時効ノ期間内ニ故障ヲ爲スニ於テハ其判決ハ消滅スヘシトノ解除ノ未必條件ヲ帶ヒタルモノニテ同期間内ニ被告人カ故障ヲ爲サ、ルトキハ其判決ハ確定スヘシトノ未必條件ヲ帶ヒルモノニアラサレハ之ニ付スルニ亦タ同期間内ニ被告人カ故障ヲ爲シタルトキハ執行ヲ止ムヘシトノ解除ノ未必條件ヲ帶ヒタル執行力ヲ以テス



ルハ敢テ妨ケナキモノナリト云フニ在リ而テ本條判決ノ執行トハ即チ解除ノ未必條件ヲ帶ヒタル判決執行ナレハ敢テ判決執行ノ大元則タル判決ハ確定後ニアラサレハ執行スルヲ得ストノ元則ニ背戾スルモノト云フヘカラス

第二百三十條 故障ヲ申立テントスル者ハ關席判

決ヲ爲シタル裁判所ニ其申立書ヲ差出ス可シ

本條ハ故障申立書ヲ提出スヘキ裁判所ヲ定メタルモノナリ抑モ故障ハ其訴訟ノ性質トシテ之ヲ欠席判決ヲ爲シタル裁判所ニ於テ處理スルヲ條理ナリトス故ニ其申立書ノ如キモ之ヲ欠席判決ヲ爲シタル裁判所ニ差出スヘキハ理ノ當然ナリ故ニ若シ欠席判決ヲ爲シタル裁判所ニアラサル裁判所ニ之ヲ差出シタルハ其申立ハ無効ナレハ其無効ノ手續ヲ爲シタル爲メ故障申立ノ期間ヲ經過シタルトキ

ト雖モ欠席者ハ故障申立ノ權利ヲ喪失スルモノトス

第二百三十一條 裁判所ニ於テハ故障ノ申立アリ

タルコトヲ相手方ニ通知シ且其事件ヲ公判ニ付

ス可キ期日ヲ定メ訴訟關係人ヲ呼出ス可シ

本條ハ故障ノ申立アリタルヨリ其審査ニ至ル迄ニ裁判所カ爲スヘキ手續ヲ定メタルモノナリ

裁判所ニ於テ故障申立書ヲ受取シタルトキハ故障裁判所ハ先ツ其旨ヲ相手方ニ通知シ且ツ其事件ヲ審査スヘキ期日ヲ定メ訴訟關係人ヲ呼出スヘキモノトス

第二百三十二條 裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ故障

ヲ許ス可キヤ否ヤ又故障ノ期間ニ於テ申立ヲ爲

シタルヤ否ヤヲ調査シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ



判決ヲ以テ故障ヲ棄却ス可シ

二百六十八

本條ハ故障申立ノ適法ナルヤ否ヤヲ審査判決スルノ手續ヲ規定シタルモノトス  
故障裁判所ニ於テハ前條ノ手續ヲ了ヘ公判期日ニ至リタルトキハ先ツ其職權ヲ以テ第一ニ故障ヲ許スヘキヤ否ヤ即チ法律ニ於テ其判決ニ對シ故障ヲ申立ツルコトヲ許シタルモノナルヤ否ヤ第二假リニ其判決ニ對シ故障ヲ申立ツルコトヲ許シアリトスルモ其故障ハ之レヲ期間内ニ申立テタルモノナルヤ否ヤヲ調査スヘキモノトス而テ所謂法律ニ於テ故障ヲ申立ツルコトヲ許サ、ル判決トハ例ヘハ對席判決若クハ再度ノ欠席判決ノ如シ又々欠席判決ヲ受ケタル後チ被告人死去シタル乎又ハ大赦アリタル乎或ハ刑ノ時効ニ罹リタルトキハ其欠席判決ニ對シテモ亦ダ故障ヲ申立ルコトヲ許サ、ルモノトス若シ裁

判所ニ於テ右ノ調査ヲ爲シ前判決ニ對シテハ故障ヲ許サ、ルモノナルコト又ハ故障申立ハ故障期間ノ經過後ナルコトヲ發見シタルトキハ其理由ヲ付シ判決ヲ以テ故障棄却ノ言渡ヲ爲スヘキモノナリ而テ此場合ニ於テハ素ヨリ本案ニ付キ其審査ヲ爲ニ及ハサルモノトス論者アリ本條并ニ前條ニ付キ說ヲ爲シテ曰ク故障ヲ受理スヘキヤ否ヤヲ審査スルハ故障事件ヲ公判ニ付ス可キ期日ヲ定メ訴訟關係人ヲ呼出スヘキ前ニ於テスヘキモノニテ其之ヲ受理スヘキモノト決定シ始テ公判期日ヲ定メ相手方ヲ呼出スヘキモノナリ故ニ故障ノ受理不受理ノ判決ハ敢テ訴訟關係人ヲ出廷セシメタル上ニテ之ヲ爲スヲ要セス其調査ハ所謂書類審査ナリト然レモ余ハ之ニ反シ先ツ故障事件ヲ公判ニ付スヘキ期日ヲ定メ訴訟關係人ヲ呼出シタル後ニ於テ故障受理不受理ノ審査判決ヲ爲スヘキモノト信ス何トナレハ前條ニ於テ



故障ノ申立アリタルユトテ相手方ニ通知シ且ツ其事件ヲ公判ニ付スヘキ期日ヲ定メル等ノ規定ヲ爲シ本條ニ至リ其受理不受理ノ審査判決ニ關スル規定ヲ爲シタルニ依リ者フルトキハ立法ノ順序ニ於テ先ツ前條ノ手續ヲ爲シ次テ本條受理不受理ノ審査判決ヲ爲スヘキモノト云ハサルヘカヲサレハナリ又々其事件ヲ公判ニ付シタル後ニ於テ受理不受理ノ審査判決ヲ爲スヘキ者トスル以上ハ法律ノ精神ハ其審査判決モ本案ノ審査判決ト同シク之ヲ公判ニ付スルニ在ルヤ推知シ得ヘシ且ツ判決ハ公判即チ當事者ノ口頭辯論ニ基クニ非サレハ之ヲ爲シ得サルコトハ我訴訟法ノ大元則ナレハ故障受理不受理ノ判決ト雖モ公判ニ基キ之ヲ言渡スヘキハ亦タ辯明ヲ要セサル處ナレハナリ

**第二百三十三條 故障ノ申立ヲ受理シタル場合ニ**  
於テハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テ故障申立人闕席シタルトキハ  
更ニ故障ヲ申立ルコトヲ得ス

本條ハ故障事件本案ノ判決ニ關スル規定ナリトス  
故障裁判所ニ於テ前條ノ調査ヲ爲シ二要件ヲ具備スルニ因リ故障ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テハ前言渡タル關席判決ハ同時ニ其効力ヲ喪失スルヲ以テ訴訟ハ關席判決前ノ程度ニ復スルモノナリ故ニ本案事件ハ依然存立スルモノナレハ裁判所ハ更テニ通常ノ規定ニ從ヒ審査判決スヘキモノトス

若シ故障申立人故障事件ノ公判ニ於テモ亦タ關席シタルトキハ如何此場合ニ於テハ裁判所ハ本條第一項ニ因リ通常ノ規定ニ從ヒ再ヒ關席判決ヲ爲スヘキハ言ヲ須ダサル所ナリ而テ此再度ノ關席判決ニ對シテハ再關席者ハ故障ヲ申立ツルヲ得サルモノトス其理由ハ若シ再



度以上ノ關席判決ニ對シテモ猶ホ故障ヲ許ストキハ已レニ不利益ノ判決アラシユトヲ推知セル訴訟關係人ハ故テニ數次關席シテ屢々故障ヲ申立テ訴訟ノ終局ヲ妨碍スルノ懼アルヲ以テナリ

第二百三十四條 第二百四十七條 第二百四十八條  
ノ規定ハ關席判決ニ對スル故障ニモ亦之ヲ準用ス

本條ハ期間經過ニ因リ喪失シタル故障申立ノ權利回復ニ關スル規定ナリトス

前條ニ於テ説明シタル如ク故障ハ罰金以下ノ刑ヲ言渡タル判決及ヒ私訴ノ判決ニ付テハ關席判決ノ送達ヲ受ケタルヨリ又ダ禁錮以上ノ刑ヲ言渡タル判決ニ付テハ被告人自ラ其送達ヲ受ケ又ハ判決執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルユトヲ知リタル日ヨリ三日ノ期間内ニアラサ

レハ之ヲ申立ツルヲ得ス若シ其期間ヲ徒過シタルトキハ全ク申立ノ權利ヲ喪失スルモノトス然レモ毫モ關席者ニ過失懈怠ノ責ムヘキナク止テ得スシテ其期間ヲ徒過シタルトキニモ亦自ラ故障ヲ申立テ得ヘクシテ申立テサリシトキト同視シ其申立ノ權利ヲ喪失セシムルハ蓋シ苛酷タルヲ免レス是本條ノ規定アル所以ナリ而テ其權利ヲ回復スルニ要スル條件其手續并ニ其結果等ハ第二百四十七條及ヒ第二百四十八條ノ規定ニ準據スヘキモノトス故ニ其詳細ノ説明ハ右二條ヲ解説スル際ニ讓ラシム

### ○第三章 地方裁判所公判

地方裁判所ハ曾テ説述シタル如ク區裁判所ト異ナリ三名ノ判事ヲ以テ組織シタル合議ノ裁判所ナリ既ニ其組織ヲ異ニス從テ又ダ其權限上ニ差異アルハ條理ノ然ラシムル所トス而テ其權限上ノ重ナル差異



ハ第一犯罪ノ種類即チ其輕重ニ因リ管轄ヲ異ニスルヲ第二地方裁判所ハ或ル犯罪ニ付テハ第一審裁判所タルモ區裁判所ノ管轄ニ屬スル犯罪ニ付テハ第二審裁判所タルノ權限ヲ有スルユト是ナリ故ニ地方裁判所ハ第一審裁判所并ニ第二審裁判所タル二個ノ資格ヲ有スルモノトス余ハ是章ニ於テハ第一審裁判所タル資格ニ於テ開廷セル公判ノ手續ヲ解説シ第二審裁判所トシテノ公判手續ハ次章ニ於テ説明シ又々管轄ニ關シテハ第二編ニ於テ他講師ノ既ニ詳説セラレシノミナラス第二百十二條ニ於テ解説シタル區裁判所ノ管轄ニ屬スル犯罪及ヒ裁判所構成法第五十條ニ定メタル大審院ノ權限ニ屬スル犯罪ノ外總テ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノナレハ本章ニ於テハ其詳細ヲ説述セス

第二百三十五條 地方裁判所ニ於テハ豫審判事又

ハ上級裁判所ヨリ事件ヲ移ス裁判ニ因リ其管轄ニ屬スル輕罪及ヒ重罪ノ公訴ヲ受理ス

又輕罪ニ付テハ檢事ノ起訴ニ因リ其公訴ヲ受理ス

本條ハ地方裁判所カ公訴ヲ受理スルノ原因ヲ定メタルモノナリ地方裁判所ハ區裁判所ト同シク二箇ノ原由ニ因リ其管轄ニ屬スル公訴ヲ受理ス而テ其原由トハ第一豫審判事又ハ上級裁判所ヨリ事件ヲ移スノ裁判第二檢事ノ起訴是ナリ其詳細ハ第二百十二條ニ於テ説述シタルヲ以テ茲ニ再ヒ贅セス

只茲ニ注意スヘキハ檢事ノ起訴ニ因リ公訴ヲ受理スルハ輕罪ニ限ルモノニテ重罪ハ必ラス豫審ヲ經由スヘキモノナレハ檢事ノ起訴ニ因リ之ヲ受理スルナキユト是ナリ

第二百三十六條 前章ノ規定ハ此章ニ別段ノ定メ



ナキモノニ限り地方裁判所ノ輕罪、重罪ノ公判ニ準用ス

本條ハ區裁判所公判ニ關スル規定ヲ地方裁判所ノ公判ニ準用スヘキコトヲ定メタルモノナリ

區裁判所ト云ヒ地方裁判所ト云ヒ同シク第一審裁判所ニシテ只ダ其異ナル所ハ審判スヘキ犯罪ノ種類ニ差異アルノミ故ニ其公判手續ニ於テモ亦タ嚴寬ト繁簡ノ差アルニ過キス是ヲ以テ本章ニ於テ特別ノ規定ナキ以上ハ區裁判所ノ公判手續ヲ準用スヘキハ當然ナリトス

第二百三十七條 重罪事件ニ付テハ開廷前裁判長又ハ受命判事ハ裁判所書記ノ立會ニ依リ一應被告入ヲ訊問シ且辯護人ヲ選任シタルヤ否ヤヲ問フ可シ

若シ辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ノ職權ヲ以テ其裁判所所屬ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任ス可シ  
被告人及ヒ辯護士ニ異議ナキトキハ辯護士一名ヲシテ被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムコトヲ得」  
書記ハ本條ノ訊問ニ付キ特ニ調書ヲ作ル可シ

本條ハ地方裁判所カ重罪事件ノ開廷前爲スヘキ手續ヲ定メタルモノナリ

凡ソ刑罰ハ人ノ財産名譽自由又タ其重ニ至リテハ生命ヲモ剝奪スルモノナレハ犯罪ノ審査判決ハ須ラフ鄭重ニスヘキハ論ヲ須タサル所ナリト雖モ其刑罰中最モ重キハ即チ重罪ノ刑ナレハ重罪ノ審査ニ判決ニ付テハ復タ一層戒慎ヲ加ヘサルヘカヲサルナリ是レ本條ニ於テ重罪ノ審査ニ付キ特殊ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ



而テ其規定ニ依レハ重罪事件ニ付テハ裁判長又ハ其委任ヲ受ケタル  
 判事即チ受命判事ハ開廷前ニ於テ書記ノ立會ニ依リ其事件ニ付第一  
 被告人ニ對シ被告事件ノ概略ヲ訊問シ第二辯護人ヲ撰定シタルヤ否  
 ヤヲ訊問スヘキモノトス此開廷前訊問ノ制ヲ設ケタル利益ハ第一審  
 問ノ指揮ヲ爲スニ付裁判長ヲシテ豫メ被告人ノ性質摸樣ヲ檢察シ且  
 被告事件ヲ明瞭ナラシムルニアリ第二重罪公判ニ付スルノ豫審決定  
 ニ對シテハ被告人ハ其決定ノ送達アリシ日ヨリ三日ノ期間内ニ抗告  
 ヲ爲スヲ得ヘクシテ其期間内ハ決定ノ執行ヲ停止スルモノトス而  
 テ若シ其決定書ニ抗告ヲ爲シ得ヘキヲ及ヒ其期間ヲ掲載シアラサル  
 并ハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ決定ノ送達アルマテ抗告期間ノ經過ヲ停  
 止スヘキモノナレハ從テ亦タ此場合ニ於テハ公判ヲ開始スル能ハサ  
 ルモノナリ然ルニ其等ノ事實ハ開廷前ノ一應被告人ノ訊問ヲ爲スニ

アラサレハ之レヲ發見スル甚タ難シ故ニ開廷前ノ訊問ハ其事實ヲ發  
 見スルノ利益アリ第三重罪事件ニ付テハ必ラス辯護人ヲ附スヘキモ  
 ノナリ若シ辯護人ナクシテ重罪ノ刑ヲ言渡タルトキハ其言渡ハ無効  
 ノモノトス故ニ辯護人ナクシテ開廷シタルトキハ止ヲ得ス其開廷ヲ  
 延期セサルヘカラス然ルニ開廷前豫メ之ヲ撰定シタルヤ否ヤヲ訊問  
 スルトキハ開廷ヲ延期スルノ不便アルコトナシ是レ其第三ノ利益ナ  
 リトス

若シ被告人ニ於テ辯護人ヲ撰定セサルトキハ如何裁判長ハ被告人ノ  
 意思如何ニ拘ハラス職權ヲ以テ其裁判所所屬ノ辯護士中ヨリ其辯護  
 人ヲ撰任スヘキモノトス此場合ニ於テハ辯護士ハ正當ノ理由アルニ  
 アラサレハ其辯護ヲ辭スル能ハサルモノナリ但シ被告人及ヒ辯護士  
 ニ異議ナキトキハ辯護士一名ヲシテ被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムル



コトヲ得ルモノトス然レモ職權ヲ以テ撰任スル辯護人ハ被告人一名ニ付辯護士一名ニ限ルモノニテ一人ノ爲メ二人以上ノ辯護士ヲ撰任スル能ハサルモノナリ

抑モ辯護人トハ被告人ノ爲メ辯護辯駁ノ權ヲ行用スル者ヲ云フ而テ其辯護權ハ被告人ニ重要ナル人權ナレハ全ク被告人ニ屬スル權利ナリ從テ又ダ其撰任ヲ爲スト爲サ、ルトハ被告人ノ自由ニテ他ヨリ敢テ其行用ニ干涉スヘキモノニアラサルナリ是ヲ以テ本法第七十九條ニ於テモ被告人ハ辯護人ヲ用ユルヲ得ト規定シ「用ユヘシ」トノ命令的ノ規定ヲ爲サスシテ自由辯護ノ制ヲ採レリ然ルニ本條ニ於テ重罪事件ニ付テハ必ラス辯護人ヲ撰任スヘシトノ規定ヲ爲シ必要辯護ノ制ヲ採ル所以ノモノハ何ソヤ凡ソ裁判ノ要ハ其適實至正ヲ得ルニ在リ而テ適實至正ヲ得ルニハ檢事ノ論告ニ對シ被告人ノ爲メ辯護辯駁

ヲ爲サシムルニ若クハナシ是ヲ以テ辯護ハ獨リ被告人ニ益利ナルノミナラス社會公益上ニ於ヒテ亦ダ必要ノモノトス特ニ重罪事件ノ如キ事實複雑ニシテ且ツ刑罰ノ重大ナル場合ニ於テ其要ヲ見ル故ニ我立法者ハ普通ノ犯罪ニ付テハ自由辯護ノ制ヲ採ルニ拘ハラス重罪事件ニ付テハ斷然必要辯護ノ制ヲ採用セリ是レ本條ノ設ケアル所以ナリ然レモ茲ニ注意スヘキハ其裁判所ニ所屬ノ辯護士ナキトキハ必ラスシモ辯護士ヲ撰任スルヲ要セサルト是ナリ何トナレハ本條第二項ヲ見ルニ裁判長ノ職權ヲ以テ其裁判所權所屬ノ辯護士中ヨリ撰任スヘシトアルニ依リ其裁判所ニ所屬ノ辯護士ナキ場合ハ本條ノ規定スル所ニアラサルヲ以テナリ

本條ノ訊問ハ必ラス之ヲ公開スヘキモノニテ公開停止ノ決議ナクシテ公開セサルトキハ無効タルヘキヤ否ヤ本條ノ訊問ハ其目的トスル



所被告人ノ有罪無罪ヲ判定スルニアラス單ニ其開廷ヲ爲スノ準備整頓セルヤ否ヤヲ發見スルニ在リ故ニ別ニ判決決定ヲ爲スヲ要セス且ツ原被告ノ對審ヲ要セサルモノトス是ヲ以テ帝國憲法第五十九條ニ所謂ユル裁判ノ對審判決ナルモノニアラサルヲ以テ之ヲ公開セサルモ效テ無効タルモノニアラス又々其場所ノ如キモ必ラスシモ訟廷ニ於テスルヲ要セス或ハ監倉ニ於テスルモ妨ケナキモノナリ前段說述シタル手續ハ公判手續ニアラスト雖モ訴訟手續ノ一部ナルヲ以テ裁判所書記ハ其訊問ニ立會調書ヲ作成シ裁判長若クハ受命判事ノ爲シタル被告事件ノ問答及ヒ辯護人撰定ニ關スル問答并ニ被告人自ラ辯護人ヲ撰定セサリシ爲メ裁判長ニ於テ之ヲ撰任シタルトキハ其撰任ノ事實等ヲ錄取スルコトヲ要スルモノトス裁判所ニ於テ本條開廷前ノ訊問ヲ爲サスシテ重罪事件ニ付審理判決

セシトキハ如何若シ裁判所ニ於テ公判開始前被告人ヲシテ辯護人ヲ撰任セシムル乎或ハ其職權ヲ以テ之ヲ撰任シタル場合ニハ假令ヒ其他ノ手續即チ被告事件概要ノ訊問ヲ爲サ、リシト雖モ被告人異議ナクシテ辯論ニ着手シタルトハ最早其手續ヲ履行セサリシノ故ヲ以テ異議ヲ唱フルヲ得ス又々之ヲ以テ上告ノ理由ト爲ス能ハサルモノナリ何トナレハ被告事件概要ノ訊問ハ單ニ辯論準備ノ爲メ設ケタル手續ナレハ異議ナクシテ辯論ニ取掛リタル以上ハ自ラ之ヲ必要トセサリシモノト認ムヘキヲ以テナリ然レモ之ニ反シ被告人ニ於テ辯護人ヲ撰任セサリシ場合ニ裁判所ニ於テ辯護人ノ撰任ナク裁判ヲ爲シタルトキハ假令ヒ其他ノ手續即チ被告事件ノ概要ニ付キ訊問ヲ爲シタルトキト雖モ被告人ハ其不行爲ニ對シ辯論終結ニ至ルマテ異議ヲ申立テ得ルノミナラス若シ裁判所ニ於テ其手續ヲ補充セスシテ刑ノ



言渡ヲ爲シタル場合ニハ其手續ヲ尽サ、ルノ故ヲ以テ上訴ヲ爲シ其判決ヲ廢棄若クハ破毀セシメ得ルモノトス何トナレハ第二ノ手續ハ獨リ辯論ノ準備上必要ナルノミナラス辯護人ノ撰任ハ重罪事件ノ公判開廷ニ付キ一ノ必要條件ナルヲ以テ若シ其規定ニ違背セルトキハ即チ被告人ノ利益ノ爲メ設ケタル規定ヲ遵守セサルモノナレハ法律ニ違背ノ裁判ナルヲ以テナリ但シ前段説明セシ如ク其裁判所ニ所属ノ辯護士ナキトキハ此限リニアラス

本條ニ付疑問アリ即チ第一重罪事件ノ被告人欠席ニテ豫審終結ノ決定ヲ受ケ公判ニ付セラレタルトモ亦タ本條ノ規定ニ從ヒ開廷前ニ本條第一項ノ訊問手續ヲ爲スヘキヤ否ヤ余ハ裁判所ニ於テハ常ニ其手續ヲ爲サ、ルヘカラス而テ若シ相當ノ手續即チ合式ノ呼出ヲ爲シタルニ被告人出頭セサル乎或ハ其所在不明ナル場合ハ必ラスシモ本

條ノ訊問ハ之ヲ爲スヲ要セサルモノト信ス

第二重罪事件ノ被告人欠席セル場合ニモ亦タ職權ヲ以テ辯護人ヲ撰任スヘキモノナルヤ否ヤ余ハ積極論ヲ採リ此場合ニ於テモ亦タ職權ヲ以テ辯護人ヲ撰任スヘキモノト信ス其理由ハ第一前段説明セシ如ク重罪事件ノ辯護人ハ獨リ被告人ニ利益ナルノミナラス裁判ノ適實至正ヲ得ル爲メ社會ノ公益上ニ利益アルモノナレハ重罪事件ニ辯護人ヲ付スルハ素ヨリ被告人ノ意思如何ニ拘ハラス裁判所ハ職權ヲ以テ其撰任ヲ爲スヘキモノナリ若シ夫レ其撰任ハ被告人ノ意思如何ニ因ルモノトセハ被告人欠席セル場合ニハ其辯護人ヲ撰任スルノ意顯著ナラサルヲ以テ裁判所ハ辯護人ヲ撰任スヘキニアラスト雖モ重罪事件ニ付辯護人撰任ノ規定ハ前段述べタル如ク公益ト私益トニ基クモノナルニ因リ單ニ被告人欠席セルノミニテハ辯護人ヲ撰任スヘカ



カラサルトノ理由ト爲スニ足ラサルナリ第二本條第二項ハ重罪事件ノ辯護人撰任ニ關スル惟一ノ規則ニシテ他ニ欠席ノ場合ニ關スル特別規則アラサルヲ以テ重罪事件ノ辯護人撰任ニ關シテハ欠席タルト對席タルトヲ問ハス常ニ本條ノ規定ニ從フヘキモノトス然ニ本條ハ其裁判所々屬ノ辯護士中ヨリ之ヲ撰任ス可シトノ命令的ノ條文ナルヲ以テ裁判所ハ本問場合ニ於テモ亦タ辯護人ヲ撰任スヘキ義務アルモノト斷論セサルヲ得ス加之ナラス舊治罪法ニハ其第二百七十條ニ於テ欠席シタル被告人ニ付テハ辯護人ヲ用フルコトヲ許サストノ規則アリシニ刑事訴訟法ニ其規則ノ設ケナキヲ以テ見レハ立法者ノ精神モ亦タ重罪事件ニ付テハ縱令ヒ被告人欠席セルトキト雖モ辯護人ヲ撰任スヘシト云フニ在リシヤ推知スヘキナリ

第二百三十八條 裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必

要ナリトスルトキハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ受命判事ヲシテ臨檢ノ處分ヲ爲シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

本條ハ地方裁判所ノ臨檢處分ニ關スルノ規定ナリ

地方裁判所ニ於テ臨檢處分ヲ爲スニハ左ノ二條件ヲ要ス

第一條件事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキ元來臨檢ハ犯罪ノ事跡ヲ証明スル爲メニ爲スヘキモノナレハ之ヲ爲スニハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキニ限ルハ素ヨリ事理ノ當然ナリトス

第二條件受命判事ニ委託スルコト臨檢ノ事タル素ヨリ重要ナルニ相違ナシト雖モ必ラスシモ三人ノ判事ヲシテ臨檢セシムルノ要ナシ加之ナラス三人ノ判事ヲシテ臨檢セシムルトキハ費用ノ増加スルヲ見ルノミニ是レ本條ニ地方裁判所ノ臨檢ハ之ヲ受命判事ニ委託スルノ



規定アル所以ナリ而テ何レノ判事ヲ以テ受命判事ト爲スヘキヤハ其  
裁判所ニ於テ自由ニ決定シ得ルモノナレハ或ハ陪席判事ヲ以テ受命  
判事ト爲スユトアルヘク或ハ又裁判長ヲ以テ受命判事ト定ムルコト  
アルヘキナリ然ルニ世々々受命判事タルヘキモノハ陪席判事ニ限ル  
ト唱フルモノアリト雖モ本條ノ受命判事ハ裁判長ノ命スル所ニアラ  
ス裁判所カ命スル所ナレハ裁判長ヲ以テ受命判事ト爲スユトテ得ル  
モノトス

右二个ノ條件ヲ具フルトキハ他ニ何等ノ條件ヲ要セス臨檢スルコト  
ヲ得ルモノナリ故ニ檢事其他訴訟關係人ノ請求ノ有無及ヒ其事件豫  
審ヲ經タルヤ否并ニ急速ヲ要スルト否トハ敢テ問フ所ニアラサルナ  
リ

本條ニ因リ委任ヲ受ケタル受命判事ハ臨檢ノ處分ヲ爲シ其結果ヲ裁

判所ニ報告スヘキモノトス

### 第二百三十九條 裁判所ニ於テハ被告人其罪ヲ自

白シタルトキト雖モ仍ホ證據ヲ取調サル可カラ  
ス

本條ハ被告人ノ自白并被告事件ノ証憑調ニ關スルノ規定ナリトス  
余ハ第二百十九條ニ於テ被告人ノ自白アリタル場合ニ檢事及ヒ民事  
原告人ノ異議ナキトキハ區裁判所ハ他ノ証憑ヲ取調フルニ及ハス單  
ニ其自白ニ因リ判決シ得ヘキ旨ヲ述タリ然レモ地方裁判所ニ於テハ  
之ニ異ナリ縱令ヒ被告人ノ自白アリタリト雖モ必ラス証憑ノ取調ヲ  
爲サ、ルヘカラス而テ兩裁判所ノ公判手續上ニ此差異アル所以ノモ  
ノハ地方裁判所ノ公判事件ハ區裁判所ノ公判事件ニ比シ社會并ニ被  
告人ノ利害ニ關スルユト重大ナルヲ以テ特ニ鄭重ノ手續ヲ爲シ虚構



ノ自白ニ因リ錯誤ノ裁判ヲ爲ス等ノユトナキヲ欲スルニ外ナラサルナリ

然レモ裁判所ニ於テ証憑取調ノ後其自白ハ眞實ナリトノ心証ヲ得タルトキハ其自白ノミニ因リ刑ノ言渡ヲ爲シ得ルハ論ヲ俟タサル所ナリ

第二百四十條 裁判所ニ於テハ被告事件區裁判所

ノ管轄ニ屬スルモノト認メタルトキト雖モ第一

審ノ判決ヲ爲ス可シ

私訴ニ付キ其請求ノ價額通常民事上區裁判所ノ

管轄ニ屬スルトキ亦同シ

本條ハ地方裁判所ニ於テ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ事件ヲ受理シタル場合ノ處分權ヲ定メタルモノトス

區裁判所ト地方裁判所ノ刑事上ノ裁判權ニ付テハ裁判所構成法第六條及ヒ第二十七條ニ於テ整然其區畫ヲ定メタリ然ルニ本條ニ於テ地方裁判所ハ被告事件區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認メタルトキト雖モ管轄違ノ言渡ヲ爲サス本條第一審ノ判決ヲ爲スヘシトノ規定ヲ設ケタルノ理由ハ如何第一地方裁判所ハ區裁判所ノ上級裁判所ナレハ其審査上ノ手續モ之ヲ區裁判所ノ審査手續ニ比シ一層ノ鄭重ヲ加ヘアルヲ以テ區裁判所ノ權限ニ屬スル事件ヲ地方裁判所ニ管轄セシムルモ毫モ被告人ニ不利益ヲ來スユトナキノミナラス若シ之ニ對シ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘキモノトスルトキハ時日ト費用トヲ徒費シ公私ノ利益ニアラサルナリ是レ本條ニ於テ地方裁判所ハ管轄違ノ言渡ヲ爲サス本案ニ付判決スヘシト定メタル所以ナリ第二抑モ我刑事訴訟法ニ於テ第二審ノ審査則チ扣訴ヲ許ス所以ノモノハ一方ニ於テ



ハ裁判官ト雖モ過誤ナキヲ保セサレハ裁判所ヲシテ事實并ニ法律ノ  
 解釋ト適用トニ付キ再考熟慮シ適實至正ノ裁判ヲ爲サシメント欲シ  
 又々他ノ一方ニ於テハ第一審ノ判決ニ對シ不滿ヲ抱ケル被告人ヲシ  
 テ滿心セシメントスルニ在リ故ニ訴訟ノ當事者ハ第一審ノ判決ニ滿  
 足セサルトキハ控訴ヲ提起シ第二審裁判所ノ審判ヲ受クル權利ヲ有  
 スルモノトス而テ此權利タル被告人ノ爲メニハ重要ノ權利ナレハ容  
 易ニ之ヲ剝奪スヘキニアラス加之ナラス第二審ノ審判ハ一應第一審  
 ノ審判ヲ受ケタル事件ニ付キ始メテ爲スヘキモノニテ未ダ一回タモ  
 判決ヲ受ケサル事件ニ付キ爲スヘキモノニアラス是レ本條ニ於テ第  
 一審ノ判決ヲ爲スヘシト規定シタル所以ナリ  
 私訴ノ請求價額通常民事上區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキトキ亦同シク  
 管轄違ノ言渡ヲ爲スニ及ハス地方裁判所ニ於テ本案ニ付第一審ノ判

決ヲ爲シ得ルモノトス其理由ハ前段公訴ニ付述タル所ト同一ナリ  
 茲ニ注意スヘキハ本條ニ所謂ニル管轄ナル文字ハ公訴ニ付テハ單ニ  
 犯罪ノ種類ニ因ル管轄ヲ指シタルモノニテ私訴ニ付テハ又單ニ事物  
 ノ管轄ヲ指シタルモノナルト是ナリ若シ公訴私訴共ニ犯罪ノ種類又  
 ハ事物ノ管轄ニ因リ地方裁判所ノ管轄ニ屬セサルノミナラス土地ノ  
 管轄ニ因リ其地方裁判所管外ノ區裁判所ニ屬スル事件ナルトキハ管  
 轄違ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス又々本條ノ判決ニ對シテハ通常ノ規  
 定ニ從ヒ控訴院ニ控訴ヲ爲スヘキモノニテ地方裁判所ニ控訴スヘキ  
 モノニアラサルヤ言ヲ須タサル所ナリ

第二百四十一條 裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シ

タル事件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ檢事ヨリ更  
 ニ其事件ヲ重罪トシテ訴追スルコトヲ申立タル



トキハ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲ス可シ但被告  
人勾留ヲ受ケサルトキハ勾留狀ヲ發ス可シ  
其被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ更ニ  
重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ受命  
判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム  
可シ  
受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ  
得

本條ハ地方裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪トスルト  
キ又ハ檢事ヨリ更テニ其事件ヲ重罪トシテ訴追スルコトヲ申立タル  
トキノ處分方法ヲ規定シタルモノナリ  
地方裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ

又ハ檢事ヨリ更テニ其事件ヲ重罪トシテ訴追スルコトヲ申立タル場  
合ニ於テ其裁判所ノ爲スヘキ處分ハ其事件既ニ豫審ヲ經タルモノナ  
ルト否トニ因リ差異アルモノトス故ニ余ハ第一被告事件未ダ豫審ヲ  
經サル場合第二被告事件既ニ豫審ヲ經由シタル場合トニ區別シテ解  
說セントス

右第一ノ場合ニ於テハ裁判所ハ其事件ヲ檢事ニ返付セス直ニ之ヲ豫  
審判事ニ送付スルノ決定ヲ爲スヘキモノトス其理由ハ第一輕罪ニ該  
ルヘキ被告事件ハ必ラスシモ豫審ヲ經ルヲ要セスト雖モ重罪ニ該ル  
ヘキ被告事件ハ必ラス豫審ヲ經タル後ニアラサレハ公判ニ付スヘキ  
モノニアラス是レ豫審判事ニ其事件ヲ送付スル所以ナリ第二豫審判  
事ハ公判判事ト同一ノ地方裁判所内ニアルヲ以テ一旦之ヲ檢事ニ返  
付シ檢事ヲシテ豫審判事ニ送付セシムルヨリハ寧ロ直ニ之ヲ送付ス



ルノ便且利ナルニ若カス是レ檢事ニ返付セス裁判所ニ於テ直ニ豫審  
 判事ニ送付スル所以ナリトス而テ右送付ノ決定アリタルトキハ檢事  
 ハ其決定執行ノ責ニ任シ訴訟書類及ヒ証據物件ハ被告人ト共ニ之ヲ  
 豫審判事ニ送致シ豫審判事ハ亦タ豫審ノ規則ニ從ヒ豫審ヲ遂ケ其信  
 スル所ニ因リ其事件ヲ管轄裁判所ノ公判ニ付スルノ決定ヲ爲シ又ハ  
 被告人ニ對シ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス  
 若シ裁判所ニ於テ右送付ノ決定ヲ爲スニ際シ被告人勾留ヲ受ケサル  
 トキハ裁判所ハ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スヘキモノトス  
 第二ノ場合即チ被告事件既ニ豫審ヲ經タル場合ニ於テハ之ヲ豫審ニ  
 送付スルノ決定ヲ爲サス唯タ公判ヲ中止シ更テニ重罪事件トシテ裁  
 判スヘキ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ヲシテ其事件ニ付キ取調ヲ爲シ且  
 ツ其報告ヲ爲サシムヘキモノトス而テ其理由ハ第一此場合ニ於テ再

ヒ其事件ヲ豫審判事ニ送付セサル所以ハ凡ソ特別ノ事故即チ新証憑  
 ヲ發見シタル場合ニアラサレハ豫審ヲ再ヒセサルヲ原則トスルノミ  
 ナラス再度其裁判所ノ豫審判事ニ其豫審ヲ爲サシムルハ恰カモ其爲  
 シタル豫審終結決定ノ不當ナルヲ改メシムルト一般ナレハ假令ヒ之  
 ヲ豫審判事ニ送付スルモ其實功ヲ収ムルコト困難ナルヲ以テナリ第  
 二受命判事ヲシテ取調ヲ爲シ其報告ヲ爲サシムル所以ハ豫審判事ハ  
 其犯罪ヲ以テ輕罪ニ該ルヘキモノト思料シタルモノナレハ其豫審タ  
 ル之ヲ十分ノモノト云フヘカラス其トテ同一ノ豫審判事ニ再度其豫  
 審ヲ爲サシムルモ前段述べタル如ク其實功ヲ収ムル難キヲ以テ受命判  
 事ヲシテ之カ取調ヲ爲サシムルニ若カスト云フニ在リ  
 而テ本條ノ受命判事ハ第二百三十七條ノ受命判事ト異ナリ其事件ノ  
 豫審ヲ爲スモノナレハ豫審判事ニ屬スル一切ノ處分ヲ爲スコトヲ得



ルモノトス然レモ法律ニ云フ所ノ豫審ニアラサレハ其取調ヲ結了スルニ當リ終結ノ決定ヲ爲スニ及ハス單ニ取調ノ結果ヲ報告スルニ止マルモノトス

○第五編 上訴

上訴トハ判決又ハ決定ニ服從セサル者上級裁判所ニ申立テ其判決又ハ決定ヲ廢滅シ又ハ其廢滅シタル判決若クハ決定ニ更ヘ新ナル判決若クハ決定アラソクヲ要求スルノ訴ヲ云フナリ  
上訴ヲ大別シテ二トス第一通常上訴第二非常上訴是ナリ  
第一通常上訴トハ第一審ノ判決ニ對シ爲ス控訴及ヒ豫審又ハ公判中ノ決定ニ對シ爲ス抗告ニシテ其目的ハ原判決又ハ決定ヲ改正セシムルニ在ルモノナリ  
第二非常上訴トハ其事件ニ付裁判セシムルモノニアラス原裁判ハ法

律ニ適合セルヤ否ヤ即チ法律ニ違背セル所ナキヤ否ヤヲ裁判セシムルヲ目的トスルモノニテ上告ノ如キ是ナリ

今通常上訴ト非常上訴ノ間ニ存スル差異ノ要点ヲ述ブニ前段説明セシ如ク通常上訴ハ事件其者ニ付キ事實ノ復審ト判決ノ改正トヲ求ムルヲ目的トセルモノナレハ概シテ其原因ニ制限ナシ故ニ當事者ハ裁判ニ不服アルトキハ常ニ法律ノ許セル通常上訴ヲ爲スユトヲ得之ニ反シテ非常上訴ハ單ニ原裁判カ法律ニ違背スル所ナキヤ否ヤヲ審査セシムルヲ目的トシ判決ノ改正ヲ求ムルモノニアラサレハ之ヲ許スノ原因ハ法律ノ明定スル所ナリ例ヘハ控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所カ第一審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ第百八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對シテハ常ニ之ヲ提起シ得ヘシト雖モ上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲シ得ヘキ



モノ、如キ是レナリ

三百〇〇

○第一章 通則

本章ハ上訴即チ控訴上告及ヒ抗告ニ共通ナル規則ヲ規定シタルモノナリ

第二百四十二條 檢事其他訴訟關係人ハ法律ニ許

シタル上訴ヲ爲スコトヲ得

檢事ハ被告人ノ利益ノ爲メニモ亦上訴ヲ爲スコトヲ得

本條ハ上訴ヲ爲シ得ヘキ人ヲ定メタルモノトス

本條ニ依リ上訴ヲ爲シ得ヘキ權利ヲ有スル者ハ第一檢事第二訴訟關係人ナリ

第一檢事 檢事ハ社會ヲ代表シ公訴ノ原告人タル者ナレハ其論告ノ

趣旨ヲ貫徹スルヲ得サルトキ(例ヘハ被告人無罪若クハ免訴ノ言渡ヲ受ケタル乎又ハ之ニ科シタル刑罰輕キニ過キタルトキ)ハ原告人タルノ資格ヲ以テ其判決ニ對シ上訴ヲ爲シ得ルモノトス

被告人過重ノ刑罰ヲ受ケタル時又ハ罪ナクシテ刑ノ言渡ヲ受ケタル場合ニモ亦タ檢事ハ被告人ノ爲メ其判決ニ對シ上訴ヲ爲シ得ルモノトス何トナレハ檢事ハ惟リ社會ヲ代表シ公訴ノ原告人タルノミナラス一方ニ於テハ社會ノ公益ヲ保護スル職務アルモノナリ然ルニ無辜ノ良民ヲシテ無實ノ罪ニ陷ラシメ或ハ被告人ヲシテ過重ノ刑ヲ受ケシムルハ惡徒ヲシテ刑罰ヲ免レシムルト同シク公益ニ危害ヲ加フルモノナレハ公益ノ保護者トシテ其判決ヲ空シク看過スヘキニアラサレハナリ

第二訴訟關係人 訴訟關係人ヲ別テ三トス第一被告人第二民事原告



人第三民事擔當人はナリ

(甲) 被告人 被告人ハ裁判(即チ判決決定命令)ニ付テ最モ重大ナル利害ノ關係ヲ有スル者ナレハ不服ノ裁判ニ對シテ上訴ヲ爲シ得ルハ理ノ當サニ然ルヘキ所ナリ然レモ無罪又ハ免訴ノ裁判ニ對シテハ上訴ヲ爲スノ權ナシ何トナレハ何人ト雖モ利益ヲケレハ訴訟ヲ爲スノ權利ナシ然ルニ無罪若クハ免訴ノ裁判ヲ受ケタル場合ニハ之ニ對シテ上訴ヲ爲スモ毫モ利益ヲ得ル所アラサレハナリ

然レモ我刑事訴訟法ヲ覽ルニ上告ノ部第二百七十條ニ於テ「免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テ被告人ノ利益ノ爲メ設ケタル規定ニ背キタル」又ハ土地ノ管轄違アリト雖モ上告ノ理由ト爲スヲ得ス「トアリ控訴ノ部ニ於テハ何等ノ規定ナキヲ以テ被告人カ無罪又ハ免訴ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スハ敢テ妨ケナシトノ疑念ナキニアラス

然レモ利益ヲケレハ訴權ナシトハ我立法者カ採用シタル訴訟法上ノ大原則ナリ而テ第二百七十條ハ單ニ其原則ノ適用ノ一ヲ明示シタルニ過キサルモノナレハ是ニ因テ以テ無罪又ハ免訴ノ判決ニ對シテ被告人カ控訴ヲ爲スユトハ之ヲ許シタルモノトハ斷定スヘカラサルナリ唯々爰ニ第二百七十條ニ付一言スヘキハ立法者ハ利益ヲケレハ訴權ナシトノ原則ヲ免訴ノ場合ニ適用セルモ元來免訴ノ判決ハ被告人ヲシテ無罪潔白者ダラシムルモノニアラス唯々其刑ヲ免スルニ過キサルモノナレハ被告人ハ其判決ニ對シテ上訴ヲ爲シ無罪ノ判決ヲ受クルニ付テハ猶ホ名譽上ノ利益ヲ有スルモノナレハ立法上ヨリ論スルトキハ免訴ノ判決ニ對シテハ上訴ヲ許スヘキヲ至當ナリトス

(乙) 民事原告人 民事原告人モ亦タ私訴ノ裁判ニ付テハ重大ナル利害ノ關係ヲ有スルモノナレハ自己ニ不利益ナリト信スル裁判ニ對シテ



ハ上訴ヲ爲スノ權アルモノトス然レモ公訴ノ裁判ニ付テハ其當事者ニアラサルヲ以テ如何ナル場合ニ於テモ上訴ヲ爲ス能ハサルモノトス

(丙) 民事擔當人 民事擔當人トハ曾テ説明シタル如ク被告人ニ代リ民事上ノ責任ヲ負擔スル者ヲ云フ而テ民事擔當人カ上訴ヲ爲シ得ル所以ハ民事擔當人ハ私訴ノ當事者ナレハ其裁判ニ付キ直接ニ利害ノ關係ヲ有スルモノナレハナリ但シ公訴ノ判決ニ付テハ直接ノ關係ヲ有セサルヲ以テ之ニ對シ上訴シ能ハサルハ言ヲ俟タサル所ナリ

第二百四十三條 辯護人ハ被告人ニ代リ上訴ヲ爲

スユトヲ得但被告人ノ明言シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

本條モ亦タ上訴ヲ爲シ得ヘキ人ニ關スル規定ナリトス

辯護人ハ上訴ニ關シ被告人ヨリ特別ノ委任ヲ受ケサル場合ト雖モ被告人ニ不利益ナリト信スル裁判ニ對シテハ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スユトヲ得ルモノナリ然レモ若シ被告人カ其裁判ニ對シ上訴ヲ爲サ、ルノ意思ヲ明言シタルトキハ其意思ニ反シテ上訴ヲ爲スヲ得サルモノトス

本條ニ於テ立法者カ辯護人ハ被告人ノ明言シタル意思ニ反セサル以上ハ上訴ヲ爲シ得ヘシトノ規定ヲ設ケタル理由ハ蓋シ辯護人ハ被告人ノ爲メ辯護權ヲ行使スル者ニテ其利益ヲ保護スルノ責務アルヲ以テ被告人ニ於テ上訴ヲ爲サ、ルコトヲ明言セサル場合ニハ辯護權行使ノ爲メ上訴ヲ提起スルコトモ亦タ之ヲ辯護人ニ委任シタルモノト認メ不可ナシト云フニ在ラシ然レモ余ノ考フル所ニ依レハ本條ノ規定ハ其當ヲ得サル所アルカ如シ其理由ハ凡ソ訴訟ハ先ツ第一審裁判



所ノ裁判ニ依リ一旦其局ヲ結フモノナレハ特別ノ委任ナキ場合ニ於テハ被告人カ辯護ヲ委任シタル當時ノ意思ハ單一階審ノ訴訟終局迄ノ委任ヲ爲スニ在リシモノト解釋セサルヘカラス何トナレハ果シテ上訴ヲ爲スヤ否ヤハ裁判アリタル後ニアラサレハ頌然セサル處ナレハ被告人カ未必ノ事ヲ慮ハカリ其委任ヲ爲ス如キハ普通ノ常態ニアラサレハナリ世往々豫シメ訴訟事件ノ上告ニ至ルマテノ辯護ヲ委任スル意思ヲ以テ辯護人ヲ選任スル被告人ナキニアラス然レモ此場合ニ於テハ其意思ヲ明言スル者多シ良シ假リニ之ヲ明言セスシテ其意思ヲ有セシ被告人アリトスルモ之ヲ以テ人々普通ノ意思ト云フヘカラス然リ而テ普通ノ意思ニアラサルモノヲ以テ普通則ノ基本ト爲シ制定シタル本條ノ規定ハ其當ヲ得タルモノト爲スヘカラサルヤ明シ加之ナラス我民事訴訟法ハ其第六十五條ニ於テ人々普通ノ意思ヲ

基本トシ普通ノ訴訟委任アルトキハ單一階審ノ訴訟委任ヲ受ケタルモノト看做シ辯護人ニ於テ上訴ヲ爲スコトヲ許サス同シク是レ訴訟手法ナリ然ルニ確タル理由ノ存スルニアラスシテ其刑事タリ民事タルニ因リ規定ヲ異ニセルハ立法上之ヲ至當ト云フヲ得サルナリ

**第二百四十四條 被告人ノ法律上代理人ハ獨立シ**

テ上訴ヲ爲スコトヲ得

本條モ亦テ上訴ヲ爲シ得ル人ニ關スル規定ナリトス法律上代理人ノ何タルユトハ余既ニ説明シタル所ナリ而テ法律ニ於テ法律上ノ代理人ヲ設ケタル所以ハ蓋シ其本人智識經驗ニ乏シク事理ヲ辨別スル能力ナキヲ以テナリ然ラハ其本人法律ニ明カナラス又タ自衛ニ巧ナラサルハ亦タ言ヲ俟タサル所ナレハ其身上万般ノ事件ヲ代理スル法律上代理人ニ無能力者ノ爲メ上訴ヲ爲スコトヲ許スハ



最モ條理ニ適スルノ制度ト云ハサルヘカラス  
 前條ノ辯護人ハ被告人ノ明言シタル意思ニ反シ上訴ヲ爲シ得スト雖  
 モ法律上代理人ハ被告人ニ於テ上訴ヲ爲サ、ル旨明言セル場合ト雖  
 モ自己ノ信スル所ニ因リ獨立シテ上訴ヲ爲シ得ルモノナリ其差異アル  
 所以ハ辯護人ハ被告人ノ委任ニ依リ代理權ヲ有スルモノナレハ委  
 任者ノ意思ニ反スルヲ得スト雖モ法律上代理人ハ法律ノ規定ニ依リ  
 代理權ヲ有スルモノナルノミナラス元ト其本人ノ言行ハ法律ニ於テ  
 至理至當ノモノニアラスト看認メタルヨリ其代理人ヲ設ケタルモノ  
 ナレハ本人ノ意思如何ハ敢テ法律上代理人ノ問フヲ要セサル所ナレ  
 ハナリ

第二百四十五條

勾留ヲ受ケタル被告人上訴ヲ爲

スニハ其申立書ヲ監獄署長ニ差出シ署長ハ之ヲ

其裁判所ニ送致ス可シ

本條ハ勾留ヲ受ケタル被告人ノ上訴申立書提出ニ關スル規定ナリト  
 ス

凡ソ上訴ノ申立ハ上訴ニ係ル判決ヲ爲シタル裁判所ニ其申立書ヲ差  
 出シ之ヲ爲スヲ通例トス然レモ現ニ勾留中ノ被告人ハ身体ノ自由ヲ  
 失ヒタルモノナレハ自ラ之ヲ其裁判所ニ差出ス能ハス左リ逆之ヲ他  
 人ニ委任セン乎費用ヲ要スルノ恐アリ是レ本條ニ於テ勾留ヲ受ケタ  
 ル被告人ハ上訴申立書ヲ其所在ノ監獄署長ニ差出シ得ルノ規定ヲ設  
 ケタル所以ナリ然レモ是レ素ヨリ例外法ナルヲ以テ被告人ハ此例外  
 法ニ依ラス普通法ニ依リ直チニ之ヲ原裁判所ニ差出スユトヲ得ルモ  
 ノトス

其監獄署長ハ右ノ申立書ヲ受納シタルトキハ之ヲ上訴ニ係ル裁判ヲ



爲シタル裁判所ニ送致スヘキモノトス

三百十〇

## 第二百四十六條

檢事ヲ除ク外上訴ヲ爲シタル者

ハ其判決アルマテ何時ニテモ之ヲ取下クルコト  
ヲ得

本條ハ上訴ノ取下ケニ關スル規定ナリトス

凡ソ權利者ハ法制ニ觸レサル限りハ自由ニ其權利ヲ處分シ得ルコト  
ハ余カ今更テ辯明スルヲ要セサルトコロナリ而テ上訴權ノ如キモ亦  
一ノ權利ナレハ其權利者ニ於テ之ヲ實行スルノ前ナルト既ニ之カ實  
行ニ着手シタル後ナルトナ問ハス有効ニ拋棄シ得ルハ是又明確ナル  
條理ナリトス然レモ檢事ハ社會ノ代表者トシテ公訴權ヲ行フ者ナレ  
ハ公訴權ノ一部分タル上訴權ノ行使モ亦タ社會ノ代表者タル資格ニ  
於テ之ヲ爲スモノナレハ自ラ其權利ヲ有スル者ニアラス從テ又タ一

且社會ニ利益ナリト信シ提起シタル上訴ハ之ヲ取下クルヲ得サルモ  
ノトス

辯護人ハ其提起シタル上訴ヲ被告人ノ承諾ヲ要セス之ヲ取下ケ得ル  
モノナルヤ否ヤ 前段述タル如ク辯護人ハ被告人ニ代リ其代理人タ  
ル資格ニテ上訴ヲ爲スモノナレハ自カラ上訴權ヲ有スルモノニアラ  
ス故ニ一旦被告人ノ爲メ利益アリト信シ爲シタル上訴ハ被告人ノ承  
諾ナキ以上ハ取下クルヲ得サルモノナリ何トナレハ訴訟委任ニ因リ  
被告人ハ上訴ヲ委任シタルモノト看做シ得ルモ之ニ因リ取下ケ委任  
シタルモノトハ認メ得ラレサルヲ以テナリ然ルニ本條ニハ上訴ヲ爲  
シタル者トアリ又タ第二百四十三條ニハ辯護人ハ上訴ヲ爲スコトヲ  
得トアルヲ以テ辯護人モ亦タ本條ニ依リ上訴取下ケノ權利ヲ有セル  
モノ、如シト雖モ第二百四十三條ニ依リ辯護人ノ爲シタル上訴ハ被



告人ノ爲メ之ニ代リテ爲シタルモノナレハ其上訴ハ被告人ノ上訴ニシテ辯護人ノ上訴ニアラサルヤ明ナリ故ニ本條ニ所謂ユル上訴ヲ爲シタル者トハ辯護人ヲ指タルモノニアラス其本人即チ被告人ヲ指タルモノト解釋セサルヲ得ス若シ夫レ本條ニ所謂ユル上訴ヲ爲シタル者ノ内ニ護辯人ヲモ包含セルモノトセン乎辯護人ハ自カラ不當ナルコトヲ知リツ、上訴ヲ提起シ次テ又之ヲ取下ケル等ノコトヲ爲シ本人ニ不當ノ損害ヲ被ムヲシムルコトヲ得ヘシ是レ豈ニ法律ノ精神ナランヤ

上訴ノ取下ケトハ上訴ヲ提起シタル後ニ至リ其取消ヲ求ムルノ云ヒナリ而テ其取下ケヲ爲スハ必ラス上訴裁判所ノ裁判アル前ナラサルヘカラス何トナレハ凡ソ裁判所ハ裁判ニ因リ全ク其事件トノ關係ヲ斷絶スルモノナレハ裁判後ニ至リ其取下ケヲ聽許スルノ權限ナキノ

ミナラス既ニ其上訴局ヲ結ヒタルモノナレハ之ヲ取消サントスルモ已ニ晚キヲ以テナリ

若シ上訴者ニ於テ上訴取下ノ手續ニ着手ノ後未ダ其取下書裁判所ニ到達セサル前ニ上訴ノ裁判言渡アリタルトキハ其裁判ハ無効ニ屬スヘキモノナルヤ否ヤ 或法學者ハ此場合ニ於テハ裁判ハ基本ヲ失フモノナレハ無効ニ屬スヘキモノナリト主張スト雖モ余ハ之ニ反シテ其裁判ハ無効ニ屬スルモノニアラス反テ其取下無効ナルモノト信ス何トナレハ抑モ取下ナルモノハ單ニ上訴者カ取下ケノ意思ヲ發シ其手續ニ着手シタルノミニテ完全ニ成立スルモノニアラス其意思裁判所ニ通達シテ始メテ完全ニ成立スルモノトス然ルニ此場合ニ於テハ裁判所ニ取下ケノ意思未ダ通達セサルヲ以テ裁判ノ當時未ダ有効ノ取下ケアリタルモノト云ヒ難シ既ニ當時取下成立セサルモノトスル



以上ハ其裁判ノ有効ナルエト又々言テ俟タサル所ナレハナリ  
 民事上ノ上訴ハ口頭辯論前ニ於テハ相手方ノ承諾ナク上訴ヲ取下ケ  
 得ルモ口頭辯論開始後ハ相手方ノ承諾アルニアラサレハ取下クルコ  
 トヲ得サルモノトス(民訴第三百九十九條然レモ刑事ノ上訴ハ何等ノ條  
 件ナク判決アルマテハ何時ニテモ取下ケ得ルモノナリ  
 又々民事ノ訴訟ニ於テハ上訴ノ取下ケハ上訴權ヲ喪失セシムルヲ普  
 通トス(民訴第三百九十九條及ヒ第四百五十四條)刑事訴訟ニ於テモ亦  
 上訴ノ取下ケハ上訴權喪失ノ效果ヲ生スルヤ否ヤ 余ハ刑事訴訟ニ  
 於テハ失權ノ效果ヲ生セサルモノト信ス其理由ハ抑モ上訴權ハ其行  
 使ニ因リ被告人ノミ利益ヲ得ルモノニアラス社會モ亦々事實ヲ發見  
 シ公平適實ノ裁判ヲ得ル点ニ付キ利益ヲ得ルゴト少ナカラサルヲ以  
 テ上訴權ハ惟リ被告人ノ辯護上ノ私權ナルノミナラス公益ニ關スル

訴訟手續上ノ公權ナリト云フヲ得ヘシ故ニ社會ノ立法權ヲ以テ之ヲ  
 喪失セシムル場合ニアラサレハ其權利ヲ失却セシムヘキモノニアラ  
 ス然ルニ刑事訴訟法ニ於テハ取下ケニ因リ上訴權ヲ喪失ストノ規定  
 ナキヲ以テ上訴期間ヲ經過セサル以上ハ訴訟關係人ハ一旦取下ケタ  
 ル上訴ヲ更ラニ再ヒ提起スルヲ得ルモノト云ハサルヘカラス況ンヤ  
 上訴人カ其取下ケヲ爲シタル意思ハ果シテ上訴權ヲ拋棄スルニ在リ  
 シヤ或ハ又々他ニ一時ノ都合アリタルニ因ルモノナルヤ明瞭ナラサ  
 ルヲ以テ取下ケニ付スルニ失權ノ結果ヲ以テスルハ法理ノ許サ、ル  
 所ナルニ於テチヤ

第二百四十七條

訴訟關係人天災其他避ク可カラ  
 サル事變ノ爲メ上訴期間ヲ經過シタル場合ニ於  
 テ其旨ヲ疏明シタルトキハ期間ヲ經過シタルニ



因リ失ヒタル權利ヲ回復スルコトヲ得但障礙ノ止ミタル日ヨリ通常ノ期間内ニ其疏明方法ヲ申立書ニ記載シ上訴ヲ爲ス可シ

本條ハ上訴權ノ回復并ニ其手續ニ關スル規定ナリトス

凡ソ上訴ハ一定ノ期間内ニ提起セサレハ其權利ヲ喪失スルヲ普通トス(第十七條)然レモ特別ノ事情アル場合ニハ其期間ノ經過ヲ停止スルコトアリ或ハ又ダ既ニ經過シタル期間ヲ回復シ喪失シタル上訴權ヲ再ヒ取得セシムルコトアリ

第一ノ場合ハ余已ニ第二百七條ニ於テ説明セリ而テ第二ノ場合ハ本條ノ規定スル場合ナレハ是ヨリ其場合ヲ畧述セン

凡ソ訴訟關係人ニシテ天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メ上訴期間内ニ上訴ヲ提起スル能ハサリシ者ハ其事實及ヒ理由ヲ疏明シ期間經

過ニ因リ喪失シタル上訴權ヲ回復シ得ルモノトス其理由ハ抑モ立法者カ上訴期間ヲ定メタル所以ノモノハ若シ無究ニ上訴權ヲ繼續セシムルトキハ裁判ノ確定ヲ得ルニ由ナク遂ニ社會刑罰權ノ行使ニ妨害ヲ加フルニ至ルヘキヲ以テ訴訟關係人ノ利益ト公益トヲ計リ上訴ヲ爲スニ一定ノ期間ヲ與ヘ其期間ニ上訴ヲ爲サ、ルトキハ訴訟關係人ハ前判決ニ服從シタルモノト看做シタルヲ因ルナリ然ルニ天災其他避クヘカラサル事變ニ因リ上訴期間ヲ徒過シタル者ニ對シテハ右ノ推定ヲ爲シ得サルモノトス何トナレハ此場合ニ於テハ訴訟關係人ハ上訴セントスルモ天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メ妨ケラレ之ヲ爲シ能ハサルモノナレハナリ是レ本條ニ於テ上訴權ノ回復ヲ許ス所以ナリトス

然レモ此場合ニ於テハ其期間ヲ徒過シタル者ハ障礙ノ止ミタル日ヨ



リ通常ノ期間内ニ上訴ノ申立ヲ爲サ、ルヘカラス又タ上訴期間ニ上訴ヲ爲サ、リシハ自己ノ過失ニ因ルニアラス天災其他避クヘカラスル事變ニ因ルユトテ疏明シ其疏明方法ハ之上訴申立書ニ記載セサルヘカラス何トナレハ其疏明ナキトキハ果シテ天災其他避クヘカラスル事變ノ爲メ期間ヲ徒過シタルモノナルヤ否ヤ之ヲ知ルニ由ナケレハナリ

第二百四十八條 前條ノ申立アリタルトキハ裁判

所書記速ニ其申立書ヲ相手方ニ送達ス可シ相手方ハ三日内ニ答辯書ヲ差出スコトヲ得

上訴ヲ裁判ス可キ裁判所ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ先ツ其申立ヲ許ス可キヤ否ヤヲ決定ス可シ

本條ハ前條ノ申立アル場合ニ於ケル裁判所ノ手續ヲ規定シタルモノ

ナリ

前條ノ申立アルトキハ之ヲ受ケタル裁判所ノ書記ハ速ニ右申立書ヲ其相手方ニ送達スヘキモノトス而テ相手方ハ其送達ヲ受ケタルヨリ三日ノ期間内ニ於テ答辯書ヲ差出シ申立ニ付キ其意見ヲ述フルコトヲ得ルモノトス

右三日ノ期間ヲ經過シタルトキハ上訴裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ先ツ上訴期間回復ノ申立ヲ採用スヘキヤ否ヤヲ決定スヘキモノトス若シ其申立ヲ理由アルモノト決定スルトキハ次ニ本案ノ上訴ヲ審査ス若シ又タ其申立ヲ棄却スルトキハ前判決ハ直チニ確定ノ効力ヲ有スルモノナリ

凡ソ刑事訴訟ノ上訴ヲ爲スニハ其ノ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヲ普通トス(第二百五十四條第二百七十三條及ヒ第二百九十六條)本條上訴



ノ申立モ亦之ヲ原裁判所ニ差出スヘキモノナルヤ否ヤ 余カ後段第  
二百五十四條ニ於テ説明スル如ク上訴申立書ハ上訴裁判所ニ差出ス  
ヘキヲ條理ナリトス故ニ特別ノ規定ナキ以上ハ之ヲ上訴裁判所ニ差  
出スヘキモノト云ハサルヘカラス然ルニ本條ノ申立ニ付テハ何等ノ  
特別規定ナキヲ以テ上訴裁判所ニ差出スヘキヲ至當ナリトス若シ夫  
レ法律ノ精神ニシテ之ヲ原裁判所ニ差出サシムルニ在リトセシ乎必  
ラス原裁判所ヨリ上訴裁判所ニ送致スルノ手續ヲ規定セサルヘカ  
ス然ルニ其手續ニ關スル規定ナキヲ以テ法律ノ精神モ亦之ヲ上訴  
裁判所ニ差出サシムルニ在ルヤ知ルヘシ

余ハ第二三十四條ヲ説クニ際シ故障申立ノ權利回復ニ要スル條件  
其手續并ニ結果ハ前條并ニ本條ヲ説ク際ニ詳述スヘキヲ約セリ然  
ルニ上來詳述セシ上訴權回復ニ關スル規定ハ之ヲ故障權ノ回復ニモ

亦タ準用スヘキモノナレハ余ハ前説述セル所ヲ準用シ單ニ上訴權ノ  
回復ト故障權ノ回復トノ間ニ存スル差異ヲ略述セントス即チ其間ニ  
存スル差異ハ唯タ本條上訴ノ申立書ハ之ヲ上訴裁判所ニ差出スヘキ  
モ故障申立書ハ常ニ之ヲ欠席判決ヲ爲シタル裁判所ニ差出スヘキモ  
ノトス

余ハ猶ホ本條ノ説明ヲ終ルニ臨ミ期間ノ經過ヲ停止スル場合ト既ニ  
經過シタル期間回復ノ場合トノ間ニ存スル差異ヲ述ヘン

(甲) 期間ノ停止ハ被告人ノ過失ニ皈セサル手續上ノ缺漏アルヨリ期間  
ノ進行ヲ停止スルモノナレハ脅テ關係人ハ上訴權ヲ喪失シタルコト  
ナキモノトス之ニ反シ期間ノ回復ハ天災其他避クヘカラサル事變ニ  
妨ケラレ期間内ニ上訴ヲ爲ス能ハサリシヨリ其經過シタル期間ヲ回  
復セントスルモノナレハ一旦上訴權ハ之ヲ喪失シタルモノトス



(乙) 第一ノ場合ニ於テハ裁判所カ其遺忘シタル手續ヲ補充スルニアラサレハ期間ノ進行ヲ始ムルコトナシ故ニ訴訟關係人ハ裁判所カ其手續ヲ補充スルマテハ無爲ニシテ故障若クハ上訴權ヲ喪失スルコトナシ之ニ反シ第二ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ハ自ラ進ンテ天災又ハ其他避クヘカラサル事變ノ事實并ニ理由ヲ疏明スルニアラサレハ權利ヲ回復スルヲ得サルモノトス

(丙) 第一ノ場合ニ關スル第七十三條及ヒ第二百七條ノ規定ハ刑事被告人ニノミ之ヲ適用スヘク之ニ反シ第二ノ場合ニ關スル第二百四十七條及ヒ第二百四十八條ノ規定ハ一切ノ訴訟關係人ニ之ヲ適用スヘキモノナリ

第二百四十九條 上訴完結ノ後其訴訟記録ハ上訴審ニ於テ爲シタル裁判ノ謄本ト共ニ第一審裁判

所ニ之ヲ返還ス可シ

本條ハ上訴完結後ニ於ケル書類ノ處分方法ヲ定メタルモノナリ上訴裁判所ニ於テ事件ノ局ヲ結ヒタルトキハ其控訴審ノ訴訟記録ナルト上告審ノ訴訟記録ナルトヲ問ハス之ヲ第一審裁判所ノ訴訟記録ニ併合シ上訴審ノ爲シタル裁判ノ謄本ト共ニ第一審裁判所ニ返還スヘキモノナリ何トナレハ訴訟記録ハ刑ノ執行上有要ノモノニテ刑ノ執行ハ之ヲ言渡タル第一審裁判所ノ檢事ニ於テ爲スモノナレハナリ而テ第一審裁判所ノ訴訟記録ノミナラス上訴審ノ訴訟記録ヲモ亦タ第一審裁判所ニ送付スル所以ノモノハ同一事件ノ書類ヲ各級審ノ裁判所ニ分チ保存セシムルトキハ書類保存ノ上ニ於テ不便少ナカラサルニ因ルナラン

然ルニ論者アリ本條返還ノ文字ニ拘泥シ本條ニ所謂ユル訴訟記録ト



ハ單ニ第一審裁判所ノ訴訟記録ヲ指タルモノナリト主張スルモ是レ  
 字句ニ拘泥シ法律ノ精神ヲ知ラサルノ論ト云ハサルヘカラス何トナ  
 レハ同一事件ノ書類ヲ分離スルノ不便ナルハ猶ホ同一事件自体ヲ分  
 割スルノ不便ナルカ如キハ顯著ナル事實ナレハ立法者カ其不便ナル  
 方法ヲ採リ之ヲ分離シ保存セシムルノ精神ヲ有セサリシヤ明カナレ  
 ハナリ加之ナラス之ヲ條文ノ上ヨリ解釋スルモ本條ニハ「上訴完結後  
 其訴訟記録」トアルヲ以テ上訴審ニ存在スル一切ノ訴訟記録ヲ指シタ  
 ルモノナルヤ知ルヘキナリ而テ其末文ニ返還云々ノ文字ヲ用ヒタル  
 ハ蓋シ其訴訟記録中ノ主タルモノハ即チ第一審ノ訴訟記録ニシテ其  
 他ハ從タル記録ニ過キサルヲ以テノ故ナラン  
 以上余ハ各上訴ニ共通ノ規則ヲ説述セリ乞フ是ヨリ各上訴ニ特別ナ  
 ル規則ヲ説明セン

○第二章 控訴

控訴ニ關スル刑事訴訟法ノ規定ヲ説述スルニ先チ一言スヘキアリ即  
 チ被告人ニ於テ控訴ヲ爲スニハ當ニ本章ノ規定ニ從フヘキノミナラ  
 ス猶ホ訴訟費用ノ保證ニ供スル爲メ控訴豫納金規則ニ依リ一定ノ金  
 額ヲ豫納セサルヘカラス而テ其金額ハ重罪ニ付テハ二十圓(明治二十  
 三年法律第七號重罪控訴豫納金規則第一條)輕罪ニ付テハ十圓ナリト  
 ス(明治十八年發布輕罪控訴豫納金規則第三條)其詳細ハ同法ニ就テ看  
 ラルヘシ

第二百五十條 控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ

第一審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ第百八十

七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對シ之ヲ爲ス

コトヲ得



本條ハ控訴ヲ爲シ得ヘキ判決ノ種類ヲ定メタルモノナリ  
 余ハ曩キニ上訴ニ通常上訴ト非常上訴トノ二種アルコトヲ説明セリ  
 而テ控訴ハ即チ通常上訴ノ一ニシテ不利益ナル判決ヲ受ケタル訴訟  
 關係人カ其判決ハ不相當ナリト主張シ上級裁判所ニ事實ノ覆審ト判  
 決ノ變更トヲ求ムルノ訴ヲ云フ故ニ控訴ハ判決ニ對スルニアラサレ  
 ハ爲ス能ハサルモノトス

控訴ヲ爲シ得ヘキ判決ハ第一區裁判所又ハ地方裁判所カ第一審ニ於  
 テ爲シタル本案ノ判決是ナリ而テ其對席判決ナルト欠席判決ナルト  
 ハ敢テ問フ所ニアラサルヲ以テ第一審ニ於ケル本案ノ判決ニ對シテ  
 ハ控訴ヲ爲シ得ルヲ通常トス但シ法律ニ於テ之ヲ禁シタルトキハ此  
 限リニアラス(裁判所構成法第九條以下)

本條ニ所謂ユル本案ノ判決トハ何レノ判決ヲ指タルモノナルヤ抑モ

單ニ文義ト條理トノ上ヨリ定義ヲ下ストキハ本案ノ判決トハ其事件  
 ノ基本ニ付キ爲ス判決ヲ云フモノナリ故ニ例ヘハ刑事訴訟ニ於テハ  
 被告人ノ有罪無罪私訴及ヒ民事ノ訴訟ニ於テハ被告人ノ義務ノ有無  
 ニ關スル判決ノ如キ是ナリ然レモ本條ニ所謂ユル本案ノ判決ナル文  
 字ハ之ヲ同上ノ意義ニ用ヒタルモノト云フヘカラス何トナレハ若シ  
 之ヲ同上ノ意義ニ用ヒタルモノトセハ夫ノ管轄違ヲ言渡タル判決ニ  
 對シテハ控訴ヲ爲シ得サルヘキナリ然ルニ本法ニ於テハ其判決ニ對  
 シ控訴ヲ許サ、ルノ條文ナキノミナラス反ツテ第二百六十二條第二  
 項ニ於テハ管轄違ヲ言渡シタル判決ニ對スル控訴ノ場合ヲ規定シタ  
 ルヲ以テ管轄違ヲ言渡シタル判決モ亦之ヲ本案ノ判決ナル文字中ニ  
 包含セシメアルヤ明カナレハナリ然ラハ如何ナル意義ニ之ヲ用ヒタ  
 ルモノナルヤ余ハ終局判決ナル文意ト同一意義ニ用ヒタルモノト解



釋ス故ニ本條ニ云フ本案ノ判決ナル文字ハ事件ノ基本ニ關スル判決ナルト管轄ニ關スル判決ナルト其他ノ枝葉ニ關スル判決ナルトヲ問ハス終局判決即チ事件ヲシテ全ク其裁判所ヨリ脫離セシムルノ判決ハ總テ之ヲ網羅シタルモノトス余カ管テ管轄違ヲ言渡スノ判決ハ即本案ノ判決ナリト云ヒタルハ末段ノ意義ヲ有セル本案ノ判決ヲ指タルモノナレハ注意ノ爲メ茲ニ一言ス

第二 控訴ヲ爲シ得ル判決ハ區裁判所又ハ地方裁判所カ第一審ニ於テ爲シタル第百八十七條ノ本案前ノ判決即チ公訴受理ス可ラサルノ申立并ニ管轄違ノ申立ヲ却下スルノ判決是ナリ 抑モ本案前ノ判決ハ右二箇ノ判決ニ限ラス猶ホ公判手續ニ關スル異議ニ付キ言渡ス本案前ノ判決ナルモノアリ(第百九十九條)然ルニ第百八十七條ノ場合ニ限リ直ニ控訴ヲ許シ他ノ本案前ノ判決ニ對シテハ獨立ノ控訴ヲ許サ

、ル所以ハ若シ上訴裁判所ニ於テ第百八十六條ノ申立ヲ理由アルモノト爲シ原判決ヲ廢棄スルトキハ其他ノ審査手續ハ全ク無益ニ屬スルヲ以テ此場合ニ於テハ寧ロ本案ノ辯論ヲ停止シ直ニ控訴セシムルノ勝レルニ如カス又々其他ノ本案前ノ判決ハ本案ト至密ノ關係ヲ有スルモノナレハ本案ノ判決後ニアラサレハ果シテ其爲メ訴訟關係人カ不利益ヲ被ムルヤ否ヤ顯然セサルノミナラス假令ヒ其判決後日ニ至リ廢棄セラル、モ其爲メ他ノ手續ニ毫毛影響ヲ及ホスコトナキヲ以テ本案ノ判決ト同時ニ控訴セシムルノ便且ツ利ナルニ如カスト云フニ在リ

茲ニ注意スヘキハ上訴通則ニ於テ説明シタル如ク設例ヒ終局判決ナリト雖モ又々第百八十七條ニ規定セル本案前ノ判決ナリト雖モ其判決ニ因リ訴旨ヲ貫徹シタル當事者又ハ無罪若クハ免訴ノ言渡ヲ受テ



タル被告人又ハ其法律上代理人ハ之ニ對シ控訴ヲ爲シ得サルモノト  
ス

抑モ控訴ハ前判決カ事實上若クハ法律上ニ於テ瑕瑾アルモノトシテ  
其改正ヲ求ムルノ訴訟ナレハ之ヲ審査スル裁判所ノ構成并ニ其審査  
手續ハ前裁判所ノ構成并ニ手續ニ比シ一層鄭重且ツ嚴密ナラサルヘ  
カラス故ニ控訴ハ原判決ヲ爲シタル裁判所ヨリ上級ノ裁判所ニ提起  
スルヲ普通トス依テ區裁判所ノ判決ニ對シテハ地方裁判所ニ控訴シ  
地方裁判所ノ判決ニ對シテハ控訴院ニ控訴スヘキモノトス附帶ノ私  
訴ニ付テモ亦大同シ(裁判所構成法第二十七條第二號及ヒ第三十七條  
第一號)

第二百五十一條 控訴ハ判決ノ一分ニ限り之ヲ爲

スコトヲ得若シ之ヲ限ラサルトキハ判決ノ全部

ニ對シ控訴ヲ爲シタルモノト看做ス可シ

本條ハ控訴ノ範圍ニ關スル規定ナリトス

控訴ハ元來不服ナル判決ニ對シ爲スモノナレハ不服ノ点判決ノ一部  
ニ存スルトキハ其一部ノミニ付キ控訴ヲ爲シ又々其全部ニ付キ不服  
アルトキハ其全部ニ付キ控訴シ得ヘキハ又々言ヲ俟タサル所ナリト  
ス故ニ例ヘハ詐欺取財ノ刑ニ處セラレタル場合ニ被告人ハ無罪ナリ  
ト主張シ判決ノ全部ニ付キ控訴シ得ルカ如シ又々強盜并ニ強姦罪ヲ  
犯シタリトシテ刑ニ處セラレタル被告人カ強盜罪ハ犯シタルモ強姦  
罪ヲ犯シタルコトナシト主張シ其点ニ限り控訴シ得ルカ如シ然レモ  
若シ其一分ニ付キ控訴スル旨ノ申立ナキ以上ハ法律ハ全部ニ付キ控  
訴アリタルモノト看做スヲ以テ裁判所ハ全部ニ付キ覆審ヲ爲サ、ル  
ヘカラス



一分控訴ト全部控訴トヲ區別スルノ利益ハ即チ全部控訴ノ場合ニ於テハ原判決ノ全部ヲ廢棄又ハ變更シ得ルモ一分控訴ノ場合ニ於テハ其一分ニアラサレハ變更スル能ハサルモノナリ但シ附帶控訴アリタルトキハ此限リニアラス

第二百五十二條 控訴ノ期間ハ判決言渡アリタル

日ヨリ五日トス

闕席判決ヲ受ケタル者ハ故障ノ期間内故障ヲ爲

サスシテ直チニ控訴ヲ爲スコトヲ得

本條ハ控訴提起ノ期間ヲ定メタルモノナリ  
控訴提起ノ期間ハ對席判決ニ對スル控訴ナルト欠席判決ニ對スル控訴ナルトニ依リ其長短ヲ異ニス  
第一對席判決ニ對シ控訴ヲ爲サントスルモノハ其判決言渡アリタル

日ヨリ五日ノ期間内ニ其申立ヲ爲サ、ルヘカラス若シ其期間ニ申立テサルハ控訴權ヲ喪失スヘシ(第十七條)夫ノ控訴權ハ被告人ノ爲メニハ貴重ナル權利ナリト雖モ其ノ權利行使ノ期限ヲ無究ニ繼續セシムルトキハ社會刑罰權ノ實行ヲ妨クルニトナシトセス是レ控訴期間ノ設ケアル所以ナリ而テ其期間ヲ五日ト定メタル所以ハ被告人カ前判決ノ當否ヲ熟考シ且ツ控訴ノ準備ヲ爲スニハ五日ヲ以テ十分ナリト爲スニ因ルナリ

右期間ハ判決言渡ノ日ヨリ起算スヘキ乎或ハ又タ其翌日ヨリ起算スヘキヤ本條ニハ「判決言渡ノ日ヨリ」云々トアルヲ以テ言渡ノ日モ亦タ五日ノ期間中ニ算入スヘキモノ、如シ然レハ期間ノ計算方法ハ反對ノ規定ナキ以上ハ本法第十五條ノ規定ニ據ルヘキモノナリ然リ而テ本條ハ主トシテ控訴期間ノ長短ヲ規定スルノ條文ニテ其起算点ヲ規



定スルノ法條ニアラサレハ單ニ法文ニ「日」ノ字アルノミニテハ第十五條ニ反對ノ規定ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス依テ猶ホ控訴期間モ判決言渡ノ翌日ヨリ起算スヘキヲ至當ナリト信ス

第二欠席判決ニ對シ控訴セントスル者ハ第二百二十九條ニ定メタル故障申立ノ期間内ニアラサレハ控訴ヲ爲スヲ得ス然ルニ論者アリ曰ク欠席判決ニ對スル控訴ノ期間ニ付キ特別ノ規定アラサルヲ以テ普通ノ控訴期間即チ五日ヲ以テ其期間ト爲サ、ルヘカラスト然レモ本條第二項ハ欠席判決ヲ受ケタル者ハ故障ヲ爲サス故障ノ期間内ハ直チニ控訴スルコトヲ得トノ意義ヲ有スルモノト解釋セサルヲ得ス何トナレハ若シ故障期間内ニ故障ヲ爲サスシテ更ニ控訴期間内ニ控訴シ得ルモノトセン乎故障期間内ニ故障ノ申立ナカリシヲ以テ一方ニ於テハ欠席判決ハ確定スヘキニ他一方ニ於テハ控訴ニ因リ之ヲ攻撃

シ得ルノ不都合ヲ見ルニ至ラン是レ豈ニ法律ノ意思ナランヤ

**第二百五十三條 本案ノ判決ニ對スル控訴ノ期間**

**内及ヒ控訴アリタルトキハ判決ノ執行ヲ停止ス**

本條ハ控訴ノ効力ヲ規定シタルモノナリ  
控訴ヲシテ十分ノ効果ヲ得セシメントスルニハ必ラス之ニ左ノ効力ヲ付セサルヘカラス

第一控訴期間内ハ控訴ノ有無ニ拘ハラス判決ノ執行ヲ停止スルコト何トナレハ控訴期間内ハ未ダ控訴ノ提起ナキモ他日之ヲ提起スルコトアルヘキヲ以テナリ

第二期間内ニ控訴ノ申立アリタルトキハ其期間後ニ至ルモ猶ホ判決ノ執行ヲ停止スルコト何トナレハ控訴裁判所ニ於テ他日原判決ヲ廢棄シ又ハ之ヲ變更スルコトアルヘシ而テ若シ此場合ニ於テ一度ヒ原



判決ヲ執行シ了セハ社會又ハ被告人等カ因テ受ケタル損害ハ之ヲ回復スル能ハサルノミナラス其執行ニ要シタル費用ト手數トハ全ク無益ニ返スヘキヲ以テナリ

然レモ判決ノ執行ヲ停止スルハ本案ノ判決ニ對スル控訴期間并ニ之ニ對シ控訴アリタルトキニ限ルモノトス故ニ單ニ本案前ノ判決ニ對スル控訴期間并ニ控訴ノ提起ハ其判決ノ執行ヲ停止スルノ効力ヲ有セサルモノナリ

茲ニ注意スヘキ点ハ刑法第五十一條ニ依レハ檢察官ヨリ上訴ヲ爲シタルトキハ上訴ノ正當ナルト不正當ナルトヲ問ハス前判決宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算シ又ハ犯人自ラ上訴シタル場合ニ於テモ其上訴正當ナルトキハ亦タ同シク前判決宣告ノ日ヨリ起算スルモノナレハ此等ノ場合ニ於テハ判決宣告ノ日ヨリ刑ノ自然執行アリタルモノト云フ

ヲ得ヘシ故ニ實際ニ控訴期間若クハ控訴ノ提起ニ因リ判決ノ執行ヲ停止スルハ罰金科料ヲ言渡タル判決又ハ犯人上訴シ其上訴不當ナルトキニ限ルモノトス

### 第二百五十四條 控訴ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判所ニ差出ス可シ

判所ニ差出ス可シ

裁判所ハ控訴ノ申立アリタルコトヲ速ニ相手方

ニ通知ス可シ

本條ハ控訴申立ノ手續及ヒ之ヲ受ケタル裁判所カ爲スヘキ手續ヲ定メタルモノトス

凡ソ控訴ヲ爲サントスル者ハ其申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘキモノトス

抑モ原裁判所ハ判決ニ因リ全ク其事件トノ關係ヲ絶ツモノナレハ控



訴申立書ハ控訴裁判所ニ差出サシムヘキヲ理ノ當然ナリトス然ニ本條ニ於テ之ヲ受理スルノ權限ヲ原裁判所ニ與ヘタル所以ハ畢竟檢事又ハ其他訴訟關係人ハ原裁判所々在ノ地ニ在ルヲ以テ之ヲ原裁判所ニ差出サシムルハ其便益僅少ナラサルヲ以テナリ然レモ附帶控訴ノ申立ハ必ラスシモ之ヲ原裁判所ニ爲スヲ要セス直ニ控訴裁判所ニ爲シ得ヘキモノトス何トナレハ本條ニ於テ控訴ノ申立ハ原裁判所ニ爲スヘシトノ規定ヲ設ケタルハ畢竟當事者ノ便益ヲ謀リタルニ過キサルナリ然ルニ附帶控訴ノ場合ニモ亦タ必ラス其申立ハ原裁判所ニ爲スヘキモノトスルトキハ控訴裁判所ノ檢事又ハ控訴裁判所ノ口頭辯論ニ至リ附帶控訴ヲ申立テントスル當事者ハ無益ノ日子ト無益ノ手數及ヒ費用ヲ消失スルニアラサレハ附帶控訴ヲ申立ツルヲ得サルニ至リ反テ其不便ヲ感スルモノナレハ此場合ニ於テハ本條ノ規定ヲ設

ケタル基本全ク滅失スルヲ以テナリ

右控訴ノ申立アリタルトキハ原裁判所ハ其申立アリタルコトヲ速ニ訴訟ノ相手方ニ通知スヘキモノトス何トナレハ之ヲ通知セサレハ相手方ハ辯論ノ準備ヲ爲ス能ハス特ニ其相手方檢事ナルトキハ之ヲ通知セサレハ檢事ハ第二百五十六條ノ手續ヲ爲スニ由ラケレハナリ

### 第二百五十五條 原裁判所ニ於テハ期間ヲ經過シ

タル控訴ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ此

決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

本條ハ期間經過後ノ控訴申立處分方ニ關スル規定ナリ

凡ソ訴訟關係人ハ一定ノ期間内ニ控訴ヲ爲サ、ルトキハ法律上前判決ニ服從シタルモノト看做スコトハ曾テ説述シタル所ノ如シ故ニ期間經過後ニ申立タル控訴ハ其理由ノ有無ヲ審究スルノ必要ナシ縱令



ヒ之ヲ控訴裁判所ニ送付スルモ控訴裁判所ハ簡單ナル期間經過ノ理由ヲ以テ之ヲ棄却スルノ外ナシ果シテ然ラハ之ヲ控訴裁判所ニ送付スルモ無益ノ手數ト費用トヲ消失スルニ過キス是レ本條ニ於テ期間ヲ經過シタル控訴ノ申立ハ原裁判所ニ於テ棄却スヘシトノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

然レモ曾テ説述シタル如ク上訴權ハ訴訟關係人ニ貴重ナル人權ナレハ輕卒ニ之ヲ喪失セシムヘキモノニアラス故ニ本條ハ上訴權ノ一種タル控訴權ヲ保護スルノ趣旨ヲ以テ右棄却ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スユトヲ許セリ

第二百五十六條

訴訟記録ハ檢事ヨリ控訴裁判所

ノ檢事ニ送致シ其檢事ハ之ヲ裁判所ニ差出ス可

シ

公訴ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合ニ於テ被告人勾留ヲ受ケタルトキハ檢事ヨリ之ヲ控訴裁判所ノ監獄ニ移ス可シ

本條ハ控訴ノ申立アリタルトキ第一審裁判所檢事ノ爲スヘキ手續ヲ定メタルモノナリ

檢事ハ一体ニテ其職務ヲ執行スルモノナリト雖モ各司掌スル所ノ職分アリ區裁判所檢事ノ事務ハ區裁判所所屬ノ檢事之ヲ行ヒ地方裁判所ノ檢事ノ事務控訴院ノ檢事ノ事務又々大審院ノ檢事ノ事務ハ各々其裁判所所屬ノ檢事之ヲ行フモノナリ故ニ第一審ニ於テ當事者即チ原告官タリシ檢事ハ控訴審ニ於テ當事者タルモノニアラスシテ第二審ニ於テ當事者タル者ハ第二審裁判所ノ檢事ナリトス是ヲ以テ控訴裁判所ノ檢事ヲシテ豫シメ其事件ノ顛末ヲ知ラシムルノ必要ナルハ



猶ホ其他ノ訴訟關係人ニ知ラシムルノ必要ナルト異ナルナシ而シテ之ヲ知ラシムルハ其訴訟記録ヲ檢閲セシムルニ如クハナシ是レ本條ニ於テ訴訟記録ハ原裁判所檢事ヨリ控訴裁判所檢事ニ送致スヘシトノ規定アル所以ナリ

右訴訟記録ノ送致ヲ受ケタル控訴裁判所ノ檢事ハ又々之ヲ其裁判所ニ差出サ、ルヘカラス何トナレハ控訴裁判所ハ其記録ニ依リ事件ヲ了知シ之ニ據テ審査スヘキヲ以テナリ

禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付テハ法律ハ被告人自身ノ出廷ヲ以テ審査手續上有益ノモノト看做セルユトハ曩キニ第一審ノ公判手續ヲ説クニ當タリ説明シタル所ノ如シ而テ第二審ノ審査手續上ニ於テモ亦タ然リトス故ニ禁錮以上ノ刑ヲ言渡タル判決ニ對シ控訴アリタル場合ニ被告人勾留ヲ受ケタルトキハ原裁判所ノ檢事ハ被告人ノ自

身出廷ニ便ナラシムル爲メ之ヲ控訴裁判所ノ監獄ニ移送セサルヘカラス

本條第二項ニ依レハ被告人ヲ控訴裁判所ノ監獄ニ移スハ公訴ノ判決ニ對シ控訴アリ且ツ被告人勾留ヲ受ケタルトキニ限ルモノナリ故ニ私訴ノ判決ニ對シ控訴アルトキ違警罪若クハ單ニ罰金ノ刑ヲ受ケタル輕罪事件ノ判決ニ對シ控訴アルトキ又ハ其犯罪ノ何タルヲ問ハス欠席判決ニ對シ檢事ヨリ控訴アリタルトキニハ本條第二項ノ手續ヲ爲スニ及ハサルモノトス

第二百五十七條 控訴裁判所ニ於テハ訴訟關係人

ニ對シ呼出狀ヲ發シタル後其裁判ニ取掛ル可シ  
呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ



本條ハ訴訟關係人ノ呼出并ニ裁判ノ着手ニ關スル規定ナリ

控訴ノ申立アリタルトキハ控訴裁判所ハ口頭辯論ヲ開キ事實ノ覆審ヲ爲スヘキモノナレハ訴訟關係人ニ對シ辯論開始ノ呼出狀ヲ發スヘキヤ勿論ナリトス而テ訴訟關係人ヲシテ辯論ノ準備ヲ爲サシムル爲メ呼出狀ト出頭トノ間ニハ少ナクモ二日ノ猶豫ヲ存セサルヘカラス若シ其猶豫ナキトキハ訴訟關係人ハ更ニ其猶豫ヲ求メ得ルモノナリ

控訴裁判所ハ右合法ノ呼出ヲ發シタル後ニアラサレハ其事件ノ審査及ヒ判決ニ着手スルヲ得サルモノトス若シ此規定ニ背戾シタルトキハ訴訟關係人ハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲シ其判決ヲ破毀セシムルヲ得ヘキナリ

本條ニハ訴訟關係人ニ呼出狀ヲ發シタル後其裁判ニ取掛ルヘシトア

ルヲ以テ呼出狀ヲ發シタル後ハ何時ニテモ其裁判ニ取掛ルコトヲ得ヘキカ如シト雖モ前段述タル如ク控訴裁判所ハ口頭辯論ニ基キ審査判決ヲ爲スヘキモノナレハ其爲メ定メタル期日ニ至ルニアラサレハ裁判ニ取掛ルコトヲ得サルモノトス

### 第二百五十八條 控訴ノ裁判ニ付テハ地方裁判所

ノ第一審ニ關スル規定ヲ適用ス

第一審ニ於テ訊問シタル証人又ハ鑑定ヲ爲シタル鑑定人ハ控訴裁判所ニ於テ其再度ノ訊問鑑定ヲ必要ナリトセサルトキハ之ヲ呼出サ、ルコトヲ得

本條ハ控訴裁判所ノ審査判決ニ關スル手續ヲ定メタルモノナリ

控訴裁判所ハ第一審裁判所ト同シク事實裁判所ナレハ其審判ノ手續



ニ於テモ亦タ第一審裁判所ノ手續ト相違アルヘキノ條理ナシ是レ本條ニ於テ控訴ノ裁判ニ付テハ地方裁判所ノ第一審ニ關スル規定ヲ適用ストノ規定アル所以ナリ

前段説述シタル如ク控訴裁判所ハ事實裁判所ナレハ第一審裁判所カ既ニ審査シタル事項ト否トヲ問ハス一切ノ事實ヲ覆審スヘキノナリ故ニ一切ノ証憑特ニ第一審ニ於テ取調ヘタル証憑等ハ控訴裁判所ニ於テ更テ取調フルヲ普通則トス然レモ証人鑑定人ノ供述ハ彼是差異アルユト希ナレハ控訴裁判所ニ於テ再度ノ証言又ハ鑑定ヲ必要ナリトセサルトキハ更テニ証人鑑定人ヲ呼出シ証憑調ヲ爲スニ及ハサルモノトス

### 第二百五十九條 控訴ノ相手方ハ其判決アルマテ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

控訴裁判所ノ檢事モ亦附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

本條ハ附帶控訴ニ關スル規定ナリトス

附帶控訴トハ既ニ提起シアル控訴ニ附隨シテ其相手方ヨリ爲ス控訴ヲ云フ

附帶控訴ハ控訴期間内ト其期間經過後トヲ問ハス主控訴ニ付判決アルマテ何時ニテモ之ヲ爲シ得ルモノトス抑モ法律ニ於テ附帶控訴ハ控訴期間經過後ト雖モ提起シ得ヘシトノ規定ヲ爲シタル所以ハ第一元來訴訟關係人中多少原判決ニ服從セサル点アルモ其利害關係ノ小ナルカ爲メ手數ト費用トヲ要スルヲ恐レ自ラ進ンテ控訴ヲ爲サ、ルモノナキニアラス然ルニ相手方ニ於テ其判決ニ對シ控訴ヲ爲シタルトキハ止ヲ得ス多少ノ手數ト費用トヲ爲スヲ要スルカ故ニ此場合ニ於テハ控訴ヲ爲サスシテ其期間ヲ徒過シタル者モ亦タ自ラ不滿ヲ抱



ク点ヲ改メシメント欲スルノ意思ヲ發スルハ人情ノ常トス而テ若其  
 意思ヲ違セシムルノ道ヲ開カサラシムル乎曲テ其判決ニ服從シタル者ハ  
 控訴審ニ於テ常ニ不利益ノ判決ヲ受クルニ至ルヘキヲ以テ原判決ニ  
 對シ些細ノ不服ヲ抱ク者モ亦タ控訴ヲ提起スルノ止ヲ得サルニ至ル  
 ヘシ果シテ然ラハ濫訴ヲ防止セントスル法律ノ精神モ之ヲ達スル能  
 ハサルニ至ラン第二抑モ法律ニ於テ控訴ノ期間ヲ定メ其期間後ハ控  
 訴ヲ許サ、ルノ規定ヲ設ケタルハ畢竟訴訟ノ終局ヲ遲淹セシムルヲ  
 恐レテナリ然ルニ附帶控訴ハ主タル控訴有効ニ繫屬シタル場合ニ爲  
 シ得ルモノナレハ其爲メ訴訟ノ終局ヲ遲淹スルノ虞アラサルヲ以テ  
 ナリ

附帶控訴ハ控訴事件ノ相手方ニアラサレハ爲ス能ハス故ニ例セハ公  
 訴ノ判決ニ對シ被告人控訴ヲ申立タルトキハ檢事ハ附帶控訴ヲ爲シ  
 得ルモ民事原告人ハ附帶控訴ヲ爲シ得サルモノナリ之ニ反シ私訴ノ  
 判決ニ對シ被告人控訴ヲ爲シタルトキハ民事原告人ハ附帶控訴ヲ爲  
 シ得ルモ檢事ハ之ヲ爲スヲ得サルカ如シ  
 控訴裁判所ノ檢事ハ控訴審ニ於ケル訴訟ノ相手方ナレハ附帶ノ控訴  
 ヲ爲シ得ルユトハ別ニ規定ヲ要セサル所ノ如シ然ルニ本條第二項ニ  
 於テ控訴裁判所ノ檢事モ亦タ附帶控訴ヲ爲シ得ルトノ規定ヲ設ケタ  
 ル所以ハ元來第二審裁判所ノ檢事ハ控訴提起以後ニ係ル訴訟行爲ニ  
 付第一審裁判所ノ檢事ヲ代表シ控訴申立ノ行爲等ニ付テハ之ヲ代表  
 セサルヲ通則トスルモノナリ而テ附帶控訴ノ申立モ亦タ一ノ控訴申  
 立ナルカ故ニ特別ノ規定ヲ爲サ、ルトキハ控訴裁判所ノ檢事ハ其申  
 立ヲ爲ス權ナシトノ念ヲ抱ク者ナシトセス是レ特ニ本條第二項ノ規  
 定ヲ設ケタル所以ナリ



附帶控訴ノ利益ハ何ノ点ニアルヤ 凡ソ裁判所ハ訴ヲ受ケサル事項ニ付裁判スルヲ得サルカ故ニ控訴裁判所モ亦タ控訴ノ範圍内ニアラサレハ原判決ヲ廢棄又ハ變更スルヲ得ス好シ又タ原判決ノ全部ニ付控訴アリタルトキト雖モ被告人ノ爲メノ控訴ナルトキハ原判決ヲ變更シ被告人ノ不利益ト爲スヲ許サ、ルモノナリ故ニ此等ノ場合ニ於テハ如何ニ原判決ノ一ノ刑カ輕ニ失シ不當ナルモ之ヲ廢棄變更スル能ハサルコトアリ然ルニ附帶控訴アルトキハ原被告共ニ原判決ニハ服從セサルモノナレハ控訴裁判所ニ於テハ主控訴者ニ利益アルヤ否ヤヲ顧慮スルニ及ハス法律ニ據リ至理至當ト信スル判決ヲ爲シ得ルモノナリ例ヘハ第一審裁判所ニ於テ被告人ヲ重禁錮二年ニ處シタル場合ニ被告人ノミ控訴ヲ爲シ檢事附帶控訴ヲ爲サ、ルトキハ控訴裁判所ハ設例ヒ重禁錮二年以上ノ刑ニ處スヘキヲ至當ト信スルモ之ヲ

二年以上ノ刑ニ處スルヲ得サルモノナリ之ニ反シ檢事ニ於テ附帶控訴ヲ爲シ重禁錮二年以上ノ處刑ヲ請求スルトキハ控訴裁判所ハ之ヲ二年以上ノ重禁錮ニ處スルヲ得ルカ如シ  
 附帶控訴ハ主控訴ニ附從シテ成立スルモノナレハ其消滅モ亦タ主控訴ト共ニスルヲ普通トス故ニ若シ主控訴カ不成立ノモノトシテ棄却セラル、トキハ附帶控訴モ亦タ自然消滅スルモノナリ例ヘハ主タル控訴カ期間經過後ニ提起サレタルカ爲メ又ハ控訴豫納金免除ノ申立却下セラレ從テ控訴ノ申立成立セサルカ爲メ主控訴棄却セラル、乎或ハ又タ控訴人ニ於テ主控訴ヲ取下ケタルトキハ附帶控訴モ亦タ自然消滅スルカ如シ其然ル所以ハ法律ニ於テ期間經過後ト雖モ相手方ニ附帶控訴ノ申立ヲ許スハ蓋シ主タル控訴アルカ爲ナレハナリ然レモ若シ附帶控訴ニシテ控訴期間内ニ提起サレタルトキハ附帶控



訴者ハ原判決ニ服從シ控訴權ヲ拋棄シタルモノト看認メ難シ從テ又其附帶控訴ハ獨立シテ成立シ得ルモノナレハ此場合ニ於テハ主タル控訴ノ不成立ニ拘ハラス附帶控訴ハ存立セシムルヲ至當ナリトス凡ソ對席判決ニ對スル控訴期間ハ常ニ判決言渡ヨリ起算シ五日ナルヲ以テ相手方ノ一方ニ對シテハ其期間經過シ他ノ一方ニ對シテハ猶ホ期間ノ存スルユト希ナリ然レモ其場合ナキニアラス例ヘハ相手方ノ一方天災其他避クヘカラサル事變ニ因リ控訴期間ヲ經過シ期間回復ヲ得タル場合又ハ被告人ノ爲メ控訴期間ノ停止アリタル場合ノ如キ是ナリ而テ其期間ノ最終日各相手方ニ對シ相異ナル場合多クハ欠席判決ノ場合ナリトス

余ハ本條ノ説明ヲ了ルニ臨ミ主控訴ト附帶控訴トノ異ナル点ヲ述ヘ

第一 主控訴ハ法定ノ期間内ニアラサレハ爲スヲ得ス之ニ反シテ附帶控訴ハ其期間經過後ト雖モ主控訴事件ノ判決アルマテ何時ニテモ之ヲ爲シ得ルモノナリ

第二 主控訴ハ其申立書ヲ原裁判所ニ差出シ之ヲ爲ス之ニ反シ附帶控訴ハ控訴裁判所ニ口頭ヲ以テモ之ヲ爲シ得ルモノトス

第三 主控訴ハ常ニ獨立シテ成立シ得ルト雖モ附帶控訴ハ或ル場合ノ外ハ其成立ニ付キ主控訴ト運命ヲ共ニス

**第二百六十條 控訴裁判所ニ於テハ控訴ノ期間内ニ於テ申立ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査シ期間ノ經過後ニ係ルモノト認ムルトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却ス可シ**

本條ハ期間ヲ經過シタル控訴ノ處分方法ヲ定メタルモノナリ



凡ソ法定ノ期間ヲ徒過シタル者ハ當然控訴權ヲ喪失スルモノナレハ  
期間經過後ニ爲シタル控訴ハ其理由ノ如何ヲ問ハス之ヲ棄却スヘキ  
モノトス而テ其調査及ヒ棄却ノ處分ハ第二百五十五條ニ依リ原裁判  
所ニ於テ之ヲ爲スヘキモノト雖モ誤テ其處分ヲ爲サ、ル場合ナシト  
セス故ニ此場合ニ於テハ其調査ト處分トハ控訴裁判所更テニ之ヲ爲  
サ、ルヘカラス是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第二百六十一條 控訴裁判所ニ於テハ控訴ヲ理由

ナシトスルトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却ス可シ  
控訴ヲ理由アリトスルトキハ原判決ヲ取消シ更  
ニ判決ヲ爲ス可シ

本條ハ控訴事件ノ裁判ニ關スル規定ナリ  
法定ノ期間内ニ控訴ノ申立アルトキハ其控訴ハ適法ナルヲ以テ控訴

裁判所ハ控訴ノ理由如何ニ付審査判決ヲ爲サ、ルヘカラス而テ其判  
決ヲ大別シテ二トス第一本案ニ關スル判決(爰ニ所謂ル本案ニ關スル  
判決トハ事件ノ基本ニ關スル判決ヲ云ヒタルモノニテ第二百五十條  
ノ本案ノ判決ナル意義ニアラス)第二管轄ニ關スル判決是レナリ右第  
二ノ判決ハ次條ノ規定スル所ナレハ其説明ハ次條ニ譲リ本條ニ於テ  
ハ第一ノ判決ニ付説明ヲ爲サン

本案ニ關スル控訴裁判所ノ判決ヲ細別シテ二トス第一控訴棄却ノ判  
決第二原判決變更ノ判決是ナリ

第一控訴棄却ノ判決 控訴棄却ノ判決ヲ爲ニハ控訴ノ理由ナキヲ必  
要トス而テ如何ナル場合ニ控訴ノ理由ナキモノナルヤ否ヤヲ尋ナル  
ニ原判決ハ事實上及ヒ法律上ニ於テ瑕瑾ナキトキハ之ニ對スル控訴  
ハ其理由ナキモノトス例ヘハ原裁判所ハ強盜犯ヲ認メテ強盜罪ト爲



シ之ニ科スルニ法律ノ範圍内ニ於テ相當ノ刑ヲ以テシタルトキノ如シ  
 第二原判決變更ノ判決 原判決ヲ變更スルニハ控訴ノ理由アルヲ要ス而テ如何ナル場合ニ控訴ノ理由アルモノナルヤヲ尋ヌルニ凡ソ控訴ヲ爲スニハ上告ヲ爲スカ如ク法定ノ原因アルヲ要スルモノニアラサレハ第一審裁判ニシテ事實并ニ法律ノ点ニ於テ錯誤又ハ違法ノ廉アルトキハ之ニ對スル控訴ハ正當ノ理由アルモノトス例ヘハ第一審裁判所ニ於テ強盜罪ヲ誤認シ竊盜罪ナリトシ之ニ科スルニ竊盜罪ノ刑ヲ以テシタルトキハ原裁判ハ事實ノ点ニ錯誤アルモノニテ又違警罪ニ科スルニ重罪ノ刑ヲ以テシタルハ法律ノ点ニ錯誤アルモノ、如キ是ナリ然レモ茲ニ注意スヘキハ設例ニ原裁判ハ事實又ハ法律ノ点ニ錯誤アリト雖モ控訴ヲ爲スニ利益ヲ有セサル者(例ヘハ無罪若ク

ハ免訴ノ言渡ヲ受ケタル被告人)ハ之ヲ以テ控訴ノ理由ト爲スヲ得サルモノトス

第一審裁判所ニ於テ酌量減輕ノ情狀アル場合ニ酌量減輕ヲ爲サ、リシトキハ之ヲ以テ控訴ノ理由ト爲シ得ヘキヤ否ヤ 世徃々之ヲ以テ控訴ノ理由ト爲シ得スト唱フル者アリト雖モ余ハ第一審裁判所ニ於テ其情狀アルニ拘ハラズ酌量減輕ヲ爲サ、リシトキハ控訴裁判所ハ之ヲ理由トシテ原判決ヲ變更シ得ルモノト信ス何トナレハ控訴ノ理由ニハ毫モ制限アルモノニアラサレハ苟モ原判決ニシテ瑕瑾アルトキハ其瑕瑾ノ如何ヲ問ハス常ニ之ヲ變更シ得ヘキモノナリ加之ナラス事實裁判所ハ其階級ノ上下ヲ問ハス情狀ヲ審究シ酌量減輕ヲ爲シ得ヘキハ勿論ナリトス而テ控訴裁判所ハ第一審裁判所ト同シク事實裁判所ナレハ酌量減輕ヲ爲シ得ルノ權限アルハ亦タ言ヲ俟タサル所



トス既ニ其權限アリトスル以上ハ其行使ノ結果トシテ原判決ヲ變更  
 シ得ルハ亦々理ノ當然ナルヲ以テナリ  
 本條ノ説明ヲ了ルニ當リ余ハ一ノ注意ヲ爲スヘキアリ即チ若シ原裁  
 判所ニ於テ一人ノ被告人ニ對シ二罪アリト認メ刑法第百條ヲ適用シ  
 一ノ重キニ從ヒ刑ヲ言渡シ其輕キ罪ニ付キ刑ヲ言渡サ、ル場合ニ被  
 告人單ニ其重キ罪ノミニ付控訴シ無罪ヲ主張シ控訴裁判所ニ於テ其  
 理由ヲ正當ナリトスルトキハ單ニ其罪ニ關スル判決ヲ取消シ無罪ヲ  
 言渡スニ止ムヘキ乎或ハ又本法第二百八十九條ヲ準用シ控訴ニ係ラ  
 サル輕易ノ犯罪ニ關スル判決ヲモ取消シ更ラニ相當ノ刑ヲ言渡スヘ  
 キヤ否ヤ 控訴裁判所ハ控訴申立ニ係ル事項ニ非サレハ判決シ得サ  
 ルモノナレハ控訴ニ係ラサル輕易ノ犯罪ニ付キ判決ヲ爲シ得サルハ  
 言ヲ俟タサル處トス而テ第二百八十九條ニ所謂ル判決ノ一分トハ一

箇ノ判決中ノ或ル部分ヲ指稱シタルモノニテ數罪俱發中ノ一個ノ判  
 決ヲ云フモノニアラサレハ第二百八十九條ノ規定ハ本問場合ニ援用  
 スルヲ得サルモノナリ但シ本問場合ニ於テハ余ノ說ニ依ルトキハ重  
 キ罪ニ對スル刑ヲ取消シタル爲メ輕キ罪ノ刑ヲ免レシムルノ結果ヲ  
 見ルニ至ルヘシ然レモ個ハ余カ說ヨリ生スル結果ニアラス第一審裁  
 判所ニ於テ各個ノ犯罪ニ付キ各刑ヲ定メサリシノ過失ニ因ルモノナ  
 リ

第二百六十二條 控訴裁判所ニ於テハ原裁判所ノ

管轄違ナルコトヲ認メタルトキハ原判決ヲ取消  
 ス可シ此場合ニ於テ勾留ヲ要スルモノト認メタ  
 ルトキハ前勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ勾留狀ヲ發シ  
 其事件ヲ檢事ニ交付ス可シ



原裁判所ニ於テ不當ニ管轄違ヲ言渡シタルトキ  
ハ其判決ヲ取消シ事件ヲ其裁判所ニ差戻ス可シ

本條ハ管轄ニ關スル控訴裁判所ノ判決并ニ其後ノ手續ニ關スル規定  
ナリトス

管轄ニ關スル控訴裁判所ノ判決ヲ別テ三トス第一控訴棄却ノ判決第  
二原判決取消ノ判決第三原判決ヲ取消シ更テニ本案ニ付キ爲ス判決  
是ナリ

第一控訴棄却ノ判決 管轄ニ關スル第一審判決ニ對シ控訴アリタル  
トモ亦タ第一審判決ニ瑕疵ナキトハ控訴棄却ノ判決ヲ爲スヘキモノ  
トス

第二原判決取消ノ判決 控訴裁判所ニ於テ第一審裁判所ハ其事件ニ  
付キ管轄權ヲ有セスシテ本案ニ付キ判決ヲ爲シタルコトヲ認メタル

トキハ單ニ第一審判決ヲ取消スノ判決ヲ爲シ得ルノミニテ其本案ニ  
付テハ判決シ得サルモノナリ何トナレハ控訴裁判所ハ其事件ニ付キ  
第一審ノ判決ヲ爲スノ權限ヲ有セサレハナリ但シ此場合ニ於テハ控  
訴裁判所ハ被告人ヲ勾留スルヲ要スト認ムルトキハ第一審裁判所カ  
發シタル前勾留狀ヲ存續シ若シ又未ダ之ヲ發シアラサルトキハ新ダ  
ニ之ヲ發スルコトヲ得ヘシ其理由ハ第二百二十二條第二項ノ理由ト  
同一ナルヲ以テ茲ニ再ダヒ贅セス

控訴裁判所ハ右管轄違ノ判決ヲ爲シタルトキハ其裁判所所屬ノ檢事  
ヲシテ管轄裁判所ノ檢事ニ送付セシムル爲メ其事件ハ之ヲ檢事ニ交  
付スヘキモノトス

若シ第一審裁判所カ其事件ニ付正當ニ管轄權ヲ有スル場合ニ不當ニ  
管轄違ノ言渡ヲ爲シタルトキハ之ニ對スル控訴ヲ受理シタル控訴裁



判所ハ前場合ト同シク單ニ原判決ヲ取消スニ止メ本案ニ付判決ヲ與フルヲ得サルモノナリ而テ此場合ニ於テハ本案ニ付キ判決セシムル爲メ其事件ハ之ヲ原裁判所ニ差戻スヘキモノトス

第二百六十三條 前條第一項ノ場合ニ於テ控訴ヲ

受ケタル地方裁判所自ラ其事件ニ付キ第一審ト

シテ裁判權ヲ有スルトキハ更ニ其事件ニ付キ判

決ヲ爲ス可シ但事件重罪ナルトキハ第二百四十

一條ノ規定ニ從ヒ處分ス可シ

第三ノ判決ハ次條ノ規定スル所ナルヲ以テ次條ニ於テ之ヲ説明セン本條モ亦タ管轄ニ關スル控訴裁判所ノ判決ト其審査手續ニ關スル規定ナリ

控訴裁判所ニ於テ原判決ハ管轄違ナルコト又ハ不當ニ管轄違ヲ言渡

タルモノナルコトヲ認メタルトキハ單ニ原判決ヲ取消スニ止マルヘキコトハ前條ニ説明シタル所ノ如シ然レモ其例外ナキニアラス即チ區裁判所カ爲シタル判決ニ對スル控訴ニシテ之ヲ受ケタル地方裁判所ハ自ラ其事件ニ付キ第一審ノ裁判權ヲ有スルトキハ原判決ヲ取消スニ止マラス進ンテ本案ニ付判決ヲ爲シ得ルモノナリ何トナレハ地方裁判所ハ元來其事件ノ本案ニ付第一審ノ裁判權ヲ有スルモノナレハ之ヲ他裁判所ニ送付セントスル如キハ無益ノ手續ナルヲ以テナリ而テ若シ其事件重罪ナル場合ニ於テハ第二百四十一條ノ規定ニ從ヒ其事件未ダ豫審ヲ經サルモノナレハ之ヲ豫審判事ニ送付スルノ決定ヲ爲シ被告人未ダ勾留ヲ受ケサルトキハ之ニ對シ勾留狀ヲ發スヘキナリ若シ又其事件既ニ豫審ヲ經タルモノナルトキハ公判ヲ止メ更ラニ重罪事件トシテ裁判スヘキノ決定ヲ爲シ受命判事ヲ選任シ其事件



ノ取調ヲ爲サシメ且ツ其報告ヲ爲サシムヘキモノトス

第二百六十四條 控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪

ナリト判決シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ又  
ハ其事件ヲ重罪ナリトシテ主タル控訴又ハ附帶  
控訴アリタルトキハ其公判ヲ止メ更ニ重罪事件  
トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ヲシ  
テ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム可シ  
受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ  
得

本條ノ場合ニ於テ被告人辯護人ヲ選任セサルト

キハ第二百三十七條第二項ノ規定ニ從ヒ裁判長

ノ職權ヲ以テ辯護人ヲ選任ス可シ

本條ハ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ヲ控訴院ニ於テ重罪  
ナリトスルトキ又ハ其事件ヲ重罪ナリトシテ主タル控訴若クハ附帶  
控訴アリタルトキノ處分方法ヲ定メタルモノナリ

地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ヲ控訴院ニ於テ重罪ナリト  
スルトキ又ハ檢事ニ於テ重罪ナリトノ申立ヲ爲シタルトキハ控訴院  
ハ其公判ヲ中止シ重罪事件トシテ裁判スル旨ノ決定ヲ爲シ受命判事  
ヲシテ其取調并ニ報告ヲ爲サシムヘキモノナリ而テ本條ノ場合ニ於  
テハ前條ノ場合ト異ナリ其事件未ダ豫審ヲ經サルモノナルト否トヲ  
問ハス常ニ受命判事ニ委付スルモノニシテ豫審判事ニ送付スヘキモ  
ノニアラス是蓋シ控訴院ニハ豫審判事ナキヲ以テナリ

右受命判事ハ豫審判事ニ屬スル一切ノ處分ヲ爲シ得ルモノトス

本條ノ場合ニ於テ被告人辯護人ヲ選任セサルトキハ第二百三十七條



ノ規定ニ從ヒ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ選任スヘキモノトス

第二百六十五條 被告人辯護人又ハ法律上代理人

ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被

告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サス

被告人ノ利益ノ爲メ檢事ヨリ控訴ヲ爲シタルト

キ亦同シ

本條ハ控訴裁判所ノ判決ニ制限ヲ設ケタル規定ナリ

被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シ相手方ヨリ附帶控訴  
ヲ爲サ、ルトキハ控訴裁判所ハ原判決ヲ變更シ被告ノ不利益ト爲ス  
ヲ得ス例エハ原裁判所ニ於テ被告人ハ重罪ノ犯人ナルコトヲ認メ之  
ニ科スルニ過テ違警罪ノ刑ヲ以テシタルニ被告人ハ無罪ヲ主張シ控  
訴ヲ爲シタリ此場合ニ於テ檢事ヨリ重罪ナリトノ附帶控訴ヲ爲サ、

ルトキハ控訴裁判所ニ於テ其事件ノ重罪ナルコト明確ナリトシ之ニ  
科スルニ違警罪ノ刑ヲ以テシタルハ違法ナルコトヲ認ムト雖モ原判  
決ヲ變更シ更テニ重キ刑ヲ科スルヲ得サルカ如シ

凡ソ裁判所ハ自由ノ意思ヲ以テ法律ノ解釋ヲ爲シ之ヲ事件ノ審査ニ  
因リ得タル結果即チ事實ニ適用スルニ於テモ亦敢テ他ヨリ繫制ヲ受  
ケス自ラ正當ナリト信スル判決ヲ爲シ得ルヲ理ノ當然ナリトス然ル  
ニ本條ニ於テ控訴裁判所ノ判決ニ一ノ制限ヲ設ケタル所以ハ如何ナ  
ル理由ニ基クモノナルヤ是レ須ラク考究スヘキ所ナリ而テ其理由ハ  
抑モ裁判所カ自由意思ヲ以テ法律ヲ解釋シ又チ被告事件ノ事實ヲ認  
定シ法律ヲ其事實ニ適用スルニモ亦チ何等ノ繫制ヲ受クヘカラサル  
ハ重要ノ原則タルニ相違ナシト雖モ裁判所ハ訴ヲ受ケサル事件ニ付  
キ裁判スヘカラストノ原則モ亦チ同シク重要ノ規則ナリトス而テ被



告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シ相手方附帶控訴ヲ爲サ  
 ル場合ニ於テハ右二箇ノ原則両立スル能ハサルニ因リ孰レカ其一  
 ヲ撰ハサルヘカラス然ルニ若シ前段ノ原則ヲ採ラシ乎控訴ノ制ヲ設  
 ケタル精神ニ反戻スヘシ何トナレハ控訴ハ元來控訴人ノ利益ノ爲メ  
 設ケタルモノナルニ其制反テ控訴人ノ不利益ヲ生スル場合アルヘキ  
 ナリ以テナリ之ニ反シ後段ノ原則ヲ採ラシ乎惟リ控訴ノ制ヲ設ケタル  
 精神ヲ達シ得ヘキノミナラス其爲メ毫モ不利益ヲ被ムル者アルユト  
 ナシ是レ本條ノ制限アル所以ナリ

或ハ曰ン本條ノ制限アルカ爲メ被告人ハ控訴ヲ爲スモ不利益ナル判  
 決ヲ受クルユトナキニ因リ控訴濫起ノ弊ヲ生セント是レ憂フルニ足  
 ラサルノ言ノミ何トナレハ若シ夫レ瑕瑾ナキノ判決ニ對シ控訴セン  
 乎其控訴棄却セラレシテ而テ棄却ノ場合ニハ被告人ハ惟リ訴訟費用ヲ

負擔スヘキノミナラス其刑期ハ刑法第五十一條第一號ニ依リ前判決  
 宣告ノ日ヨリ起算セスシテ控訴判決宣告ノ日ヨリ起算スヘキヲ以テ  
 其不利益僅少ナラサルニ因リ濫リニ控訴スルユトアルヘカテサレハ  
 ナリ

檢事ハ社會ヲ代表シテ公訴權ヲ行使スルノ責アルノミナラス一方ニ  
 於テハ公益ヲ保護スルノ任務アルモノナレハ處刑重キニ過キルト信  
 スル場合ニハ被告人ノ利益ノ爲メニモ亦控訴シ得ルモノトス而テ前  
 段説明シタル本條ノ規定ハ總テ此控訴ノ場合ニモ亦適用スヘキモノ  
 ナリ

茲ニ一ノ疑問アリ檢事ニ於テ前判決ノ刑ハ輕キニ失スト主張シ控訴  
 ヲ爲シタルニ被告人ヨリ附帶控訴ヲ爲サ、ルトキハ控訴裁判所ハ必  
 ラス前判決ノ刑ヲ科スル乎若クハ前判決以上ノ刑ヲ科スヘキモノニ



テ前判決ノ刑ヲ輕減シ得サルモノナルヤ否ヤ例ニハ第一審裁判所ニ於テ被告人ヲ重禁錮二年ノ刑ニ處シタル場合ニ檢事ハ其刑輕キニ失スルモノトシ控訴シ被告人附帶控訴ヲ爲サ、ルトセシニ控訴裁判所ハ必ラス二年以上ノ刑ヲ言渡スヘキ乎或ハ又其以下ノ刑ヲ以テ相當ナリト信スルトキハ其以下ノ刑ニ處シ若クハ無罪免訴ノ判決ヲモ爲シ得ルモノナル乎余ハ此場合ニ於テハ前刑ヲ輕減シ若クハ無罪又ハ免訴ノ判決ヲ爲シ得ルモノト信ス其理由ハ抑モ檢事カ公訴權ヲ行使スルハ社會ノ公益ヲ保護セシカ爲メナリ而テ社會ノ公益ハ被告人ニ過重ノ刑罰ヲ加フルニアラス至正ナル法律ノ解釋ト至當ナル其適用トヲ得ルニ在リ故ニ檢事ノ控訴スルハ畢竟至正至當ノ判決ヲ得ントスルニ外ナラス是ヲ以テ設例ヒ被告人ニ利益ナル判決ト雖モ至正至當ナル以上ハ之ヲ社會ニ不利益ナル判決ト云テ得ス反テ社會ノ公益

ハ十分ニ保護セラレタルモノト云フヘシ是レ檢事カ控訴シタル場合ニハ控訴裁判所ハ前判決ヲ被告人ノ利益ニ變更シ得ル所以ナリ民事原告人カ私訴ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲シタルトキニ被告人ニ於テ附帶控訴ヲ爲サ、ル場合ニ於テモ亦タ控訴裁判所ハ被告人ノ利益ノ爲メニ前判決ヲ變更シ賠償額ヲ減少シ得ルモノナルヤ被告人ニ於テ附帶控訴ヲ爲サ、ル以上ハ被告人ハ前判決ニテ言渡タル損害額ヲ相當トセルモノト認メサルヘカラス加之ナラス民事原告人ハ其利益ノ爲メ控訴ヲ爲シタルニ其請求外ニ奔逸シ賠償額ヲ減少スル如キハ不當タルヲ免レス故ニ此場合ニ於テハ控訴裁判所ハ前判決以上ノ賠償額ヲ言渡ス乎或ハ前判決ノ言渡額ヲ認可スルニ止メサルヘカラス

**第二百六十六條 控訴申立人出頭セサルトキハ闕席判決ヲ以テ控訴ヲ棄却シ相手方出頭セサルト**



キハ申立人ノ意見ヲ聽キ闕席判決ヲ爲ス可シ

本條ハ控訴審ニ於ケル闕席判決ニ關スル規定ナリトス

控訴審ニ於ケル闕席判決ニモ亦タ第一審ニ於ケル闕席判決ト同シク二種アリ第一控訴申立人ニ對スル闕席判決第二其相手方ニ對スル闕席判決是ナリ

第一 控訴申立人合式ノ呼出ヲ受ケ開延期日ニ出頭セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ申立人闕席ノ儘控訴棄却ノ判決ヲ爲スヘキモノトス何トナレハ此場合ニ於テハ申立人ハ控訴權ヲ拋棄シタルモノト看做シ得ヘキヲ以テナリ

第二 合式ノ呼出ヲ受ケ相手方開延期日ニ出頭セサルトキハ其相手方ハ抗辯權ヲ拋棄シタルモノト看做シ單ニ控訴申立人ノ意見ノミヲ聽キ闕席ノ儘判決ヲ爲スヘキモノトス然レモ控訴申立人ニ於テ闕席

ノ判決ヲ希望セサルトキハ更ラニ期日ヲ定メ辯論ヲ再開スルモ妨ケナシ

右第一ノ場合ト第二ノ場合トノ間ニ存スル差異ハ第一ノ場合ニ於テハ其事件ニ付キ何等ノ取調ヲ爲スヲ要セス單ニ出頭セサルノ一理由ヲ以テ控訴棄却ノ言渡ヲ爲スヘシト雖モ第二ノ場合ニ於テハ必ラス其事件自体ニ付審査ヲ遂ケ前判決當否ノ裁判ヲ與フヘキノ点ニ存ス本條ノ欠席者ハ第一審裁判所ニ於ケル欠席者ノ如ク欠席判決ニ對シ故障ヲ申立テ得ルヤ否ヤ 本條ノ欠席判決ニ對シテハ故障ヲ許サスト唱フル論者アリト雖モ余ハ本條ノ欠席判決ニ對シテモ亦タ勿論故障ヲ申立テ得ルモノト信ス何トナレハ地方裁判所ノ第一審ニ關スル規定ハ總テ控訴ノ裁判ニ付テモ之ヲ適用スヘキコトハ第二百五十八條ノ明規スル所ナレハナリ



本條ニハ單ニ控訴申立人出頭セサルトキハ云々トアルヲ以テ其控訴申立人檢事ナルトキモ亦タ本條ノ規定ヲ適用シ期日檢事出頭セサル場合ニハ之ニ對シ欠席判決ヲ爲スヘキカ如シト雖モ公判通則ニ於テ説述シタル如ク檢事ハ裁判所ヲ構成スル部員ニシテ其出席ナキトキハ裁判所ハ適法ニ構成サレタルモノト云フヘカラサルヲ以テ檢事欠席セル場合ニ於テハ本條ノ規定ヲ適用スルヲ得サルモノトス故ニ本條ニ所謂ル控訴申立人トハ檢事以外ノ控訴申立人ヲ指稱シタルモノト解セサルヘカラス

### ○第三章 上告

上告ハ非常上訴ノ一ニシテ原裁判ノ事實ノ當否ヲ審査スルモノニアラス唯タ原裁判所法律ノ規定シタル手續ニ因リ審判シタルヤ否ヤ又ハ其認メタル事實ニ適當ノ法則ヲ適用シタルヤ否ヤ即チ原判決ハ法律ニ違背シタル点ナキヤ否ヤヲ審判シ其誤謬ヲ更正スルヲ目的トスルモノナリ

上告裁判所ハ必ラス原裁判所ヨリ上級ノ裁判所ナラサルヘカラス何トナレハ原判決ヲ監査スル裁判所ナレハナリ故ニ地方裁判所カ第二審ニ於テ爲シタル判決ニ對スル上告ハ控訴院ニ於テ之ヲ受理シ控訴院カ第二審ニ於テ爲シタル判決ニ對スル上告ハ太審院ニ於テ之ヲ受理スルモノナリ(裁判所構成法第三十七條第五十條)

凡ソ法律ノ解釋ト適用トハ全國一途ニ出ツルヲ國家ノ幸福トスル所ナルハ論ヲ俟タス故ニ其解釋ト適用トノ當否ヲ定ムル上告裁判所ハ全國惟一ノ裁判所ト爲スヘキヲ條理ニ於テ然リトス然レモ元來上告ハ單ニ法律ノ解釋ト適用トヲ統一ニセンカ爲メニ設ケラレタルモノニアラス主トシテ訴訟關係人ノ利益ノ爲メ設ケラレタルモノナレハ



努メテ訴訟關係人ノ利益ヲ保護スルノ方策ヲ採テサルヘカラス然ルニ上告裁判所ヲ全國惟一ノモノトセン乎僅小ナル事件ノ上告ヲ爲サントスルモ數百里ヲ隔タル裁判所ニ之ヲ爲サ、ルヘカラス其爲メ徒費スル所ノ日子ト金錢トハ蓋シ僅少ナラサルヘシ之ニ反シ或種ノ事件ニ付キ數箇所ニ上告裁判所ヲ設ケン乎其弊ヲ免ル、ヲ得テ訴訟關係人ノ利スル所小ナラサルヘシ是レ區裁判所ノ判決ニ對スル上告ヲ受理スルノ權限ヲ各控訴院ニ付與シタル所以ナリ

第二百六十七條 上告ハ地方裁判所又ハ控訴院ノ

第二審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ第百八十

七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對シ之ヲ爲ス

コトヲ得

本條ハ上告ヲ爲シ得ヘキ判決ヲ定メタルモノナリ

上告ハ地方裁判所又ハ控訴院カ第二審ニ於テ爲シタル本案ノ判決并ニ第百八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對スルニアラサレハ爲シ得サルモノトス故ニ上告ヲ爲スニハ左ノ二條件ヲ要ス

第一、判決ナルコトヲ要ス 裁判所ノ判斷ハ獨リ判決ニ止マラス猶ホ決定命令ナルモノアリ然レモ上告ハ必ラス判決ニ對スルニアラサレハ爲ス能ハサルナリ

然レモ判決ナル以上ハ其對席判決ナルト關席判決ナルトハ敢テ問フ所ニアラス舊治罪法ニ於テハ第三百四十六條第三百七十一條及ヒ第四百三條ニ於テ對席ノ裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得トアリシヲ以テ關席判決ニ對シテハ上告ヲ爲シ得サリシト雖モ本法ニ於テハ單ニ第二審ニ於テ爲シタル云々トアルヲ以テ第二審ノ判決ナルトキハ關席ト對席トヲ問ハス上告ヲ許シタルモノト解セサルヘカラス



第二、第二審ノ判決ナルコトヲ要ス 若シ第一審ノ判決ナルトキハ直ニ非常上訴ナル上告ニ因リ不服ヲ唱フルヲ要セス普通上訴ナル控訴ノ方法ニ因リ原判決ヲ更正セシムルノ途アルナリ是レ第一審判決ニ對シ直ニ上告スルヲ許サ、ル所以ナリ

然レ此規則ニハ一ノ例外アリ即裁判所構成法第百九條ニ依リ裁判所カ爲ス判決ニ對シテハ直チニ上告ヲ爲シ得ルモノトス是レ蓋シ此場合ニ於テハ控訴ヲ許サ、ルヲ以テナリ

茲ニ注意スヘキハ上告ヲ爲スニハ必ラス終局ノ判決ナラサルヘカラスト説ク者アリ然レモ余ハ終局判決ニアラサル判決ニ對シテモ亦ダ上告ヲ爲シ得ヘキモノト信ス何トナレハ夫ノ第百八十七條ニ規定セル本案前ノ判決ハ決シテ之ヲ終局判決ト云フヘカラス(其理由ハ曩キニ已ニ説明セリ)然ルニ本條ニ於テハ現ニ其判決ニ對シ上告ヲ許セル

ヲ以テナリ

第二百六十八條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ

得

法則ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルトキハ法

律ニ違背シタルモノトス

本條ハ上告ノ理由ヲ定メタルモノナリ

上告ハ控訴ト異ナリ法定ノ理由アルトキニアラサレハ爲シ得サルモノナリ而テ法定ノ理由トハ即チ原判決ハ法律ニ違背シタル判決ナリトノ理由是ナリ

原判決ハ如何ナル場合ニ法律ニ違背シタルモノナルヤハ本條第二項ノ定ムル所ニシテ原裁判所カ法則ヲ適用セス又ハ之ヲ不當ニ適用シ



タルトキハ其裁判ハ法律違背ノ裁判ナリトス例ヘハ重罪事件ノ被告人ニハ必ラス辯護人ヲ選任スルヲ要ス(第二百三十七條)然ルニ原裁判所ハ辯護人ナクシテ其事件ノ審査判決ヲ爲シタルカ如シ又々民事原告人ハ被告事件ノ証人ト爲ルヲ得サルモノナリ然ルニ原裁判所ハ之ヲ証人ト爲シ其証言ニ因リ判決ヲ爲シタルトキノ如シ

第二百六十九條 裁判ハ左ノ場合ニ於テ常ニ法律

ニ違背シタルモノトス

第一 規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ

第二 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレ

タル判事裁判ニ參與シタルトキ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除斥ノ理由ヲ主張シタル

モ其效ナカリシトキハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

第三 判事忌避セラレ其忌避ノ申請ヲ理由アリト認メタルニ拘ハラヌ裁判ニ參與シタルトキ

第四 裁判所ニ於テ管轄又ハ其管轄違ヲ不當ニ認メタルトキ

第五 法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セサルトキ

第六 法律ニ定メタル場合ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽カサルトキ

第七 裁判所ニ於テ請求ヲ受ケタル事件ニ付



判決ヲ爲サス又ハ職權ヲ以テ判決スルコト  
ヲ得ヘキ場合ヲ除ク外請求ヲ受ケサル事件  
ニ付キ判決ヲ爲シタルトキ

第八 判決ヲ公行セス又ハ公開ヲ禁スル言渡  
ナクシテ辯論ヲ公ニセサルトキ

第九 裁判ニ理由ヲ付セス又ハ其理由ノ齟齬  
アルトキ

第十 擬律ノ錯誤アルトキ

本條ハ裁判カ法律ニ違背シタル場合ヲ定メタルモノナリ  
裁判ハ左ノ場合ニ於テハ常ニ法律ニ違背シタルモノトス  
第一、規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサルトキ 凡ソ裁判所ハ法律ノ  
規定ニ從ヒ構成シテ始メテ裁判ヲ爲スノ權限ヲ有スルモノナリ故ニ

判決裁判所ヲ構成セスシテ爲シタル判決ハ判決ノ假面ヲ被ムルモ判  
決トシテ有効ニ成立スヘキモノニアラス是其判決ニ對シ上告ヲ許ス  
所以ナリ例ヘハ地方裁判所ニ於テ單獨判事ニテ審査判決シ又ハ控訴  
院ニ於テ三名ノ判事ノ立會ヲ以テ審査判決シタル場合若クハ檢事又  
ハ書記ノ立會ナクシテ審査判決シタル場合ニ於テハ裁判所ノ構成ニ  
瑕瑾アルヲ以テ其判決ニ對シテハ常ニ上告ヲ爲シ得ルカ如シ  
第二、法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事裁判ニ參與シタ  
ルキ 凡ソ裁判ハ適實公平ヲ得ルヲ以テ重要トス而テ判事其訴訟ニ  
關係アル乎或ハ當事者ト親戚ノ關係アル場合ニ其判事ヲシテ裁判ニ  
參與セシムルトキハ其裁判偏頗ニ流ル、ノ虞ナキニアラス是ヲ以テ  
本法第四十條ハ其列記セル四箇ノ場合ニハ判事ハ職務執行ノ能力ヲ  
失フトノ規定ヲ爲セリ若シ此規定アルニ拘ハラズ判事裁判ニ參與シ